

福 里 遺 跡  
大 谷 口 遺 跡  
北 池 向 遺 跡  
山 田 辻 番 遺 跡

瀬戸内市道南北線建設に伴う発掘調査

2009

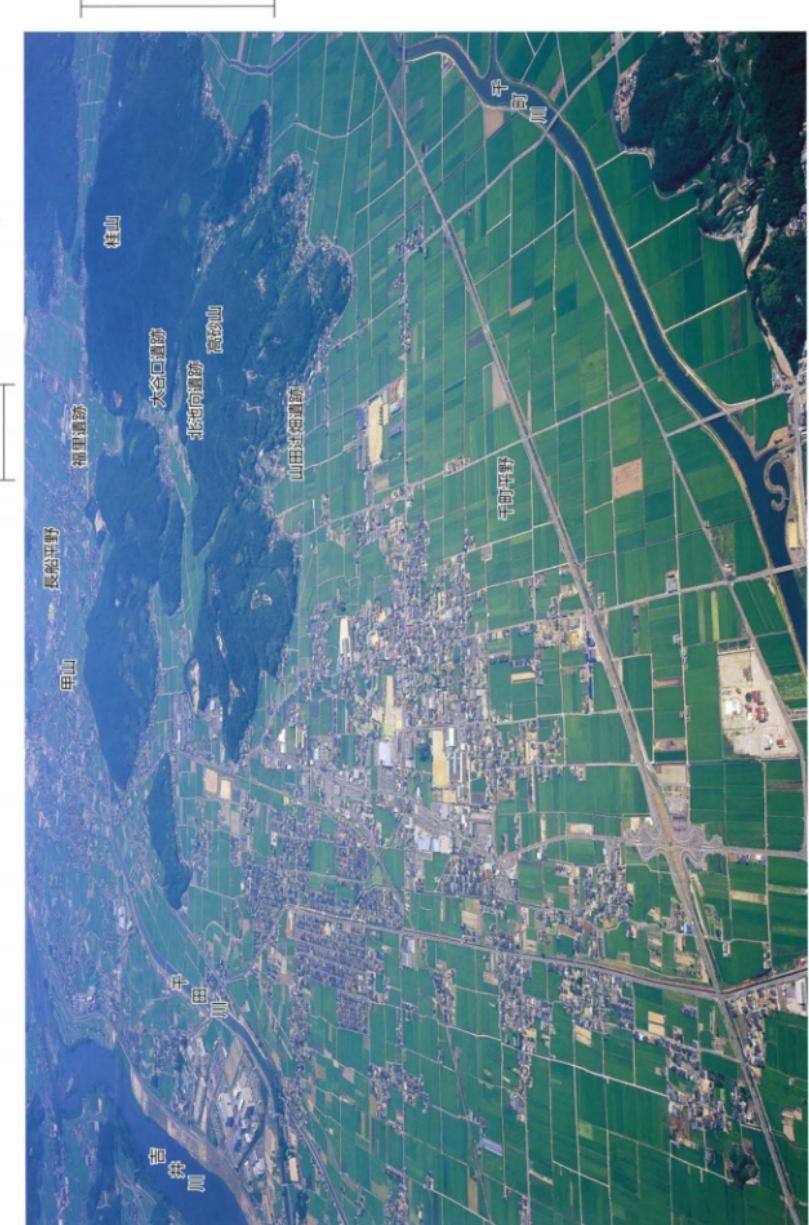
瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会  
瀬戸内市教育委員会

福 里 遺 跡  
大 谷 口 遺 跡  
北 池 向 遺 跡  
山 田 辻 番 遺 跡

瀬戸内市道南北線建設に伴う発掘調査

2009

瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会  
瀬戸内市教育委員会



遠跡周辺航空写真（南上空から）

## 巻頭図版 2



1 大谷口遺跡遠景（北上空から）



2 山田辻畠遺跡遠景（南上空から）



1 大谷口遺跡調査区 1 出土遺物



2 大谷口遺跡調査区 4 出土遺物

## 卷頭図版 4



1 大谷口遺跡調査区 9 出土遺物



2 山田辻遺跡出土遺物

## 序

瀬戸内市道南北線は、長船町土師と邑久町山手を結んで、既存道路と連結する延長約4キロの基幹道路として計画されました。

一方、計画地内には、福里遺跡、大谷口遺跡、北池向遺跡、山田辻畠遺跡の4つの遺跡が存在することから、遺跡の保護・保存について関係機関と繰り返し協議してきましたが、遺跡の現状保存が困難な部分については発掘調査を行い、記録保存の措置を講じることとなりました。

発掘調査にあたり、専門委員並びに瀬戸内市関係行政機関の職員からなる瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会を設置し発掘調査及び資料整理を行ってきました。

発掘調査の結果、大谷口遺跡からは、多量の須恵器や窯壁が出土しました。また、特殊な遺物として円面鏡も出土しました。このことから、遺跡付近に新たに須恵器の窯跡が存在する可能性が高まりました。また、山田辻畠遺跡ではヤマトシジミで構成される縄文時代の貝塚を初めて検出するなどの成果をあげることができました。

今回の調査成果が、地域史解明の資料として、また文化財保護の一助として活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施・報告書の作成にあたりまして、瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会の先生方から、有益なご指導・ご助言を賜りました。また、岡山県教育委員会をはじめ関係各位、さらに地元の方々からも多大なご協力を賜りました。関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会  
委員長（瀬戸内市教育委員会教育長）

日下 弘海

## 例　言

1. 本報告書は、瀬戸内市道南北線建設に伴い瀬戸内市との委託契約に基づき、瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会が平成19・20年度の2ヵ年で発掘調査を実施した福里遺跡、大谷口遺跡、北池向遺跡、山田辻畠遺跡の発掘調査報告書である。
2. 福里遺跡は瀬戸内市長船町土師地内、大谷口遺跡は瀬戸内市長船町土師・邑久町北池地内、北池向遺跡は瀬戸内市邑久町北池地内、山田辻畠遺跡は瀬戸内市邑久町山手地内に所在している。
3. 発掘調査及び本報告書の作成は、大谷博志が担当して実施した。調査面積は、1,823 m<sup>2</sup>である。
4. 本報告書掲載の巻頭図版の空中写真撮影は、島写真事務所に委託した。
5. 本報告書の遺物の写真撮影は、有限会社柳生写真館に委託した。
6. 本報告書に使用した遺構図面のトレース及び出土遺物の実測・拓本・トレースについては、一部を除きフジテクノ有限公司に委託した。
7. 本調査で出土した遺物の胎土分析は、岡山理科大学自然科学研究所講師白石純氏に依頼し有益なご教授を得るとともに成果について付載の報告文をいただいた。記して厚くお礼申し上げます。
8. 発掘調査で出土した出土遺物及び実測図・写真等は瀬戸内市教育委員会社会教育課（岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓4911）に管理保管している。
9. 本書をまとめるにあたっては、以下の方々及び機関の協力を得た。記して感謝の意を表します。  
　　亀田修一、島隆謙、白石純、富岡直人、西井洋之、光永真一、岡山県教育委員会、岡山理科大学

## 凡　例

1. 本報告書に使用したレベルは、すべて海拔高である。
2. 本書に使用した方位は、調査区配置図は真北で、調査区の平面図はすべて磁北である。
3. 図面縮尺については明記しており、主なものについては以下のように統一している。

遺構

　調査区配置図：1/500　　調査区平断面図：1/50・1/100

遺物

　土器：1/4　　土製品：1/4　　石器：1/1

4. 掘載遺物については、土器・土製品・石器に分けて通し番号を付け、土器以外には下記略号が番号の前に付している。  
　　土製品：C 石器 S
5. 圖版のうち遺物写真に付した番号は、挿図の遺物番号と一致する。
6. 遺物断面の黒塗は須恵器、白抜きは縄文土器・土師器、右斜め斜線は土製品、左斜め斜線は石器を示す。
7. 土層断面に使用した土色は、調査員の記述に従った。
8. 遺物の色調は、「新版標準土色帖」に従った。
9. 本報告書の第2図は『改訂岡山県遺跡地図』(第6分冊岡山地区)を複製・加筆したものである。
10. 本報告書の時代区分・時期区分は一般的な政治史区分に準拠し、それを補うために世紀などを併用している。

# 目 次

## 巻頭図版

序

例言

凡例

目次

第1章	遺跡の位置と環境	1
第1節	地理的環境	1
第2節	歴史的環境	3
第2章	調査の経過及び体制	7
第1節	調査に至る経過	7
第2節	調査の経過	7
第3節	調査の体制	9
第4節	報告書の作成	11
第3章	調査の概要	13
第1節	福里遺跡	13
第2節	大谷口遺跡	19
第3節	北池向遺跡	46
第4節	山田辻畠遺跡	54
第4章	まとめにかえて	67
第1節	遺跡の意義について	67
第2節	出土遺物について	69
付載	大谷口遺跡出土須恵器の胎土分析	81
遺物観察表		89
図版		
報告書抄録		

## 図 目 次

第 1 図 遺跡位置図	1
第 2 図 周辺の遺跡分布図	2
第 3 図 福里遺跡調査区配置図	15
第 4 図 福里遺跡調査区 1 東壁断面図	17
第 5 図 福里遺跡調査区 2 西壁断面図	17
第 6 図 福里遺跡調査区 3 東壁断面図	17
第 7 図 福里遺跡調査区 4 東壁断面図	17
第 8 図 大谷口遺跡調査区配置図 (1)	25
第 9 図 大谷口遺跡調査区配置図 (2)	27
第 10 図 大谷口遺跡調査区 1-1 東壁・西壁・南壁断面図	29
第 11 図 大谷口遺跡調査区 1-2 東壁・西壁・南壁断面図	30
第 12 図 大谷口遺跡調査区 2 北東壁断面図	31
第 13 図 大谷口遺跡調査区 3 東壁断面図	31
第 14 図 大谷口遺跡調査区 4-1 南壁断面図	31
第 15 図 大谷口遺跡調査区 5 南壁断面図	33
第 16 図 大谷口遺跡調査区 6-1 北壁断面図	33
第 17 図 大谷口遺跡調査区 6-2 西壁断面図	33
第 18 図 大谷口遺跡調査区 7 東壁断面図	35
第 19 図 大谷口遺跡調査区 8 平面図	35
第 20 図 大谷口遺跡調査区 9 平面図	37
第 21 図 大谷口遺跡調査区 9 南西壁断面図	37
第 22 図 大谷口遺跡調査区 10 西壁断面図	39
第 23 図 大谷口遺跡調査区 10 平面図	39
第 24 図 大谷口遺跡調査区 11 東壁断面図	39
第 25 図 大谷口遺跡調査区 12 東壁断面図	41
第 26 図 大谷口遺跡調査区 13 東壁断面図	41
第 27 図 大谷口遺跡調査区 14 西壁断面図	43
第 28 図 大谷口遺跡調査区 15 西壁断面図	43
第 29 図 大谷口遺跡調査区 17 東壁断面図	45
第 30 図 北池向遺跡調査区配置図	49
第 31 図 北池向遺跡調査区 1 東壁断面図	51
第 32 図 北池向遺跡調査区 2 東壁断面図	51
第 33 図 北池向遺跡調査区 3 東壁断面図	51
第 34 図 北池向遺跡調査区 4 東壁断面図	53
第 35 図 北池向遺跡調査区 5 東壁断面図	53

第 36 図	山田辻畠遺跡調査区配置図	57
第 37 図	山田辻畠遺跡調査区 1 西壁断面図	59
第 38 図	山田辻畠遺跡調査区 2 北壁断面図	59
第 39 図	山田辻畠遺跡調査区 3 東壁断面図（調査区 3 東擴張区）	61
第 40 図	山田辻畠遺跡調査区 3 中央断面図	61
第 41 図	山田辻畠遺跡調査区 3 平面図	63
第 42 図	山田辻畠遺跡調査区 3 東壁断面図	64
第 43 図	山田辻畠遺跡調査区 3 貝塚西壁断面図	64
第 44 図	山田辻畠遺跡調査区 4 北壁断面図	65
第 45 図	山田辻畠遺跡調査区 5 北壁断面図	65
第 46 図	大谷口遺跡調査区 1 出土遺物	74
第 47 図	大谷口遺跡調査区 4 出土遺物 (1)	74
第 48 図	大谷口遺跡調査区 4 出土遺物 (2)	75
第 49 図	大谷口遺跡調査区 4 出土遺物 (3)	76
第 50 図	大谷口遺跡調査区 4 出土遺物 (4)	77
第 51 図	大谷口遺跡調査区 5・6・12・17 出土遺物	77
第 52 図	大谷口遺跡調査区 9 出土遺物 (1)	77
第 53 図	大谷口遺跡調査区 9 出土遺物 (2)	78
第 54 図	大谷口遺跡出土石器	78
第 55 図	山田辻畠遺跡調査区 3 出土遺物	79

## 図 版 目 次

巻頭図版 1 遺跡周辺航空写真

巻頭図版 2 大谷口遺跡遠景・山田辻畠遺跡遠景

巻頭図版 3 大谷口遺跡調査区 1 出土遺物・大谷口遺跡調査区 4 出土遺物

巻頭図版 4 大谷口遺跡調査区 9 出土遺物・山田辻畠遺跡出土遺物

図版 1 福里遺跡調査区 1 完掘状況・調査区 2 土壌 1 調査状況・調査区 2 完掘状況

図版 2 福里遺跡調査区 3 完掘状況・調査区 3 W 完掘状況・調査区 4 完掘状況

図版 3 福里遺跡調査区 4 東壁土層断面・調査区 4 W 完掘状況・調査区 3 重機掘下げ状況

図版 4 大谷口遺跡調査区北部近景・調査区中央部近景・調査区南部近景

図版 5 大谷口遺跡調査区 1-1 東壁土層断面・調査区 1-1 西壁土層断面・調査区 1-2 西壁上層断面

図版 6 大谷口遺跡調査区 2 北壁上層断面・調査区 3 完掘状況・調査区 4-2 完掘状況

図版 7 大谷口遺跡調査区 4-2 遺物出土状況・調査区 4-2 遺物出土状況・調査区 4-2 遺物出土状況

図版 8 大谷口遺跡調査区 4-2 炭化物検出状況・調査区 4-2 破壊集中状況・調査区 4-1 調査状況

図版 9 大谷口遺跡調査区 5 南壁上層断面・調査区 6-1 完掘状況・調査区 6-2 完掘状況

図版 10 大谷口遺跡調査区 7 完掘状況・調査区 8 柱穴 1 断面・調査区 9 完掘状況

- 図版 11 大谷口遺跡調査区 9 西壁土層断面・調査区 10 完掘状況・調査区 11 東壁土層断面
- 図版 12 大谷口遺跡調査区 12 完掘状況・調査区 12 東壁土層断面・調査区 13 東壁土層断面
- 図版 13 大谷口遺跡調査区 14 西壁土層断面・調査区 15 完掘状況・調査区 15 西壁土層断面
- 図版 14 大谷口遺跡調査区 16 完掘状況・調査区 16 西壁土層断面・調査区 17 東壁土層断面
- 図版 15 北池向遺跡調査区 1 調査状況・調査区 2 完掘状況・調査区 3 完掘状況
- 図版 16 北池向遺跡調査区 3 上塙完掘状況・調査区 5 完掘状況・調査区近景
- 図版 17 山田辻畠遺跡遠景・調査区 1・調査区 1
- 図版 18 山田辻畠遺跡調査区 2 東壁土層断面・調査区 2 完掘状況
- 図版 19 山田辻畠遺跡調査区 1・2 近景・調査区 3 土壙 1 検出状況・調査区 3 土壙 1 完掘状況
- 図版 20 山田辻畠遺跡調査区 3 完掘状況・調査区 3 貝塚検出状況・調査区 3 貝塚検出状況
- 図版 21 山田辻畠遺跡調査区 3 貝塚調査状況・調査区 3 貝塚断面・調査区 3 西壁土層断面
- 図版 22 山田辻畠遺跡調査区 4 完掘状況・調査区 5 完掘状況・調査区 5 北壁土層断面
- 図版 23 大谷口遺跡調査区 1 出土遺物・調査区 4 出土遺物 (1)
- 図版 24 大谷口遺跡調査区 4 出土遺物 (2)
- 図版 25 大谷口遺跡調査区 4 出土遺物 (3)
- 図版 26 大谷口遺跡調査区 4 出土遺物 (4)・調査区 5・6・12・17・調査区 9 出土遺物 (1)
- 図版 27 大谷口遺跡調査区 9 出土遺物 (2)・大谷遺跡出土石器・山田辻畠遺跡調査区 3 出土遺物 (1)
- 図版 28 山田辻畠遺跡調査区 3 出土遺物 (2)・参考資料 亀ヶ原 1 号窯跡出土遺物

## 写 真 目 次

写真 1	福里遺跡周辺航空写真	12
写真 2	大谷口遺跡調査区 1 調査状況	24
写真 3	北池向遺跡遠景	48
写真 4	北池向遺跡調査区 5 調査状況	48
写真 5	山田辻畠遺跡周辺航空写真	56
写真 6	山田辻畠遺跡調査区 3 貝塚調査状況	66
写真 7	山田辻畠遺跡調査区 3 貝塚検出状況	66

# 第1章 遺跡の位置と環境

## 第1節 地理的環境

瀬戸内市は、岡山県の東南部に位置し、西は岡山市、北は備前市に接している。面積は、125.51 km<sup>2</sup>である。市内の西端を岡山県三大河川の吉井川が流れ、吉井川の左岸には、長船・邑久地域に肥沃な平野部が広がり、市街地と田園地帯が広がるほか、東部地域や海岸部は丘陵地となっている。南部は、瀬戸内海に面し、島嶼や海岸等の自然景観に恵まれている。

市内の土地利用現況は、西端を流れる吉井川とその支流の千田川、千町川の堆積作用によって平坦な沖積平野が開け、市街地、水田地帯として利用されている。邑久駅及び市役所周辺、長船駅及び長船支所周辺では、近年の宅地開発により都市化が進んでいる。農地としては、沖積平野で主に水田耕作、丘陵地の斜面で畑や果樹園として利用されている。山林については、瀬戸内市を東西方向に横断する形で広がり全面積の約半分を占めている。

福里遺跡は、長船町のほとんどを含む長船平野の東部南縁部に所在する。この平野は、西を吉井川に連られ北・東・南を高山、西大平山、東大平山、甲山、桂山などの標高100m～300mの山に囲まれている。平野を貫いて千田川が西流している。現在の千田川は、ほぼまっすぐに流れているが、もともとは蛇行しており元禄三年（1690）頃に改修され現在の位置になったという記録がある。（註1）

大谷口遺跡は、長船町の宮下集落から邑久町の北池集落に抜ける峠道の南側谷部を中心と所在する。この峠道は近年まで行商や生活道として利用されていたことを集落に住む古者から聞いている。また、ここから邑久町水落集落につながる古道があり、虫明、牛窓方面からの往来もあった。西に標高163mの甲山、東に標高187mの桂山に挟まれた海拔高6～10mの谷部を階段状に開削した土地で平坦部はあまりない。古くはため池を利用して水田耕作が行われていたが、近年では一部ぶどうなどの果樹園に変更されている。

北池向遺跡は、邑久町北池集落南側で標高100～150mの山の北裾、海拔高6～8mの丘陵裾部に所在する。南の丘陵中腹の谷部に造られたため池を利用し畑や水田耕作がされてきたが、近年ではぶどうが栽培され果樹園が多くなっている。

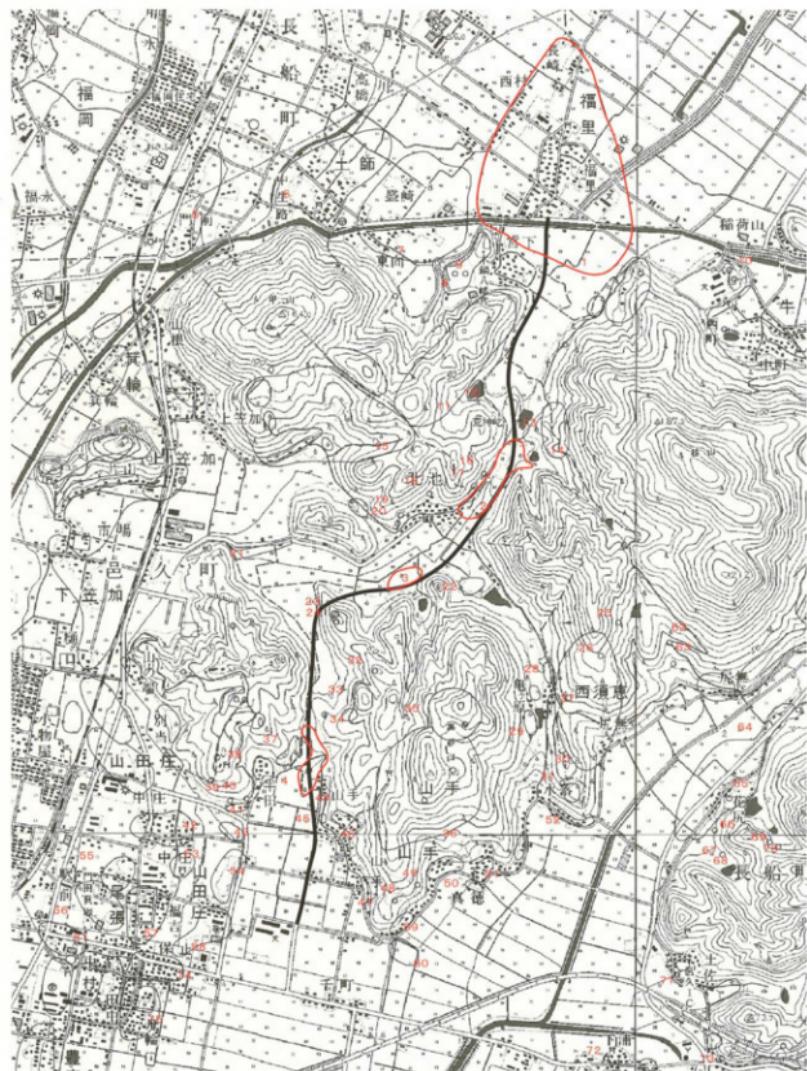
山田辻畑遺跡は、邑久町山田庄の千町平野北側の丘陵端部に所在し、現在は大部分が畑地として利用されている。遺跡の東には、標高135mの高砂山があり南には、広大な千町平野が広がり水田耕作が盛んに行われている。千町平野の西部の微高地や周辺の丘陵裾部に古くからの集落が点在している。



第1図 遺跡位置図

### 註

(1) 小林久磨雄「千田川」[改訂邑久郷史]上巻 邑久郷史刊行会 1953



第2図 周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

— 市道南北線計画路線 —

1 福里遺跡	16 荒神丸1号墳	31 水落古墳	46 山手東谷遺跡	61 盂免遺跡
2 大谷口遺跡	17 北池3号墳	32 山手弁財天3号墳	47 山手南ヶ市遺跡	62 比丘尼岩下塚
3 北池向遺跡	18 北池2号墳	33 山手才正郎山古墳群	48 山手魚ヶ山五輪塔	63 孝子山谷2号塚
4 山田辻畠遺跡	19 北池4号墳	34 山手休所古墳	49 真徳古墳	64 花尻遺跡
5 上師頭1号遺跡	20 北池1号墳	35 八木山古墳群	50 真徳貝塚B	65 青木1号塚跡
6 上師遺跡	21 北池場防跡	36 高砂山古墳群	51 真徳貝塚A	66 花尻南1号塚跡
7 上師京塚跡	22 北池鬼ヶ原遺跡	37 山田庄先免遺跡	52 本庄前田遺跡	67 花尻南2号塚跡
8 木鍋山遺跡	23 山手弁財天1号墳	38 山田庄半円遺跡	53 山田庄本神遺跡	68 花尻南3号塚跡
9 木鍋山空跡	24 山手弁財天2号墳	39 山田庄宮下貝塚	54 オンサ遺跡	69 佐府池上池1号塚跡
10 牛文茶臼山古墳	25 孝子山谷1号室	40 山田庄宮敷貝塚	55 山田庄東光院遺跡	70 佐府池上池2号塚跡
11 土師茶臼山古墳群	26 亀ヶ原1分塚跡	41 山田庄宮坂遺跡	56 門田貝塚	71 十佐貝塚
12 荒神西池遺跡	27 亀ヶ原西塚跡	42 山田庄堀内遺跡	57 山田庄福吉遺跡	72 本庄明見貝塚
13 荒神東池遺跡	28 亀ヶ原北遺跡	43 山田庄川屋遺跡	58 山田庄北帰遺跡	73 石仏貝塚
14 上師比丘尼岩古墳群	29 亀ヶ原野神遺跡	44 山手舟太七遺跡	59 山手田遺跡	74 水南渓跡
15 上笠加古墳群	30 桂山・亀ヶ原古墳群	45 山手舟太市遺跡	60 真徳貝塚	75 尾張城跡

## 第2節 歴史的環境

市道南北線建設に伴い発掘調査を実施した4ヶ所の遺跡は、瀬戸内市内の東部に形成された長船町地域の長船平野南部と邑久町地域の千町平野北部の2ヶ所の沖積平野上や近接する位置に所在している。このため、原始から古代までの歴史的環境について2つの平野毎に記載する。

長船平野を中心とした地域では、旧石器時代の遺物として平成4年（1992）から服部廃寺の範囲と内容等を確認するために行われていた確認調査中、服部廃寺を含む丸山遺跡からチャート製の縦長薄片を利用したナイフ形石器が1点出土している。（註1）

縄文時代の遺物は、丸山遺跡から外面に磨消縄文を施す後期前半の皿が出土。（註1）また、平成5年（1993）に千田川の河川改修工事に伴い福里遺跡・上師東遺跡の発掘調査により後期と晩期の深鉢が出土している。（註2）遺物のみの出土で、遺構については検出されていない。

弥生時代では、発掘調査で確認している遺跡として標高約30mの舌状丘陵の先端部となる木鍋山の丘陵全面にかけて所在する、弥生時時代中期から中世に至る複合遺跡である木鍋山遺跡がある。（註3）中期後半から後期末まで30棟、掘立柱建物3棟を検出。また、後期後葉には10数基の土壙墓が検出されている。木鍋山遺跡は弥生時代の集落構造が分かる唯一の遺跡としてして長船町地域の歴史復元の上で注目される遺跡である。福里遺跡では遺構の残存状況が悪いものの後期の溝5条、土壙1基などが確認されている。上師遺跡では後期の溝が検出されている。また、桂山の北側斜面の曇斜面に位置する牛文向山遺跡では後期前半の土器が出土しており、牛文の中町や多聞寺の集落周辺の丘陵部に

弥生時代の集落が想定されている。

古墳時代になると、長船平野の千田川流域の微高地周辺部に水稻耕作が急速に広がり、生産力の向上に伴う人口の増大が次々と集落の形成につながったと思われる、土師細工原遺跡、土師遺跡、土師束遺跡などの遺跡から遺物が出土している。

集落遺跡以外に、長船平野周辺の丘陵部には大小数多くの古墳が築造されている。特に首長墓としてなりうる比較的大きな規模の古墳として、柱山の北側山麓の北東に延びる尾根の頂部に位置し、馬蹄形のテラスの上に築かれた牛文茶臼山古墳は、時期は5世紀末頃と推測され、墳形が帆立貝形を呈し、墳長約58m、後円部径約33.2m、前方部幅約16mを測る。内部主体として後円部中央に竪穴式石室と思われる石室が確認されている。出土品として画文蒂四神四獸鏡1面、貝鏡、金銅製獅子文帶金具、鉄刀、小札の鏡、須恵器など装身具、武具、馬具が出土している。金銅製獅子文帶金具は朝鮮半島でも百濟と伽耶地域で出土しており古墳の被葬者を考える上で貴重な資料となるものである。(註4) また、5世紀頃を中心とした竪穴式石室や箱式石棺を内部主体とした前半期の古墳群として、甲山の東部、北東へ延びる細い尾根の頂部には、直徑約24mで長さ約9mを測る、造り出し付き円墳である土師茶臼山古墳を初め、直徑数メートルの土師茶臼山古墳群、甲山の東側斜面に形成される甲山古墳群などがある。(註5) 大谷口遺跡の西側の丘陵裾部には、墳径10m以内の円墳で横穴式石室を有する北池1号墳～4号墳が点在している。その中で、北池1号古墳の横穴式石室は現状で長さ6.4m、奥壁幅1.84m、高さ2.16mで石室の床面積は約12m<sup>2</sup>を測り、邑久町地域で最大規模のものである。桂山から南に延びる丘陵の南斜面一帯には、7世紀後半の小型の円墳が中心で、内部主体に横穴式石室を有する桂山・亀ヶ原古墳群があり桂山東南麓一帯が墓域的な地域となっていたと思われる。(註6) また、墓域の盛行と関係し、瀬戸内市の東部から備前市の西部にかけて現在約130基確認されている6世紀中葉～11世紀に操業された須恵器生産遺跡としての邑久古窯跡群がある。6世紀後半～8世紀前半では長船町の桂山山麓から牛窓町の寒風地域にかけて広がる。(註7) これらの窯では、須恵器だけでなく陶棺・鶴尾も生産されている。邑久古窯跡群で確認されている最古の窯で、6紀中葉に創業されたと考えられるものが、木鍋山の丘陵東斜面で発掘調査によって確認された木鍋山1号窯跡である。邑久古窯跡群で唯一窯全体が確認された例である。規模は全長8.2m、焚口幅1.2m、焼成部の長さ約6.0m、最大幅約1.9m、焼成部床面の傾斜角度15°を測る地下式の登窯である。窯体内から完形の杯身・杯蓋・高杯などが生焼け状態で出土した。(註8) また、桂山から南に伸びた尾根に營む南東面に面した標高約90mの南東斜面に、焚口部や燃焼部が破壊されているが、窯本体の大部分を残す7世紀前半の操業と考えられる亀ヶ原1号窯跡がある。採集された須恵器は、口縁部受け部にかえりを有する杯とかえりを持たない杯や甕で西川宏氏により「亀ヶ原式」と型式設定されている。(註9)

飛鳥・奈良時代以降では、7世紀中葉頃と考えられる古代寺院として西須恵地内と、7世紀末頃と考えられる古代寺院が服部地内に相次いで創建されている。前者は、須恵寺で部分的に発掘調査が行われ、寺域の北方で乱石積基壇の一部や寺域の西方でも基壇が確認された。基壇を確認した付近を中心として一辺100～150m四方の寺域が推測されている。出土遺物として単弁八葉蓮華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦、瓦塔、円面鏡等が出土している。(註10) 後者は服部庵寺で範囲の確認調査が行われ、金堂・講堂の基壇・礎石、東西回廊、講堂西側掘立柱建物などが確認された。調査の結果、東西約150m(1町半)、南北約150mもしくは215m(約2町)の寺域と金堂と講堂の中軸がそろうとから四大天王寺式の伽藍配置が想定されている。軒丸瓦・軒平瓦・鶴尾・甕・螺旋等が出土している。(註11)

下田川流域では、近世まで水田耕作が盛んに行われていたことが近年までの試掘調査等で確認されており、大谷口遺跡、北池向遺跡の位置する北池集落は、中世まで土師郷に所属していたことが伝えられている。(註 12)

次に、邑久町の千町平野を中心とした地域では、旧石器時代の遺物として下山田梶ヶ鼻遺跡からナイフ形石器が出土しており、背後の低丘陵上に遺跡の存在が想定されている。

縄文時代になると、後氷期の世界的な気候の温暖化による縄文海進が進行し、早期に現在の平野が瀬戸内海に統く海となっていく。前期には、この海を挟んで北に宮下貝塚(註 13)が南にシジミを中心とする大規模な貝塚を有する人橋貝塚(註 14)が形成される。さらに中期末から後期初頭に山手貝塚、後期以降の真徳貝塚 B(註 15)が形成される。これら貝塚のうち大橋貝塚は、前期から後期初めまでの長期にわたる居住が継続され当地域の中核的集落と考えられる。後期以降には、海水面の低下と吉井川の土砂堆積による急激な陥没が進んだとみられ、熊山田遺跡(註 20)では後期後葉や突帶文土器出現前の晩期の土器、助三畳遺跡(註 16)や堂免遺跡(註 17)から突帶文土器の出土があり、沖積地に人々の生活の痕跡が見られ始める。

弥生時代になると、吉井川の土砂堆積によって下等加から仁生田にかけて細長く弧状の自然堤防が形成され、前期以降に全域に集落が形成される。その中でも中核的な集落として国指定史跡門出貝塚があげられる。数回に及ぶ発掘調査の結果、数条の大規模な溝や溝を貝塚の存在が明らかにされた。貝塚から出土した大量の土器は「門田式」と命名され瀬戸内海沿岸地域の弥生時代の前期後葉の土器型式とおり学史的に著名な遺跡となっている。(註 18) 他にも近年の開発に伴う発掘調査で畠中遺跡(註 19)・堂免遺跡・熊山田遺跡(註 20)などで弥生時代前期の溝、土壤などの遺構や遺物が確認、出土しており、前期の段階で千町平野の微高地の広い範囲で遺跡が形成されていることを示している。

中期中葉以降、微高地周辺部の水田の拡大と人口増に伴い、微高地から千町平野を望む丘陵部や丘陵裾部に遺跡の分布が移動する。真徳貝塚・円張東貝塚・下山田梶ヶ鼻遺跡などでいずれも小規模の貝塚を伴っている。(註 21) また、後期後葉以降には、門田貝塚や百田遺跡などで製塩土器が出土しており、集落内で土器製塩も行われているようである。以上の遺跡は、弥生時代を通して安定した水稻耕作を生産力の基盤に邑久町域の中心地として次代の吉井川下流東域の前方後円墳の築造に発展する生産母体となる。

古墳時代の集落遺跡としては、助三畳遺跡・門田遺跡・堂免遺跡で弥生時代の集落の延長上で溝や井戸が検出されている。千町平野周辺部では、平野を望む独立丘陵の頂部から尾根にかけて、小規模の円墳や方墳が群集して築造されている。福中堂山丘陵上には、小規模な古墳が數十基築造されている。千町平野の北側に位置する標高 135m の高砂山山頂から八木山の尾根筋にかけて、約 100 基の低平な古墳群が構築されており、邑久町内でも有数の前半期の群集墳を形成している。内部主体は箱式石棺や小堅穴式石槨で副葬品に内行花文鏡 2 面、変形四獣鏡 1 面、捩文鏡 1 面の鏡をはじめ、玉類や鉄器が出土している。後半には 2 基の前方後円墳が長船町西須恵器と邑久町山手龜ヶ原に築造される。1 基は 6 世紀前葉と推定される金鶏塚古墳である。測量により墳長約 35m を測り、石室から圓文帝神獸鏡 1 面ほかが出土したと伝えられる。(註 22) もう 1 基は 6 世紀後葉と考えられる金鶏塚古墳から南へ 30m のところに所在する龜ヶ原大塚古墳である。墳長が約 40m を測り、内部主体として前方部に長さ約 7m を測る片袖式の横穴式石室が築かれ、後円部にも横穴式石室の存在が推定されている。(註 23) この 2 基の古墳は、位置・規模から須恵器生産を掌握・管理していた首長の墓と考えられている。

高砂山の南斜面をはじめ豊原・福中地区の丘陵端部の斜面に横穴式石室を内部主体とする小古墳が築造される。ほとんどの古墳の埋葬施設が無袖式の横穴式石室で、須恵器の陶棺が納められているものが多い。これら的小古墳は6世紀後葉から7世紀にかけての須恵器窯跡群の分布と重なり、亀ヶ原古墳群とともに須恵器製作工人集団の墳墓と推定されている。

奈良時代以降では、門田遺跡から大規模な掘立柱建物の一部と見られる柱穴群が検出され、円面鏡、須恵器、縄文陶器なども出土していることから官衙的な施設の存在が想定される。寺院跡では、山田庄半田地区の緩やかな丘陵斜面の平坦部に半田（尾張）廐寺が存在すると推定されているが、伽藍配置等については不明である。（註24）周辺部から採集された軒平瓦に中に本薬師寺や平城薬師寺と同範の偏行唐草文を有するものがあり注目される。

### 註

- (1) 池田清・大谷博志・杉山一雄『服部庵寺』長船町教育委員会 1997
- (2) 戸平昭剛・岡木泰典『十師東遺跡・福里遺跡』『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』95 岡山県教育委員会 1994
- (3) 江見正己『木崎山遺跡』『長船町史 史料編（上）』長船町 1998
- (4) 西川宏『牛文茶臼山古墳』『岡山県史』18 岡山県 1986
- (5) 長船町教育委員会編『民船町埋蔵文化財分帯地図』長船町教育委員会 1987
- (6) 池田浩『亀ヶ原古墳群』『長船町史 史料編（上）』長船町 1998
- (7) 『牛窓町史 資料編Ⅱ』牛窓町 1997、『邑久町史 考古編』瀬戸内市 2006、『長船町史 史料編（上）』長船町 1998
- (8) 江見正己『木崎山1号窯跡』『長船町史 史料編（上）』長船町 1998
- (9) 池田浩『亀ヶ原1号窯跡』『長船町史 史料編（上）』長船町 1998
- (10) 亀田修・『須恵庵寺』『長船町史 史料編（上）』長船町 1998
- (11) 池田清・大谷博志・杉山一雄『服部庵寺』長船町教育委員会 1997
- (12) 『邑久町史 地区誌編』瀬戸内市 2006
- (13) 岡本寛久『山田庄宮下貝塚』『邑久町史 考古編』瀬戸内市 2006
- (14) 岡本寛久『大橋貝塚』『邑久町史 考古編』瀬戸内市 2006
- (15) 岡本寛久『真鹿貝塚B』『邑久町史 考古編』瀬戸内市 2006
- (16) 馬場昌一『助三畠跡』『邑久町史 考古編』瀬戸内市 2006
- (17) 馬場昌一『堂免遺跡』『邑久町史 考古編』瀬戸内市 2006
- (18) 瞽田博『門田貝塚』『邑久町史 考古編』瀬戸内市 2006
- (19) 秋山浩三『細中遺跡』『邑久町史 考古編』瀬戸内市 2006
- (20) 河本清・福川正健・中野雅美・馬場昌一・間幸代『熊山田遺跡』邑久町教育委員会 2004
- (21) 平井泰男『熊山田散布地』『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』68 岡山県教育委員会 1988
- (22) 江見正己『金菊塚古墳』『長船町史 史料編（上）』長船町 1998
- (23) 江見正己『亀ヶ原大塚古墳』『長船町史 史料編（上）』長船町 1998
- (24) 岡本寛久『半田廐寺』『邑久町史 考古編』瀬戸内市 2006

## 第2章 調査の経過及び体制

### 第1節 調査に至る経過

瀬戸内市は地理的に呂久町、牛窓町、長船町の3地区が南北に位置しているにも関わらず、これらの3地区を南北に貫く基幹道路が無く、既存の県道に依存しなければならないのが現状である。こうしたことから新市の基幹道路として3地区をダイレクトに結ぶ新道を建設し、今後の新市の開発発展、既存道路（県道）の交通安全を図るために長船町土師と呂久町山手を連結する、全体計画延長4km、全幅員9.75mの市道南北線の新設が計画された。

計画地内には、福里遺跡（長船町土師）、大谷口遺跡（長船町土師・呂久町北池）、北池向遺跡（呂久町北池）、山田辻畠遺跡（呂久町山手）の4つの遺跡が所在している。

遺跡の時期は遺跡地図によると弥生時代から中世で、内容は集落遺跡や散布地と考えられている。

このため市では工事計画地内に所在する遺跡の状況を把握するため、平成18年12月11日～16日にかけて重機による試掘調査を実施した。試掘調査の結果を受け、工事により破壊される遺跡の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行う目的で「瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会」（委員長：瀬戸内市教育委員会教育長小林一征）を平成19年5月7日に設置した。

平成19年6月7日付けで文化財保護法第92条の規定により岡山県教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘調査の届出を提出した。

### 第2節 調査の経過

試掘調査の成果を受け、4遺跡の発掘調査は瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会委員である瀬戸内市教育委員会社会教育課主査の大谷博志が従事した。また、一部の発掘調査や図面作成について荒井周平、小野伸が調査補助にあたった。

発掘調査は、市道計画地内に所在する果樹や畑での収穫を終えた遺跡から順次調査に入った。調査を実施した遺跡の順序は、北池向遺跡、福里遺跡、大谷口遺跡、山田辻畠遺跡で、遺構実測を並行しながら2ヶ所の遺跡の発掘調査を実施した。

市道計画地は農道や水路により分断されていたため、4遺跡に36ヶ所の調査区を設定し、基本的に遺物包含層上部までは重機により掘削を行い、遺構の検出や掘下げは手掘りにより行なった。その後、調査区の半・断面図、検出した遺構の実測、写真撮影等の記録を実施した。調査後は、安全面を考慮し調査区の埋め戻しを行なった。

**調査面積**　調査区36ヶ所 1,823 m<sup>2</sup>

**北池向遺跡**

調査区1 (2m × 10m=20 m<sup>2</sup>)

調査区2 (2m × 10m=20 m<sup>2</sup>)

調査区3 (2m × 10m=20 m<sup>2</sup>)

調査区4 (2m × 10m=20 m<sup>2</sup>)

調査区5 (2m × 10m=20 m<sup>2</sup>) 計 100 m<sup>2</sup>

#### 福里遺跡

調査区1 (4m × 10m=40 m<sup>2</sup>)

調査区2 (3m × 19m=57 m<sup>2</sup>)

調査区3 (3m × 14m=42 m<sup>2</sup>)

調査区3 W (3m × 18m=54 m<sup>2</sup>)

調査区4 (4m × 18m=72 m<sup>2</sup>)

調査区4 W (6m × 18m=108 m<sup>2</sup>) 計 373 m<sup>2</sup>

#### 大谷口遺跡（北池東田遺跡）

調査区1 - 1 (3m × 10m=30 m<sup>2</sup>)

調査区1 - 2 (3m × 11m=33 m<sup>2</sup>)

調査区2 (4m × 8m=32 m<sup>2</sup>)

調査区3 (3m × 23m=69 m<sup>2</sup>)

調査区4 - 1 (4m × 13m=52 m<sup>2</sup>)

調査区4 - 2 (7m × 9m=63 m<sup>2</sup>)

調査区5 (8m × 20m=160 m<sup>2</sup>)

調査区6 - 1 (6m × 9m=54 m<sup>2</sup>)

調査区6 - 2 (6m × 6m=36 m<sup>2</sup>)

調査区7 (4m × 10m=40 m<sup>2</sup>)

調査区8 (4m × 10m=40 m<sup>2</sup>)

調査区9 (4m × 14m=56 m<sup>2</sup>)

調査区10 (4m × 7.5m=30 m<sup>2</sup>)

調査区11 (3m × 7m=21 m<sup>2</sup>)

調査区12 (4m × 20m=80 m<sup>2</sup>)

調査区13 (4m × 14m=64 m<sup>2</sup>)

調査区14 (4m × 20m=80 m<sup>2</sup>)

調査区15 (3m × 20m=60 m<sup>2</sup>)

調査区16 (3m × 22m=66 m<sup>2</sup>)

調査区17 (3m × 8m=24 m<sup>2</sup>) 計 1,082 m<sup>2</sup>

#### 山田辻畠遺跡

調査区1 (4m × 20m=80 m<sup>2</sup>)

調査区2 (2m × 16m=32 m<sup>2</sup>)

調査区3 (8m × 16m=128 m<sup>2</sup>)

調査区4 (2m × 6m=12 m<sup>2</sup>)

調査区5 (2m × 8m=16 m<sup>2</sup>) 計 268 m<sup>2</sup>

## 日誌抄

平成 19 年 5 月 7 日	第 1 回瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会開催
9 月 7 日	第 2 回瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会開催
10 月 1 日	北池向遺跡発掘調査開始
10 月 30 日	福里遺跡発掘調査開始
11 月 16 日	北池向遺跡調査終了
平成 20 年 2 月 1 日	大谷口遺跡発掘調査開始
	福里遺跡調査終了
5 月 22 日	山田辻畑遺跡発掘調査開始
7 月 2 日	大谷口遺跡調査終了
8 月 1 日	出土遺物洗浄・整理作業開始
9 月 9 日	重機による埋め戻し作業終了
10 月 31 日	整理作業終了
平成 21 年 3 月 31 日	第 3 回瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会開催

## 第3節 調査の体制

瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会

委 員 長 小林一征 瀬戸内市教育委員会教育長

(平成 19 年 5 月 7 日～平成 20 年 12 月 4 日)

委 員 長 福池敏和 瀬戸内市教育委員会教育長職務代理者

(平成 20 年 12 月 5 日～平成 20 年 12 月 24 日)

委 員 長 口下弘海 瀬戸内市教育委員会教育長

(平成 20 年 12 月 25 日～)

副委員長 福間和明 瀬戸内市産業建設部長

委 員 光永真一 鳥取県教育厅文化財課総括副参事

委 員 大嶋信正 瀬戸内市文化財保護委員会委員長

委 員 西井洋之 瀬戸内市文化財保護委員会委員

委 員 岡部 勉 瀬戸内市産業建設部建設課長

(平成 19 年 5 月 7 日～平成 20 年 3 月 31 日)

委 員 谷田孝史 瀬戸内市産業建設部建設課参与

(平成 20 年 4 月 1 日～)

委 員 森 謙治 瀬戸内市教育委員会社会教育課長

委 員 馬場昌一 瀬戸内市教育委員会社会教育課参事

委員（調査員）大谷博志 瀬戸内市教育委員会社会教育課主査・係長

監 事 青山始正 瀬戸内市教育委員会教育次長

(平成 19 年 5 月 7 日～平成 20 年 3 月 31 日)

監 事 榎池敏和 濑戸内市教育委員会教育次長  
(平成20年4月1日～平成20年12月4日)

監 事 森 直人 濑戸内市教育委員会総務学務課長  
(平成19年5月7日～平成20年3月31日)

監 事 松井一彦 濑戸内市教育委員会総務学務課長  
(平成20年4月1日～)

事務局長 森 謙治 濑戸内市教育委員会社会教育課長

局 員 馬場昌一 濑戸内市教育委員会社会教育課参事

局 員 大谷博志 濑戸内市教育委員会社会教育課主査・係長

局 員 村上 岳 濑戸内市教育委員会社会教育課主査

調査補助員 荒岸周平(岡山理科大学学生)、小野 伸

整理補助員 二反田美鈴

調査作業員 岡田文子、久山真由美、佐々木宇暢、佐用理世、西濱輝恵、西濱典子、野村由香里、  
守時朝子、万代伴彦、三木 一代

#### 瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会会則

##### 【設置】

第1条 瀬戸内市道南北線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施するために瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会(以下「委員会」という)を設置する。

##### 【目的】

第2条 委員会は、瀬戸内市邑久町及び長船町地内における事業計画に伴い工事予定地に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し記録保存等を行うことを目的とする。

##### 【事業】

第3条 委員会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (ア) 工事予定地内の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査並びに保存に関すること
- (イ) その他目的を達成するために必要な事業

##### 【組織】

第4条 委員会の構成は次のとおりとする。

- (ア) 委員会の委員長は瀬戸内市教育委員会教育長を、副委員長は瀬戸内市産業建設部長をもって充て、委員は関係行政機関の職員並びに関係者の中から委員長が委嘱する。
- (イ) 委員会は発掘調査を専門的に実施するために調査員を置きその調査員は委員長が委嘱する。発掘調査の専門的事項については関係者の指導、助言を受けるものとする。
- (ウ) 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。
- (エ) 副委員長は委員長を補佐し委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

##### 【任期】

第5条 委員長、副委員長及び委員の任期は調査が完了するまでとする。但し、それぞれの機関の役職に存する期間に限るものとする。

**【会議】**

- 第6条 委員会は、委員長が招集する。委員会は次の事項について審議する。
- (ア) 会則の制定及び改廃に関すること
  - (イ) 調査の基本方針に関すること
  - (ウ) その他重要な事項

**【事務局】**

- 第7条 委員会の事務を処理するため瀬戸内市教育委員会に事務局を置く。事務局長は、瀬戸内市教育委員会社会教育課長をもって充て、その他の事務局職員は委員長が委嘱する。

**【監査】**

- 第8条 会計監査を実施するため委員会に監事を置く。

**【その他】**

- 第9条 この会則に定めるもののほか委員会の運営に関する必要な事項は委員会が定める。

附則、この会則は平成19年5月7日から施行する。

## 第4節 報告書の作成

### 報告書の体制

出土遺物の洗浄と復元作業は発掘調査と並行しながら実施し、遺構と遺物の図化する整理作業を終えた段階で、一部を除き遺構図面のトレース及び出土遺物の実測、拓本、トレースをフジテクノ有限公司に委託した。また、遺物の写真撮影を有限会社柳生写真館へ委託した。遺構、遺物の図化終了後、報告書の執筆及び編集を平成20年度末まで実施した。

資料の整理や原稿執筆にあたり、出土遺物について岡山理科大学教授亀田修一氏から有益なご教示を得た。また、出土遺物の胎土分析について岡山理科大学自然科学研究所講師白石純氏から報告文をいただいた。さらに、補助者や多くの方々の協力を得た。



写真1 福里通り周辺航空写真（北上空から）

## 第3章 調査の概要

### 第1節 福里遺跡

長船町平野の南西寄りの長船町福里集落を中止とした東西約700m、南北約1,100mの範囲に遺跡が想定されている。遺跡の南部を東西に流走する干田川は平成2年の台風19号による水害を契機として岡山県により川幅を約2倍に拡幅し保水能力を拡大する河川改修工事が計画された。このため、削平を受ける干田川両岸に4ヵ所の調査区を設け、平成5年に、岡山県古代古墳文化財センターによる発掘調査が実施された。調査の結果、明確な遺構は弥生時代後期の溝のみであり、遺跡の中心部は調査区の北側であり集落の縁辺部にあたる地点であったと考えられた（註1）。

今回、平成2年の調査結果や市道南北線の建設工事にあたり事前に実施した試掘調査の結果をもとに計画地内に4ヵ所の調査区を設け発掘調査を実施した。（第3図）

#### 調査区1

当遺跡想定範囲の南端部にあたる位置に4×10mの大きさで設定した調査区である。干田川は長船平野の水田開発に伴い、排水を目的として掘削され、元禄3年（1690）には改修され現在の流路になっている（註2）。また、地元の古老から『干田川を改修する以前、河道が蛇行していた頃にこのあたりに河道があった』という話を聞いていたので、旧川道の存在を確認する目的で4×10mの大きさの調査区を設定し発掘調査を行った。

調査の結果、第1・2層の水田耕作土及び第3・4層の床土である灰色粘質土・灰白褐色粘質土を除去後の堆積層は、調査区の北側については第5層の灰色粘質土や明灰褐色粘質土を包含し、その下層に第8層の明灰茶色粘土の包含層が約30cmの厚さで堆積していた。その後、基盤層である第12層の黄褐色粘質土層上面までの堆積層は第10層の灰茶色粘土、第11層の暗灰茶色粘土である。基盤面まで掘り進め遺構検出を行ったが旧河道と考えられる基盤面の傾斜等は認められなかった。基盤面は細かな起伏が明瞭に残存しており旧微地形を確認することができた。

遺構については確認できなかった。（第3・4図）

#### 調査区2

調査区1から現代の用水路を挟んだ北側約15mの水田部に設定した調査区である。調査区は事前の試掘調査の結果を受け、市道計画線内に3×19mの大きさの調査区を設定し発掘調査を行った。

調査の結果、基本的な層序は、調査区1と同様に上層から第1層の現代の水田耕作土である灰色粘質土及び第2層の水田床土である褐灰黄色粘質土を除去すると、約28cmの厚さで第5層の淡暗灰色粘質土、10~18cmの厚さで第6層の灰褐色粘質土が水平堆積し、その下層に厚さ約15cmを測る第7層の暗灰色粘質土の包含層を確認した。第7層の下層は基盤層である第8層の黄褐色粘質土となっている。基盤面は細かな起伏を呈し、調査区の中央よりやや北側の海拔は約9.9mで北側と南側に向かい緩やかに最大約25cm下がり、南側ではその後元の海拔高まで戻る。

検出した遺構は、第4層の水田床土となる褐灰黄色粘質土の下層で旧水田の鶴溝の痕跡と考えられ

る第3層の灰淡黄色粘質土が数条、調査区南端部の基盤面で、直径約20cmの柱穴2個、調査区の北端部で大きさ約1.6×0.9m、深さ約0.6mを測り不正楕円形を呈する土壤1基である。この土壤は断面観察から上部に基盤層と同じ黄褐色粘質土を使用しマウンド状に約15cm盛り上げられていた。出土遺物はなく時期及び土壤の用途は不明である。(第3・5図)

### 調査区3

調査区3から北側約12mの水田部に設定した調査区である。東側の3×14mの大きさの調査区3及び西側に3×18mの大きさの調査区3Wの2箇所を設定し発掘調査を行った。

調査の結果、基本的な層序は、調査区1と同様に上層より現代水田層である第1層の灰色粘質土、水田底土である第2層の橙色粘質土、第3層の褐灰色粘質土、第4層の明灰褐色粘質土、包含層である第5層の暗灰褐色粘質土が堆積し、地表下約70cmで第6層の黄褐色粘質土である基盤面に至る。

検出した遺構は、基盤面で直径20~50mの柱穴を含めた小ピットを10基検出した。また、基盤面は調査区1・2同様、細かな起伏が明瞭に残存しており、調査区両端から中央部へ向けてなだらかに傾斜して約20cm下がり低くなっていた。(第3・6図)

### 調査区4

調査区3から北側4mの水田に設定した調査区で、下出川南岸から約20mの位置にある。調査区は東側に4×18mの大きさの調査区4及び西側に6×18mの大きさの調査区4Wの2箇所を設定し発掘調査を行った。

調査の結果、調査区の北側部分を除き、上層より現代水田層である第1層の灰白色粘質土、厚さ約30cmを測る第2層の灰色粘質土、第3層の明灰褐色粘質土、第4層の明灰色粘質土、第13層の明灰色粘質土が堆積し下層が第10層の灰淡黄色粘質土の基盤層となっている。基盤面は調査区南端部の海拔高が約41mで調査区北側に向かい海拔高が約37mまで徐々に下がっている。

検出した遺構は、基盤面で直径0.2~0.6m、深さ約70cm前後を測る複数の柱穴を検出した。一箇所で複数の柱穴が切り合った地点があった。建物の配列などについては不明であった。また、調査区の北側では基盤面が、北側の調査区外へ緩やかに直線的に下っていく状況を確認した。上層は上層から第6層の灰青色粘質土、第7層の明灰色粘質土、第8層の黄褐色粘質土、第9層の灰褐色粘質土が北側に向かい傾斜しながら堆積する状況を確認した。しかしながら、旧河道の検出には至らなかった。(第3・7図)

### 遺物

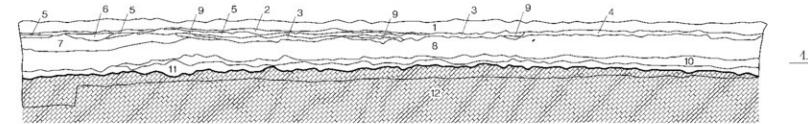
各調査区内から土師器片、須恵器片が少量出土したが、実測可能な遺物はなく、明確な時期は特定できなかった。その他土器以外に、サヌカイト製の石片が数点出土している。

### 註

- (1) 氏平昭訓・岡本泰典『土師東遺跡 福里遺跡 下出川改修に伴う発掘調査』『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』95 岡山県教育委員会 1994
- (2) 小林久磨『改訂昌久郡史』上巻 昌久郡史刊行会 1953

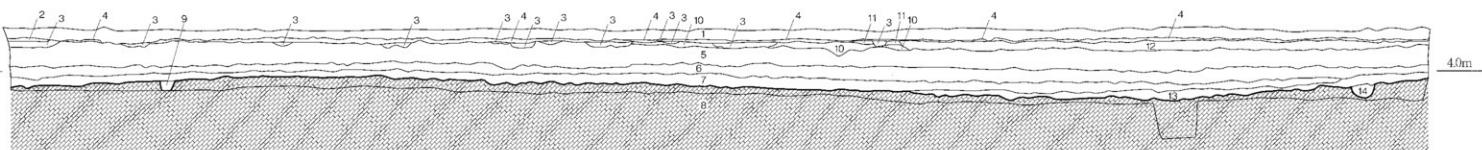


第3図 福里遺跡 調査区配置図 (1/500)



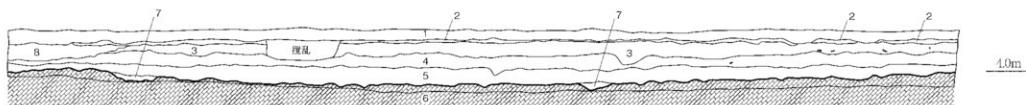
1. 水田耕土 2. 水田耕土 3. 灰白色粘質土(水田床土) 4. 灰白褐色粘質土(水田床土) 5. 灰色粘質土  
 6. 淡青灰色粘質土(溝水田耕土) 7. 明灰褐色粘質土 8. 明灰茶色粘質土 9. 黄灰色粘質土 10. 灰茶色粘土  
 11. 暗灰茶色粘土 12. 黄褐色粘質土(基盤層)

第4図 福里遺跡 調査区1 東壁断面図 (1/50)



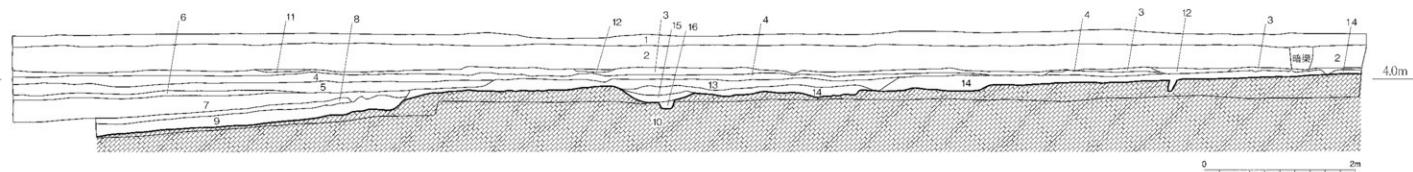
1. 灰色粘質土(現代水田) 2. 明灰色粘質土 3. 灰淡黃色粘質土(溝溝?) 4. 褐灰黃色粘質土(水田床土) 5. 淡暗灰色粘質土  
 6. 灰褐色粘質土 7. 暗灰色粘質土(包含層) 8. 黄褐色粘質土(基盤層) 9. 黑灰色粘質土(柱穴?) 10. 灰淡褐色粘質土(含む)  
 11. 褐褐色粘質土 12. 明灰色粘質土 13. 黑褐色粘土 14. 黄褐色粘質土(黄褐色粘質土含む)

第5図 福里遺跡 調査区2 西壁断面図 (1/50)



1. 灰色粘質土(現代水田層) 2. 橙色粘質土(現代水田床土) 3. 褐灰色粘質土 4. 明灰褐色粘質土 5. 暗灰褐色粘質土  
 6. 黄褐色粘質土(基盤層) 7. 灰淡黃色粘質土 8. 明灰色粘質土

第6図 福里遺跡 調査区3 東壁断面図 (1/50)



1. 灰白色粘質土 2. 灰色粘質土 3. 明灰褐色粘質土 4. 明灰色粘質土(黄褐色粘質土ブロック含む) 5. 暗褐灰色粘質土 6. 灰青色粘質土  
 7. 明灰色粘質土 8. 黄褐色粘質土 9. 灰褐色粘質土 10. 灰淡黃色粘質土(基盤層) 11. 黄褐色粘質土 12. 暗褐色粘質土  
 13. 明灰色粘質土(黄褐色粘質土含む) 14. 暗褐灰色粘土 15. 黄褐色粘質土 16. 暗灰色粘質土

第7図 福里遺跡 調査区4 東壁断面図 (1/50)

## 第2節 大谷口遺跡

邑久町北池集落から荒神屹を通り長船町官下集落へ抜ける東西の丘陵に挟まれた谷部に位置する。遺跡の範囲は、東西約100m、南北約450mに想定されている。市道は遺跡の南側を南北に貫く形で工事計画地になったため、試掘調査の成果をもとに道路や水路により調査区を分けながら、調査区を17地点、20箇所設定し発掘調査を行った。(第8・9図)

### 調査区1

試掘調査時に明確な包含層を確認した畑地に設定した調査区で、遺跡のほぼ中央部で丘陵東側部の位置にある。調査区は畑の形状に合わせ3×10mの調査区1-1と3×11mの調査区1-2の2分割した調査区を設定した。調査区1-1の土層は上層から、第1層の畑耕作土である灰色粘質土、第2層の黄褐色粘質土、第3層の明灰色粘質土を約50cm掘下げると、包含層である第5層の暗灰褐色粘質土の上面で、北東から西南方向に幅約40~50cm、深さ約10cmを測り、断面「U」字形を呈する溝1を検出した。その後、第5層の包含層を約40~60cm掘下げると、第6層の灰色粘土の基盤層を検出した。基盤面は調査区の北側から南側に向けて緩やかに傾斜していた。また、基盤面の上面は深さ20cm程の窪みがいくつか認められた。(第10図)調査区1-2も調査区1-1と基本的な堆積層は同じで、上層から畑耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の橙黃灰色粘質微砂、第3層の明灰色粘質微砂の下層に包含層である第4層の暗灰褐色粘質土の上面において調査区1-1で検出した溝1の延長部分を調査区の北西端部で検出した。規模は、幅約50cm、長さ約100cmを測った。第4層の暗灰褐色粘質土は厚さ約40cmで基盤層である第5層の明灰淡黄色粘土を検出した。この調査区での基盤面は地形にも影響され南から北方向に水平からやや下がっている。調査区の東壁面での基盤面は凹凸が著しい。(第11図)

遺構は、包含層上面で溝を1条検出したのみであった。この溝の埋土中から土師器・須恵器の小片が少量出土しただけで明確な時期を特定できる出土遺物はなかった。埋土中の遺物から古代以降の時期の溝と考えられる。

遺物は、表土及び包含層上層から弥生土器1・2、包含層から円面鏡15、杯身3~6、杯蓋7~12、大甕16、土製品C1・C2のほか窯壁片が出上した。(第46図)

### 調査区2

調査区1-2から約5m西側の1段下の畑に位置し、4×8mの三角形を呈する形で設定した調査区である。調査面積が小さく掘削した土置き場が確保できないことから表土を除去した後、調査区の東壁側に土層観察用の側溝を設定し調査した。

遺構は、上層断面を観察したが確認できなかった。(第12図)

### 調査区3

調査区2から約9m南へ1段下った畑に3×23mの大きさで設定した調査区である。耕作土から第6層の暗灰色粘質土の包含層を約20cm手作業で掘り進め、その後、基盤層上面まで重機で掘下げた。

基盤面は調査区の北側で検出したが、第6層の包含層の上層が南側に向かい下がるように基盤面も同様に南側に向かい下がるよう検出されなかった。堆積土層は調査区の北半分と南端部付近の壁が上面から崩落した。基本上層は、上層から畑耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の明灰色粘質砂、第3層の暗灰色粘質土がほぼ水平に堆積し、その下層に第5層の小礫を含む明灰色粘質土、第6層で暗灰色粘質土が南側に向かい傾斜しながら堆積していた。第6層の包含層の下層は調査区の北側を除き第7層の砂礫層となっていた。(第13図)

遺構は、基盤層上面で直径15cm程の柱穴3個を検出した他は、検出できなかった。

遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が、第6層の包含層から須恵器の小片が少量出土した。

## 調査区4

当遺跡の想定範囲北端部に位置し、谷の中心付近に当たる箇所に設定した調査区である。農道を挟み、東側に4×13mの大きさで調査区4-1、西側に7×9mの大きさで調査区4-2を設定し、耕作土を除去した後、白灰色粘土と淡黄色粘土の基盤層上面まで重機で掘り進めた。調査の結果、調査区4-1の堆積層は上層から耕作土層である第1層の灰色土、第2層の黄色粘質土、第3層のやや明るい灰色粘質土が堆積し調査区の東側では基盤面を検出した。基盤面は西側に向かい下がっていき、小礫片を多く含む第5層の暗灰色粘質土、第6層の灰色粘土、第7層の白灰色粘土が堆積し、その下層で基盤層となる第8層の淡黄色粘土を確認した。(第14図) 調査区4-2も同様に水田耕作土を除去後、重機で約1.5m掘下げ灰白色粘土の基盤層上面で遺構検出を行った。堆積断面は調査区4-1と基本的には同様な堆積状況を呈した。

遺構は、調査区4-1では溝状遺構を3条、柱穴状の小ビットを3基検出した。調査区4-2では土壙1・2の2基を検出した。土壙1は、不定形な平面形を呈し、土壙内から角礫数個が出土した。土壙2は、大きさは80×180cmを測り、平面形は楕円形を呈した。土壙内からこぶし大の円礫や角礫とともに須恵器片や板状の炭化物が出土した。

遺物は、調査区4-1東側では須恵器の小片が少量出土しただけであったが、調査区4-2では、大量の須恵器が出土した。図化できた内訳は杯蓋17～24・35、杯身25～34、高杯36～42、台付鉢43、碗44～46、短頸壺47・48、壺49～51、台付壺52～54、鉢55・68・69、ミニチュア壺56、壺57～67である。他に、陶片多数のはか土師器、石器S1・S4、獸齒1点が出土した。(第47～50・54図)

## 調査区5

調査区4-1から約13m南東の一段段高い畑地で、8×20mの大きさの調査区を設定し、重機で基盤層まで掘り進め、基盤面で遺構検出を行った。堆積層は調査区の西側寄りの壁面が一部崩落したが、基本的な堆積状況は確認することができた。上層から畑耕作土である第1層の灰色土、第2層の淡黃灰色粘質土、第3層の明灰色粘質砂と水平堆積し、第9層の明灰淡黄色粘質砂、第8層の暗灰褐色粘質土と続き、小礫片を含む第4層の灰褐色粘質土が約40～50cmの厚さで堆積し下層で基盤面となる第6層の白灰色粘土を確認した。(第15図)

遺構は、白灰色粘土の基盤層上面で直径20cm程の柱穴状のビットを2基検出した。

遺物は、第4層の灰褐色粘質土層から図化できた須恵器高杯71、土師器壺74の他、須恵器、土師

器の小片が出土した。(第51図)

### 調査区6

調査区5の約18m南側に位置し、畑の畦を挟み、東側に6×9mの大きさの調査区6-1と、西側に6×6mの大きさの調査区6-2を設定し、約20cmの耕作土を除去した後、基盤層上面まで重機で掘り進め遺構検出を行った。調査区6-1の堆積層は、上層から畑耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の淡黄灰色粘質土、第3層の明灰色砂、第4層の灰色砂がほぼ水平堆積していた。その下層は包含層となる第5層の暗灰色粘質土、第6層の暗灰色礫層、第7層の黄褐色礫層が西側に傾斜しながら堆積し、その下層で基盤層である第9層の黄灰色粘土を確認した。調査区6-2の堆積層は、上層から畑耕作土である第1層の灰淡黄色粘質土、第2層の淡黄灰色粘質土、第3層の暗灰色粘質土、第4層の褐灰色粘質土がほぼ水平堆積し、その下層に基盤層である第5層の黄灰色粘土を確認した。

遺構は、調査区6-1・2で柱穴状の小ピットを各1基検出した。

遺物は、調査区6-1の第5層の暗灰色粘質土から須恵器杯身70の他、少量の須恵器、土師器の小片が出土した。

### 調査区7

調査区6から農道を挟み約17mの南の畑に4×10mの大きさで設定した調査区である。調査は、畑耕作土を約20cm掘下げ、基盤層上面まで重機で掘下げ遺構検出を行った。調査区の堆積層は第1層から第5層まではほぼ水平堆積を呈するが、調査区中央部がやや深んでおり、第6層の淡黄灰色砂質土、第7層の暗灰色土、第8層の淡黄灰色砂質土が南側に向か傾斜して堆積している。(第18図)

遺構は、基盤層上面で検出を試みたが確認できなかった。

遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できる遺物はなかった。

### 調査区8

調査区7から約16m南側の一段下の畑に4×10mの大きさで設定した調査区である。畑耕作土から基盤層上面までを重機で掘下げ遺構検出を行った。

遺構は、基盤層上面で直径20~50cm大きさで、平面形は円形ないし隅丸方形を呈する柱穴状のピットを8基検出した。検出した柱穴のうち7基が調査区の南側に集中していた。柱穴1・6・7・4・2が径約2.5~3.0mの円弧を描くよう配されるが各柱穴の関係については不明である。(第19図)

遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できる物はなかった。

### 調査区9

調査区8から約3m南側でほぼ直交するように4×14mの大きさで設定した調査区である。畑耕作土から灰褐色粘質土の包含層上面まで重機で掘り進め、その後、黄灰色粘土の基盤層上面まで手作業で掘下げ遺構検出を行った。調査区の堆積層は、上層から耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の黄褐色粘質土、第3層の灰色粘質微砂、第4層の灰褐色粘質土、第5層の暗灰色土が水平堆積し、調査区の南側ではその下層で基盤層となる第6層の黄灰色粘土を確認した。

遺構は、調査区北側の基盤層上面で幅2.5m、深さ70cmを測り、断面が台形を呈する溝を1条検出した。

この溝は、北東から南西へ流走し、溝には第7層の暗灰色粘質土が堆積していた。溝の埋土から須恵器杯蓋、杯身、壺、石鏡1点などが出土した。

遺物は、埋土中から須恵器杯蓋、杯身、壺、壺、瓶、土師質竈、石鏡1点が出土した。

### 調査区 10

調査区9から約3m西側で畑一段下、調査区1の畑一段上に4×7.5mの大きさで設定した調査区である。畑耕作土から基盤層上面までを重機で掘下げ遺構検出を行った。調査区の基本的な堆積層は上層から耕作土である第1層の灰色土、第2層の黄色粘質土、第3層の明灰色粘質微砂、包含層である第5層の暗灰色粘質土がほぼ水平に堆積し、調査区の北側では第5層の下層で基盤層である淡黄灰色粘土を確認した。基盤面は南に向かい緩やかに傾斜しており、調査区の中央部から南側に向けて基盤面の上に第6層の灰色砂小礫層が堆積していた。(第22図)

遺構は、基盤層上面で直径20~25cmを測る柱穴4基を検出した。(第23図)

遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できる物はなかった。

### 調査区 11

調査区3から約5m南側で畠地が大きく一段下がる畑に3×7mの大きさで設定した調査区である。畑耕作土から基盤層上面までを重機で掘下げ遺構検出を行った。畠地を造成するために行われた開墾の跡が南側土手近くで認められた。調査区の基本的な堆積層は、上層から第1層の耕作土、第2層の灰色粘質微砂、第4層の明灰褐色粘質土が堆積し、その下層に包含層である第6層の暗茶灰褐色粘質土、小礫を含む第7層の灰褐色粘質土、角礫を多く含む第8層の灰茶灰褐色土が堆積し、その下層に基盤層が北側から南側に向かい傾斜している状況を検出した。(第24図)

遺構は、確認できなかった。遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が少量出土した。

### 調査区 12

調査区11から約4mの南側に位置し、大きく一段下がる畑に4×20mの大きさで設定した調査区である。調査区の北半分と南半分で基盤面の検出高が異なっていた。第1層の畑耕作土を約15cm、さらに第3層の灰褐色粘質土を約15cm掘下げると調査区北半分で第8層の黄褐色粘土の基盤層が現れた。南半分では約10cmの第6層の暗灰褐色粘質土の包含層が堆積していた。その下層では、基盤まで第7層の褐色小礫層が堆積していた。基盤面は調査区の中央部で落ち込みその後、南側に向かい緩やかに傾斜していた。(第25図)

遺構は、後世の開墾により削平されたようであり確認できなかった。遺物は、耕作土中から須恵器平瓶72、窯壁片が出土した。

### 調査区 13

調査区12の約7m南側に位置し、一段下がる旧水田に4×14mの大きさで設定し調査区である。耕作土を約20cm手掘りし、以下から基盤層である第7層の黄色砂利層までを重機で掘下げ遺構検出を行った。砂質の土壤のため、調査区の中央南寄りの東塁が崩落した。調査区北半分の基本的な堆積層は上層から耕作土である第1層の明灰淡黄色土、第2層の黄褐色粘質砂、第3層の明灰褐色粘質土、

第4層の灰褐色粘質土、第5層の黒灰色粘土が南側に向かい緩やかに下がりながら堆積する状況で確認できた。その下に基盤層となる第7層の黄色砂利層が緩やかに下がっていくことを確認した。(第13図)

遺構は、確認できなかった。遺物は、土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できるようなものはなかった。

#### 調査区 14

調査区13から約7m南側に位置し、一段下がる旧水田に4×20mの大きさで設定した調査区である。表土から明灰色粘質土の基盤層まで重機で掘下げ、遺構検出を行った。調査区の基本的な堆積層は上層から旧耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の黄褐色粘質土、第10層の灰白淡黄色粘質微砂、第8層の暗灰色粘土で、その下層が基盤層となる第5層の明灰色粘質土である。包含層と思われる暗灰色粘質土は検出できなかった。基盤面はやや起伏があり、調査区中央部分がわずかに低くなっている。(第27図)

遺構は、確認できなかった。遺物は、土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できるようなものはなかった。

#### 調査区 15

調査区14から約7m南側に位置し、一段下がる旧水田に3×20mの大きさで設定した調査区である。表土から灰色粘土の基盤層まで重機で掘下げ、遺構検出を行った。調査区が旧畑地であるため旧水田耕作土を取り下げるとき暗渠施設が5ヶ所にわたり残存していることを確認した。調査地の南半分の基本的な堆積層は、上層から旧水田耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の褐黃灰色粘質微砂、第3層の明灰色粘質土、第7層の灰褐色粘質土である。その下層に基盤層である第5層の灰色粘土を確認した。調査区の中央部では南側の基盤層を深さ約50cm掘下げ北側に向かい長さ約320cmにわたり掘り窪めた窪地状の箇所を確認した。窪地の堆積層は第8層の淡黃灰色粘質土である。何らかの遺構とは考えられないが性格は不明である。また、堆積層の中に調査区13と同様に包含層と思われる暗灰色粘質土層は認められなかった。(第28図)

遺構は、確認できなかった。遺物は、土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できるようなものはなかった。

#### 調査区 16

調査区15から約17m南側に位置し、一段下がる旧水田に3×22mの大きさで設定した調査区である。表土から明灰色粘土の基盤層まで重機で掘下げ、遺構検出を行った。調査区13と同様に包含層と思われる暗灰色粘質土層は検出されなかった。調査区の堆積層に砂質を含んでいたため基盤層掘下げ後、土層断面実測前に壁面が崩落を繰り返したため断面図は取れなかった。

遺構は、何も確認できなかった。遺物は、土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できるようなものはなかった。

### 調査区 17

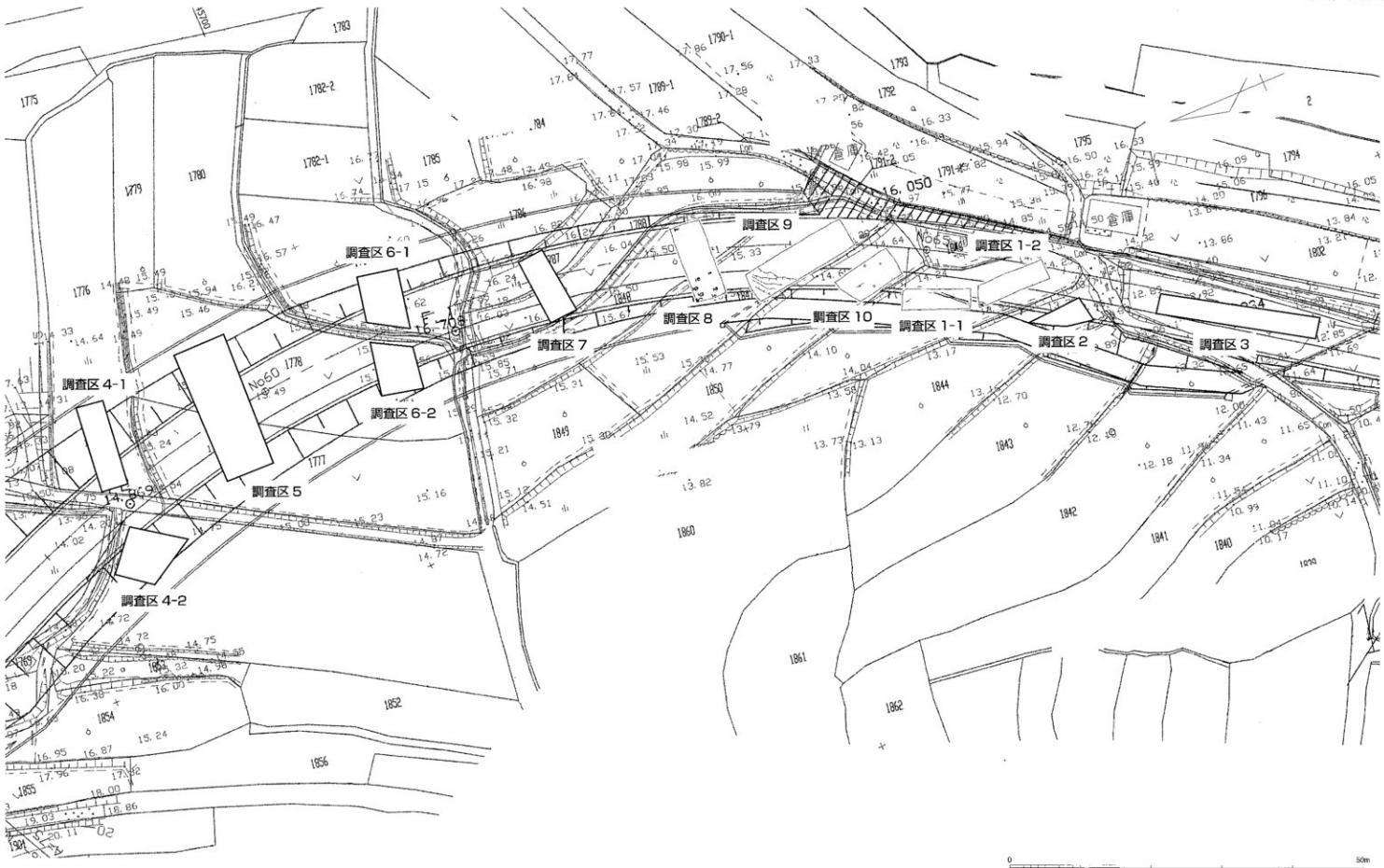
調査区 16 から約 30m 南西に位置し、当遺跡想定範囲の南端部に  $3 \times 8\text{m}$  の大きさで設定した調査区である。水田耕作土を約 20 cm 剥下げた後、重機により青灰色粘土層まで掘り進めた。調査区の堆積層は上層から耕作土である第 1 層の灰色粘土質、第 2 層の黄灰白色粘質微砂、第 3 層の明灰色粘質微砂、第 4 層の灰褐色微砂が水平堆積する。この層までは後世の水田開発によるものと考えられる。その下層は調査区の北半分と南半分では様相が異なり、北半分では、第 17 層の灰色粘土が南半分から北半分へ流れ込んで堆積した斜面部分へ、第 16 層の灰白褐色粘質土、第 10 層の褐灰色粘土上、第 9 層の黄灰色粘土が順に堆積していった状況が確認できた。南半分では、全体のベース状となる第 19 層の青灰色粘土上層に第 17 層の灰色粘土が南から北方向に向かい流れ込むよう堆積している。(第 29 図)

遺構は、たわみ状の窪地が 2ヶ所のみで他は検出できなかった。

遺物は、調査区下層から須恵器平瓶 73 の他、須恵器壺片が出土している。



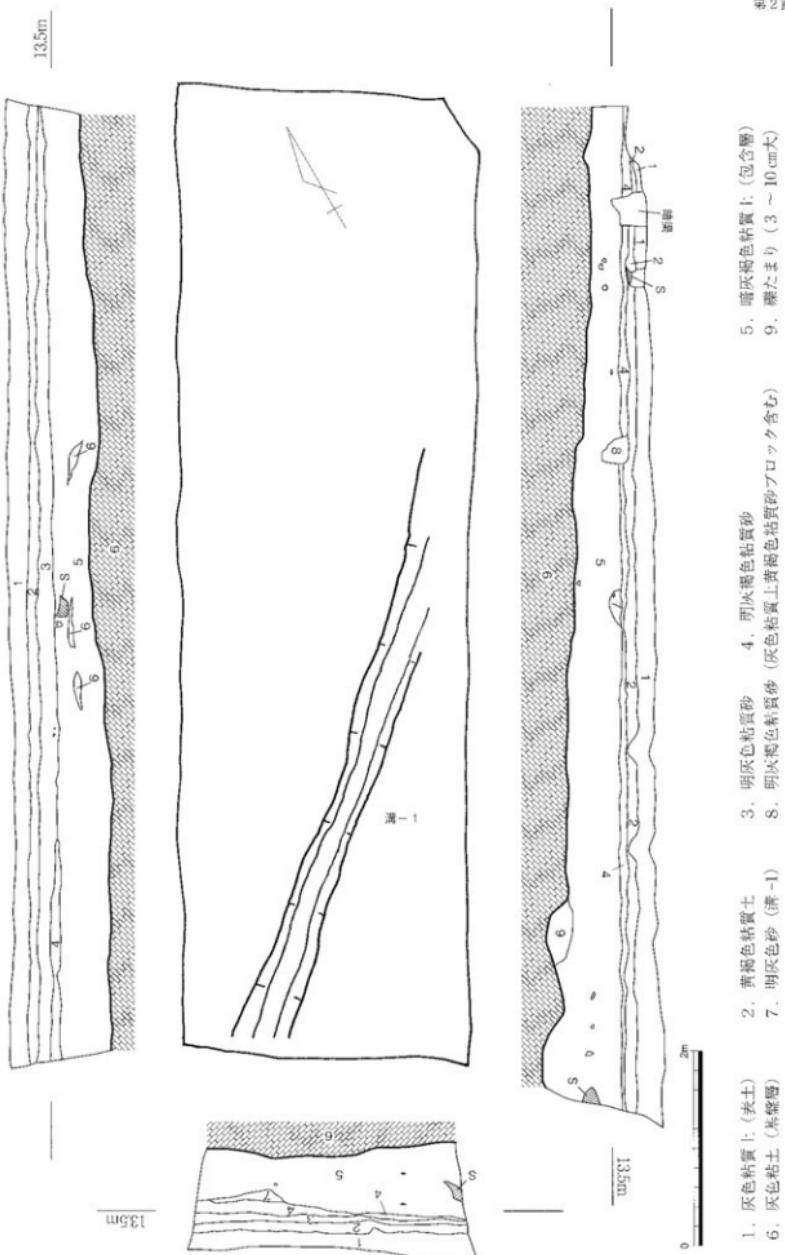
写真2 大谷口遺跡 調査区1 調査状況（北東から）



第8図 大谷口遺跡 調査区配置図(1)(1/500)

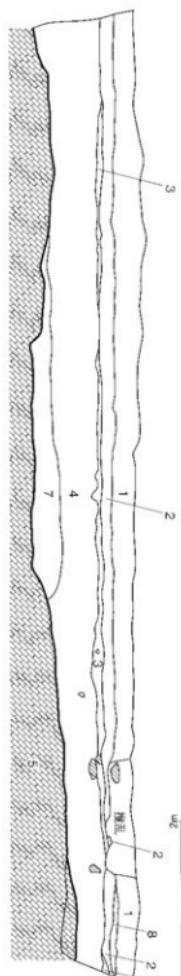
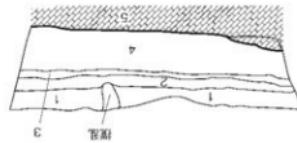
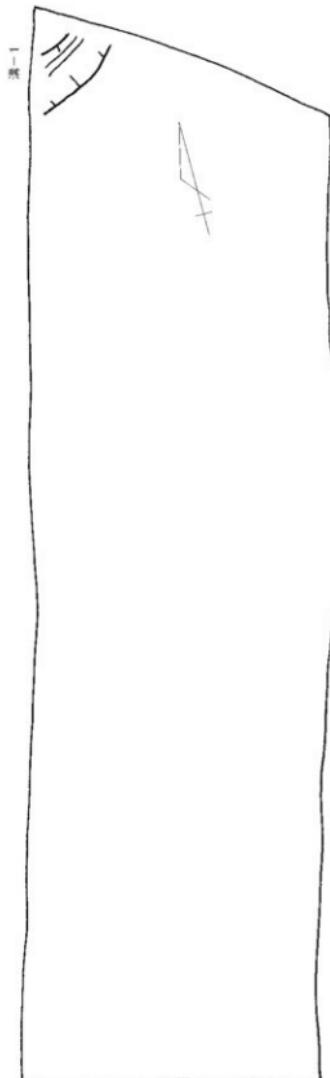
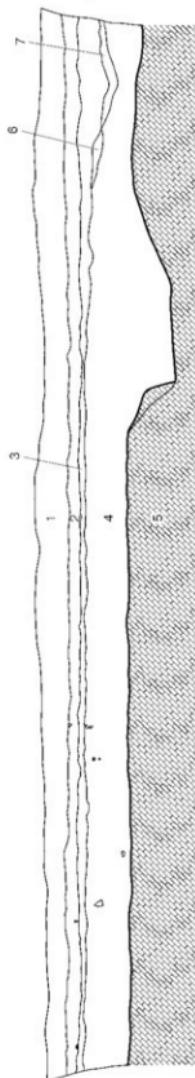


第9図 大谷口道路 調査区配置図 (2) (1/500)



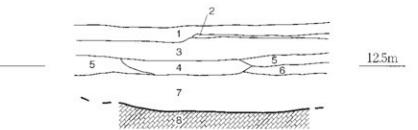
第10図 大谷口遺跡 調査区1-1 東壁・西壁・南壁断面図 (1/50)

13.5m



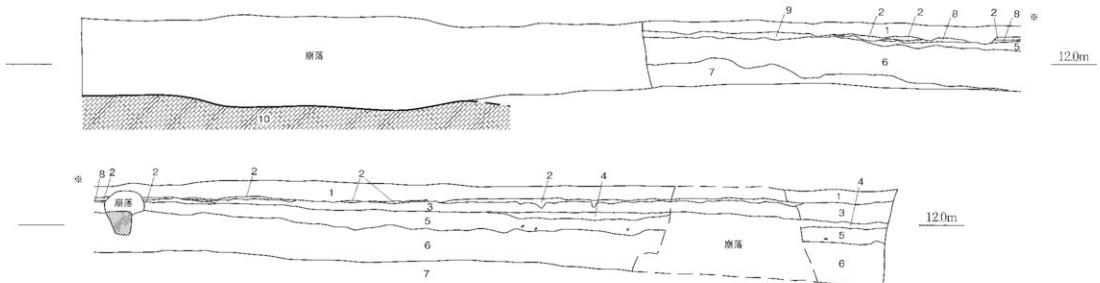
- 1. 灰色粘質土(堆積土)
- 2. 橙黃灰色粘質砂
- 3. 明灰色粘質砂
- 4. 墓灰褐色粘質土(包含層)
- 5. 明灰淡紫色粘土(基盤岩)
- 6. 灰色砂
- 7. 小破礫層(2cm大角砾丸石、灰黄色土含む)
- 8. 白灰色弱粘質砂

第11図 大谷口遺跡 調査区1-2 東壁・西壁・南壁断面 (1/50)



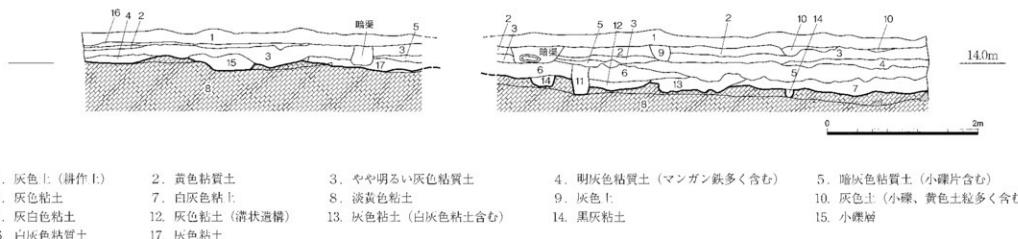
- |          |                   |                    |            |           |
|----------|-------------------|--------------------|------------|-----------|
| 1. 耕作土   | 2. 灰白色粘質土         | 3. 暗灰褐色粘質土（小礫多く含む） | 4. 淡黃灰色粘質砂 | 5. 灰褐色粘質土 |
| 6. 灰色粘質土 | 7. 暗灰褐色粘質土（礫多く含む） | 8. 灰色粘土（基盤層）       |            |           |

第12図 大谷口遺跡 調査区2 北東壁断面図 (1/50)



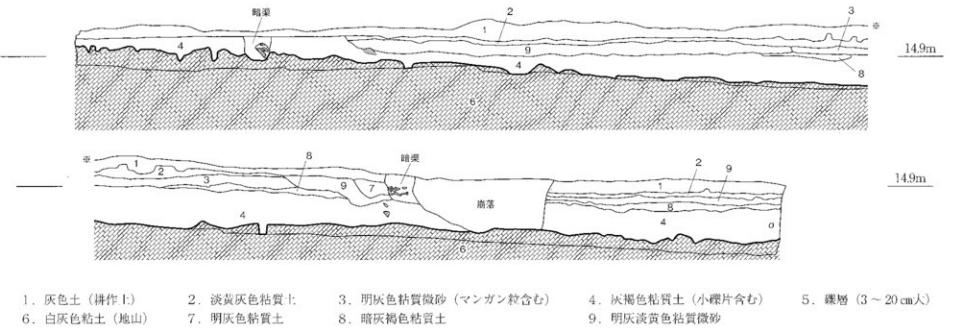
- |                |            |                 |           |                 |
|----------------|------------|-----------------|-----------|-----------------|
| 1. 灰色粘質土（堆耕作土） | 2. 明灰色弱粘質砂 | 3. 暗灰褐色粘質土      | 4. 明灰色粘質砂 | 5. 明灰色粘質土（小礫含む） |
| 6. 暗灰色粘質土（堆含む） | 7. 砂礫層     | 8. 黄褐色粘質土（小礫含む） | 9. 灰色粘質土  | 10. 淡黃灰色粘土（地山）  |

第13図 大谷口遺跡 調査区3 東壁断面図 (1/50)

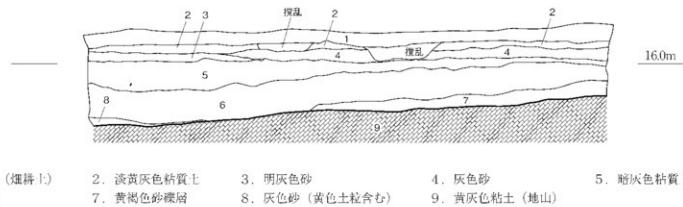


- |             |                |                   |                      |                      |
|-------------|----------------|-------------------|----------------------|----------------------|
| 1. 灰色土（耕作土） | 2. 黄色粘質土       | 3. やや明るい灰色粘質土     | 4. 明灰色粘質土（マンガン鉄多く含む） | 5. 暗灰色粘質土（小礫片含む）     |
| 6. 灰色粘土     | 7. 白灰色粘土       | 8. 淡黄色粘土          | 9. 灰色土               | 10. 灰色土（小礫、黄色土粒多く含む） |
| 11. 灰白色粘土   | 12. 灰色粘土（清状構造） | 13. 灰色粘土（白灰色粘土含む） | 14. 黑灰粘土             | 15. 小礫層              |
| 16. 白灰色粘質土  | 17. 灰色粘土       |                   |                      |                      |

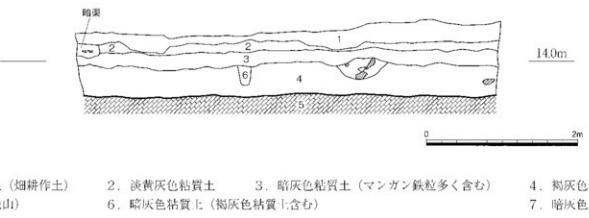
第14図 大谷口遺跡 調査区4-1 南壁断面図 (1/50)



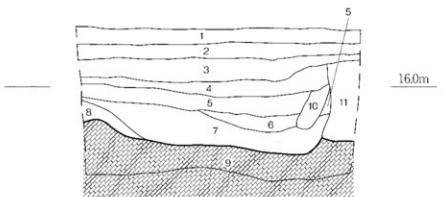
第15図 大谷口遺跡 調査区5 南壁断面図 (1/50)



第16図 大谷口遺跡 調査区6-1 北壁断面図 (1/50)

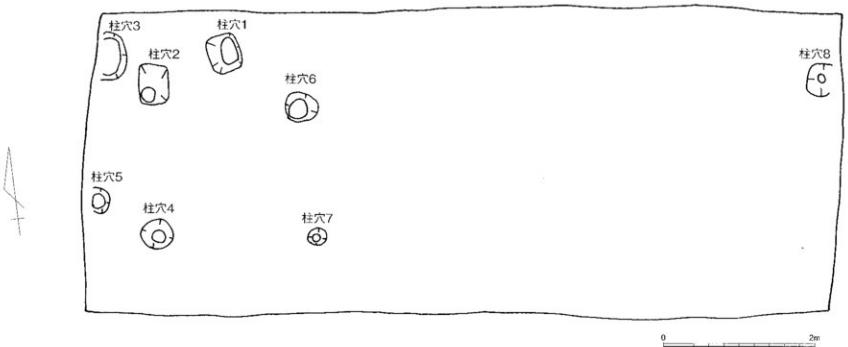


第17図 大谷口遺跡 調査区6-2 西壁断面図 (1/50)

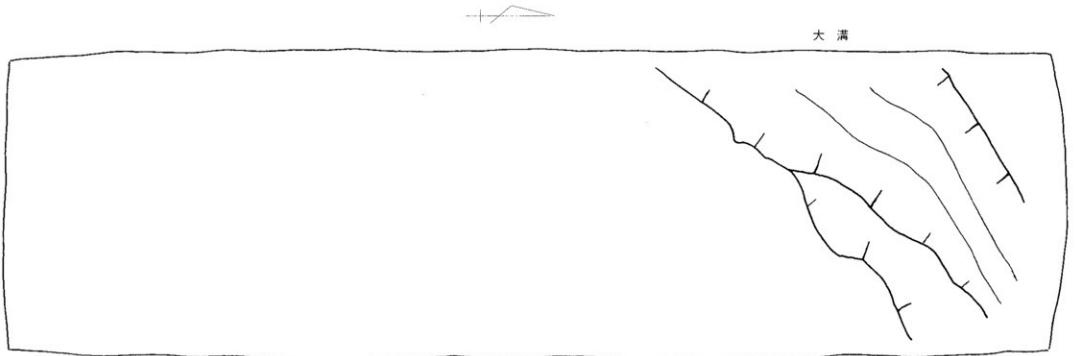


- |                   |                  |                         |
|-------------------|------------------|-------------------------|
| 1. 島灰色土(珪土)       | 2. 灰黃色弱粘質土(珪煙耕土) | 3. 茶褐色粘質土               |
| 4. 灰茶褐色粘質土        | 5. 灰茶褐色粘質土(疊含む)  | 6. 淡黃灰色砂質土(暗灰褐色土ブロック含む) |
| 7. 暗灰色土(角礫多く含む)   |                  | 8. 淡黃灰色砂質土              |
| 9. 白灰色粘土          |                  | 10. 暗灰色粘質土              |
| 11. 茶褐色粘質土(礫多く含む) |                  |                         |

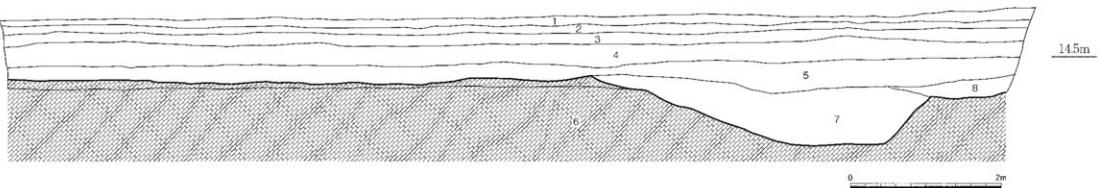
第18図 大谷口遺跡 調査区7 東壁断面図 (1/50)



第19図 大谷口遺跡 調査区8 平面図 (1/50)

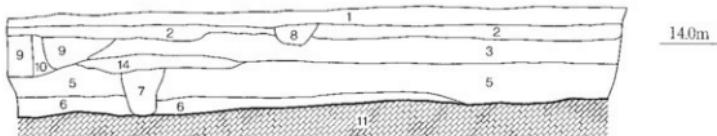


第20図 大谷口遺跡 調査区9 平面図 (1/50)



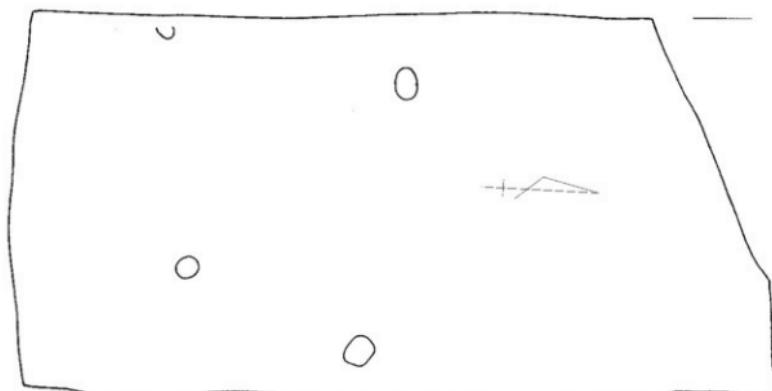
- |                    |                            |           |           |                |
|--------------------|----------------------------|-----------|-----------|----------------|
| 1. 灰色粘質土（耕作土・ぶどう畑） | 2. 黄褐色粘質土                  | 3. 灰色粘質微砂 | 4. 灰褐色粘質土 | 5. 暗灰色土（礫多く含む） |
| 6. 黄灰色粘土（地山）       | 7. 暗灰色粘質土（2~10cmの礫・土器多く含む） |           |           | 8. 灰褐色砂礫       |

第21図 大谷口遺跡 調査区9 南西壁断面図 (1/50)

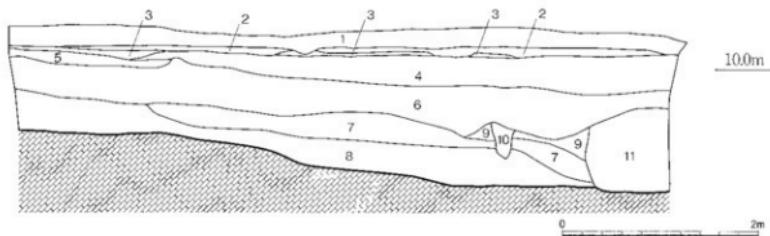


1. 灰色土（耕作土ぶどう畑）  
2. 黄色粘質土  
3. 明灰色粘質微砂  
4. 褐灰色粘質土（黄色土粒含む）  
5. 暗灰色粘質土（包含層）  
6. 灰色砂小礫層  
7. 黒灰色粘質土  
8. 搾乱  
9. 明灰色粘質微砂  
10. 暗灰色粘質土  
11. 淡黃灰色粘土（地山）

第22図 大谷口遺跡 調査区10 西壁断面図 (1/50)



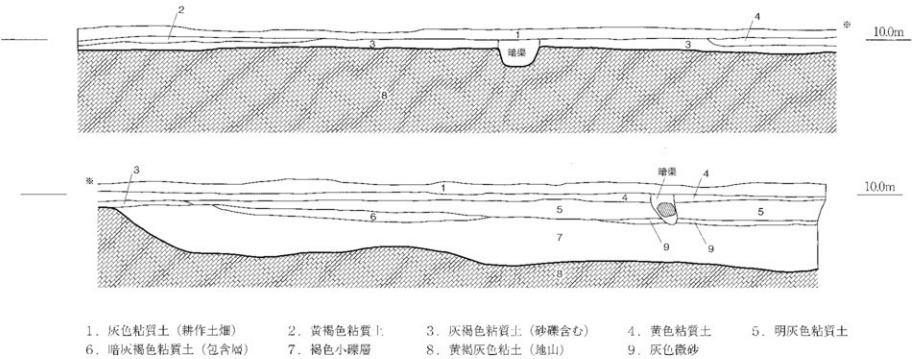
第23図 大谷口遺跡 調査区10 平面図 (1/50)



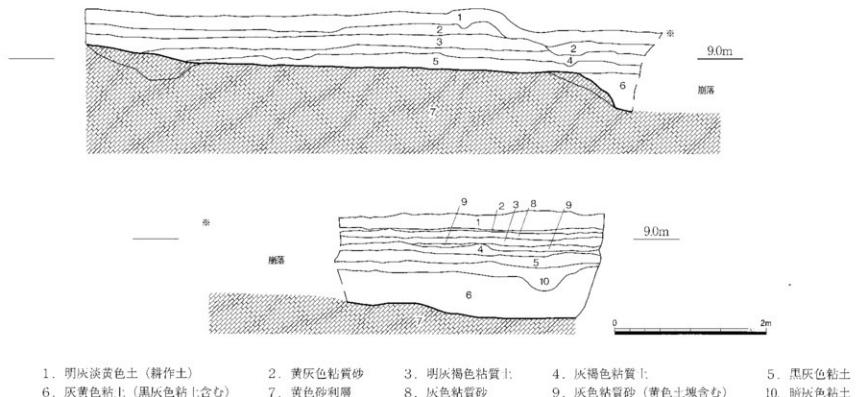
1. 耕作土  
2. 灰色粘質微砂  
3. 黄褐色粘質微砂  
4. 明灰褐色粘質土  
5. 明灰褐色粘質土（小礫やや多く含む）  
6. 暗茶灰褐色粘質土（包含層：小礫含む）  
7. 灰褐色粘質土（小礫含む）  
8. 暗茶灰褐色粘質土  
9. 褐灰色粘質土  
10. 暗茶灰褐色粘質土  
11. 茶灰褐色粘質土（角礫、丸石多く含む）

第24図 大谷口遺跡 調査区11 東壁断面図 (1/50)

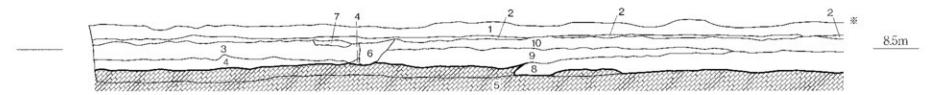




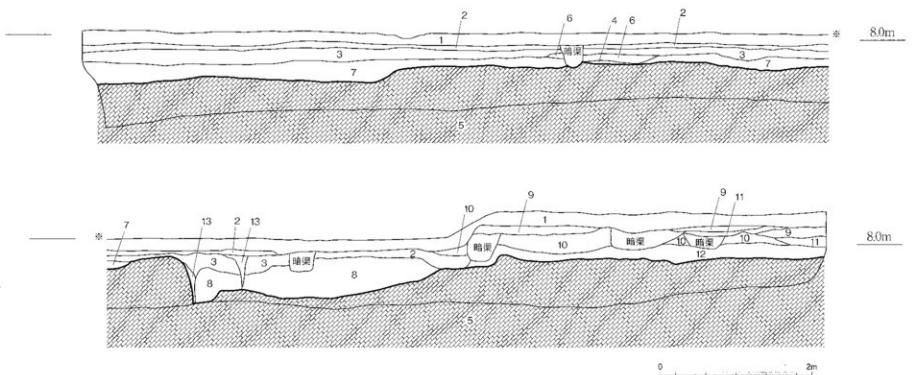
第25図 大谷口遺跡 調査区12 東壁断面図 (1/50)



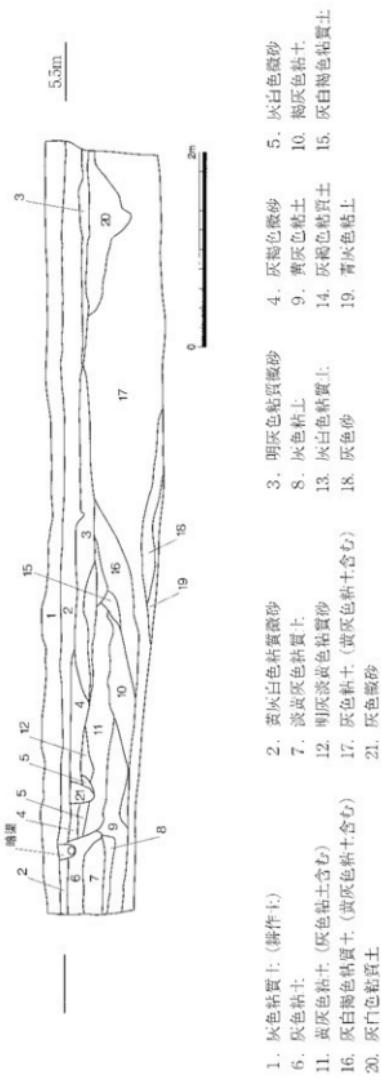
第26図 大谷口遺跡 調査区13 東壁断面図 (1/50)



第27図 大谷口遺跡 調査区14 西壁断面図(1/50)



第28図 大谷口遺跡 調査区15 西壁断面図(1/50)



第29図 大谷口遺跡 調査区17 東壁断面図 (1/50)

### 第3節 北池向遺跡

邑久町山手の高砂山（標高135m）の北端部に形成された舌状台地に立地する遺跡で邑久町北池の集落がある小盆地状の小平野を望む。遺跡地内を東西に横切る形で、工事計画地内になっていた。このため、試掘調査の成果をもとに2×10mの調査区を5箇所設定し発掘調査を行った。（第30図）

#### 調査区1

計画地内の西端部に設定した調査区である。山裾が竹やぶになっており畑地の側まで迫ったところである。調査区の南側は、畑耕作となる第1層の灰色粘質土層、第2層の灰色粘質土層の除去後、近現代の搅乱土壤状の構造を1基検出した。さらに耕作床上である第3層の暗灰黄色粘質土層、第4層の黄灰色土層を約30～40cm掘下げると地山層の黄灰色土が現れた。調査区の北側は畑耕作土の下層は、第2層の灰色粘質土層、第3層の暗灰黄色粘質土層が約20cmに厚さで堆積し、下層には地山層の黄灰色土を検出した。基盤面は凸凹していた。（第31図）

遺構は認められなかった。遺物は検出・出土しなかった。

#### 調査区2

調査区1から約15m東の位置に設定した調査区である。調査区1と同様に約15cmの耕作土である第1層の灰色粘質土を除去後、第5層の黄灰色土である地山面までの堆積層は、上層から第2層の灰色粘質土、第3層の黄灰色粘質土、破砕を下層に多く含む第4層の黄灰色土の3層である。地山面は南から北方向へ緩やかに傾斜していた。

遺構については地山面まで掘り下げたが、認められなかった。（第32図）

#### 調査区3

計画地のはば中央で、遺跡の想定範囲の南側中央付近に位置し、調査区2から約15m東に設定した調査区である。調査区の南側半分はぶどう畠として調査直前まで使用されていた地点である。調査区南半分の堆積層は、上層から畑耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の灰色粘質土、第3層の黄灰色粘質土、破砕を多く含む第5層の暗灰黄色土、第6層の黄灰色土の4層である。地盤面の海拔は約7.0mである。調査区北半分の堆積層は、上層から第3層の黄灰色粘質土までは南半分の調査区と同様であるが、調査区中央部で約35cmの地山面が段差を持ち北半分が低くなっている。堆積層は破砕を多く含む第4層の黄灰色土である。地山面は北側に向かい緩やかに傾斜している。

調査区南端の耕作土下層で不定形の土壤状の構造が1基検出されたが、用途・時期等不明である。その他に遺構は認められなかった。（第33図）

#### 調査区4

調査区3から約15m東の位置に設定した調査区である。調査区3と同様南側1/3はぶどう畠になっている。調査区の北2/3は他の調査区同様に第1層の灰色粘質土である畑耕作土の下層を約70～80cmまで掘り下げた結果、上層から第2層の明灰色粘質土、第3層の淡灰黄色土、角鱗片を多く含んだ

第4層の黄灰色土層を検出した。また、調査区の1/3はぶどう畑の杭痕跡により搅乱を受けていたが、第1層の灰色粘質土である畑耕作土から下層は、第3層の淡灰黄色土、第5層の淡灰黄色土、第6層の黄灰色土、第7層の黄灰色土、第8層の黄灰色土、第9層の黄灰褐色土の合計6層に分かれたが、基盤層と思われる風化礫層が見られなかった。そこで調査区東側にサブトレーンチを設け、調査区の1/3を現地表面から約1m掘り下げ、土層観察を行ったが下層の土質に変化が見られないことから、かつてやや深い谷部を埋め立てる大掛かりな造成を行い、畑地とぶどう畑にしたようであることが推測された。このため、遺構は認められなかった。(第34図)

### 調査区5

調査区4から約15m東の位置に設定した調査区である。調査区4と同様南側1/3はぶどう畑になっている。調査区の北半分は、第1層の畑耕作土である灰色粘質土から下層は、第4層の淡黄灰色土、第5層の淡灰黄色土、第6層の黄灰色粘質土の3層に分かれる。調査区の南半分は、畑耕作土である第1層の灰色粘質土から下層は、第2層の暗灰色粘土、第3層の暗灰色粘質土、第5層の淡灰黄色土、第7層の黄灰色粘質土、第8層の黄灰色粘質土、第12層の淡灰黄色土の6層に分かれた。調査区4と同様に、大掛かりな造成を行いぶどう畑にしたようであることが確認できた。調査区の北よりで地山面を約20cm掘り込み、幅約80cm、深さ約60cmを測る、近代の土壤状のビットが1基確認できたが、その他には遺構は認められなかった。(第35図)

### 遺物

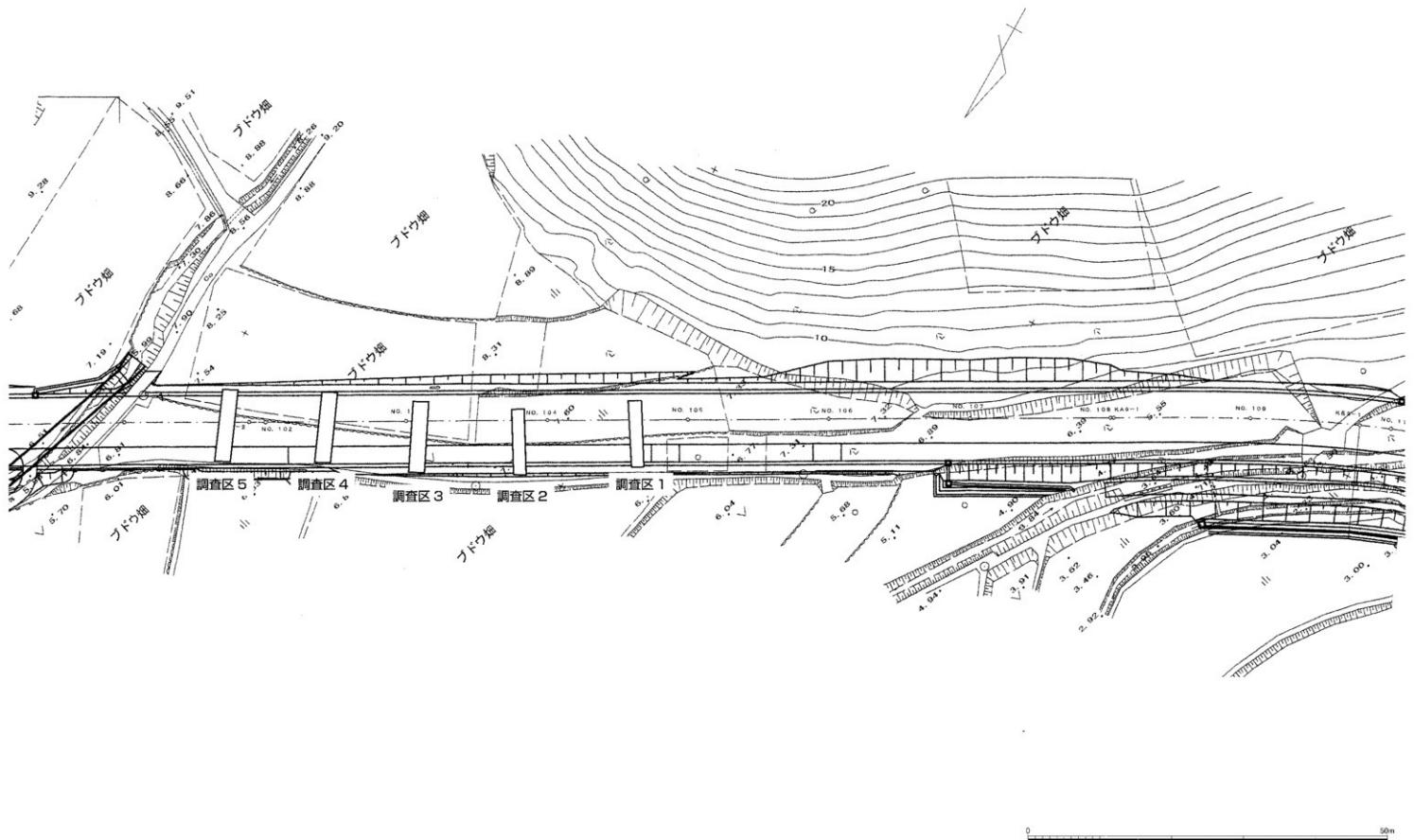
調査区1～5で出土した遺物はいずれも、磨耗した土師器片であり出土量もごく少量であった。おそらく当地南側の丘陵斜面からの流れ込みではないかと思われる。時期を特定できる遺物はなかった。



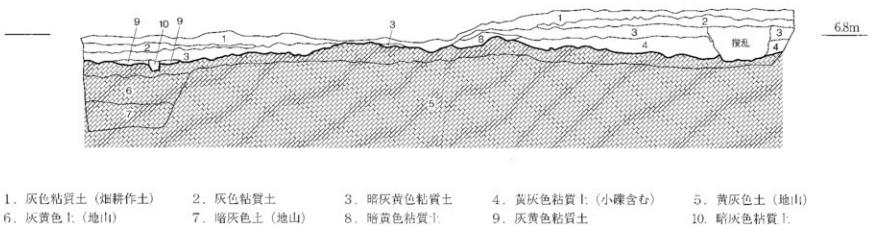
写真3 北池向遺跡 遠景（北東上空から）



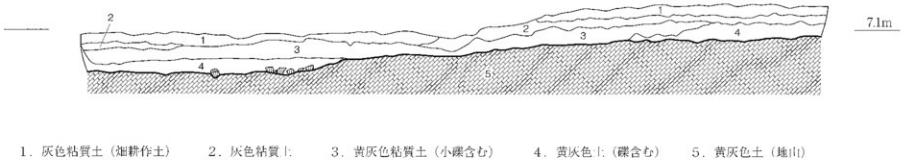
写真4 北池向遺跡 調査区5 調査状況（東から）



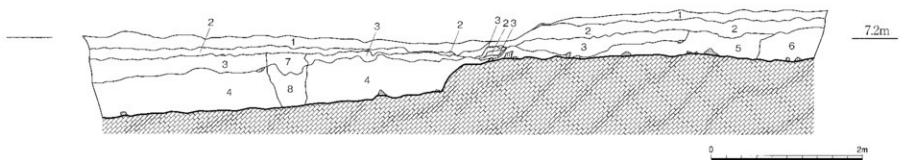
第30図 北池向遺跡 調査区配置図 (1/500)



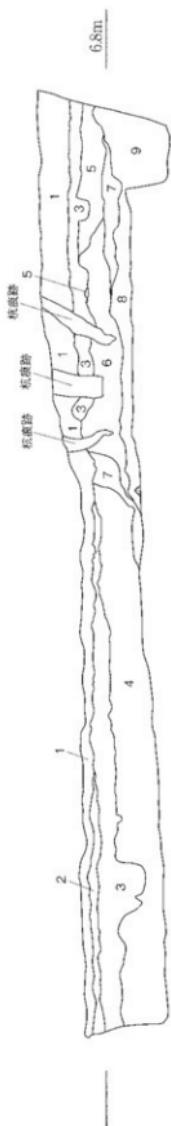
第31図 北池向遺跡 調査区1 東壁断面図 (1/50)



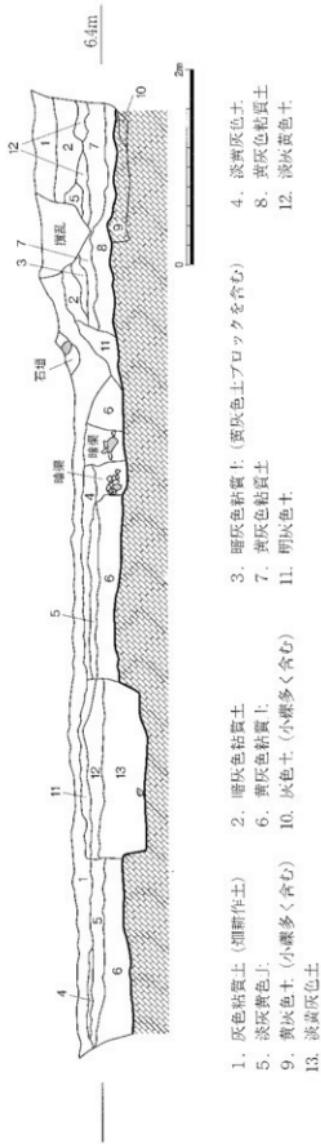
第32図 北池向遺跡 調査区2 東壁断面図 (1/50)



第33図 北池向遺跡 調査区3 東壁断面図 (1/50)



第34圖 北池向遺跡 調査区4 東壁断面図 (1/50)



第35圖 北池向遺跡 調査区5 東壁断面図 (1/50)

## 第4節 山田辻畠遺跡

邑久町山手の標高135mの高砂山と邑久町山田庄の貴船神社の立地する丘陵の谷部にあたり、南西に広大な千町平野を望む、南北に伸びる標高6mを測る丘陵の頂部から西側斜面にかけてが、工事計画地内になっていた。そこで、試掘調査の成果をもとに丘陵部に4箇所、低位部に1箇所の計5箇所の調査区を設け調査を行った。(第36図)

### 調査区1

計画地内の丘陵頂部から南へ緩やかに下がる畠地の斜面に設定した調査区である。4×20mの南北に長い調査区を設定し調査をした結果、厚さ約20cmの第1層の暗灰褐色土層である畠耕作土を除去すると南側低位部では、直下が岩盤層の風化角礫を含む第5層の角礫層がありその下が地山層であった。北側の高位部側から調査区中ほどにかけては、耕作土下に第2層の黄灰色土が約10cm堆積し、その下層には岩盤層の風化礫を含んだ第3層の灰黄色土層が約10cm堆積していた。また、岩盤面の崖地には、岩盤層が風化した粘質の強い第4層の黄灰色粘質土が堆積していた。(第37図)

遺構等は確認できなかった。

遺物は、表土から第3層の灰黄色土層にかけて少量の土師器片、須恵器片が出土した。

### 調査区2

調査区1の北側半坦部から西側へなだらかに傾斜する位置に設定した調査区で、西端部は急激に落ちている。2×16mの東西に長い調査区を設定し調査をした結果、調査区東部は、第1層の暗灰褐色土層である畠耕作土が堆積し、直下は岩盤層であるが、調査区の中ほどから西側は耕作土と岩盤層の間に岩盤層が風化し粘土質になった第4層の赤黄褐色粘質土や第3層の地山礫片が多く含む茶灰色粘質土が堆積している。(第38図)

遺構は確認できなかった。

遺物は、調査区1と同様、表土から第3層の地山面にかけて土師器片、須恵器片が僅かに出土した。

### 調査区3

計画地内の南端部で緩やかに下がる斜面から丘陵端部に設定した当遺跡の想定範囲南端部に位置する幅10m、最大長20mの調査区である。調査区1を設定した畠地からは、大きく一段下がる畠地である。遺構は、調査区中央分で50基足らずの多数の柱穴、土壙1基、貝塚1箇所などを検出している。検出した多数の柱穴は、直径が30~45cmの大きさのものと20cm弱の大きさのものに分かれている。いずれの柱穴も、その多くが基盤層を数十cm掘り込んでいる。土壙1は、調査区の中央西寄りで検出した。大きさは、東西120cm、南北80cm、深さ50cmを測り、平面形は橢円形を呈している。堆積土は2層に分層でき、下層に約10cmの厚さで灰黄色粘質土、上層は、10~20cm大の角礫十数個を含む明灰黄色粘質土である。遺物として、土師器片が出土している。丘陵最南端部で小規模な貝塚を検出した。規模は、東西4.0m、南北3.0mの範囲に広がり、厚さは最大部で30cmを測る。貝塚を形成する貝はすべてヤマトシジミで構成され、第43図第3層の貝塚上層から97と貝塚下層から縄文土器99~101が出土した。

(第39～43・56図)

遺物は、畑耕作土および耕作床上では須恵器片、土師器片が少量出土している。その下層の第10層明灰黄色土層から土師質の瓶 107 が出土した。また、基盤層直上の第3層暗灰色粘質土層、第5層暗灰褐色粘質土層からは、弥生土器高杯 102、甕 103 を含む土器片が多數出土しており、特に南端部の落ち際付近では、まとまって出土している。このほかにも表土から包含層にかけて土師器高杯 104、瓦質の土鍋 106、土鍤 C 3 が、廃土中から須恵器杯身 105 が出土した。

#### 調査区 4

調査区 2 の北側で丘陵部西端部に設定した調査区である。2×6m の調査区を設定し調査した結果、丘陵の斜面に並行するように基盤層を掘り込んだ幅約 0.6m、深さ約 0.2m を測る溝状造構を 1 条確認した。この溝状造構は、基盤層が風化、堆積した第6層の黄橙色の砂礫が堆積していた。

遺物は調査区全体でもほとんど見られず、わずかに土師器、須恵器の小片が出土した。

#### 調査区 5

計画地内での丘陵西側の低地部の北部に設定した調査区である。2×8m の調査区を設定し調査した結果、丘陵西側の壠部が確認できた。厚さ約 20cm の耕作土を除去すると調査区西側 2/3 は、耕作土床土である第2層の黄灰色土が約 20cm 堆積し、その下層に小砾片を多く含んだ第3層の黄褐灰色粘質土が堆積し、下層は基盤層になっている。

遺物は、第3層から磨耗した少量の土師器、須恵器の小片が出土した。

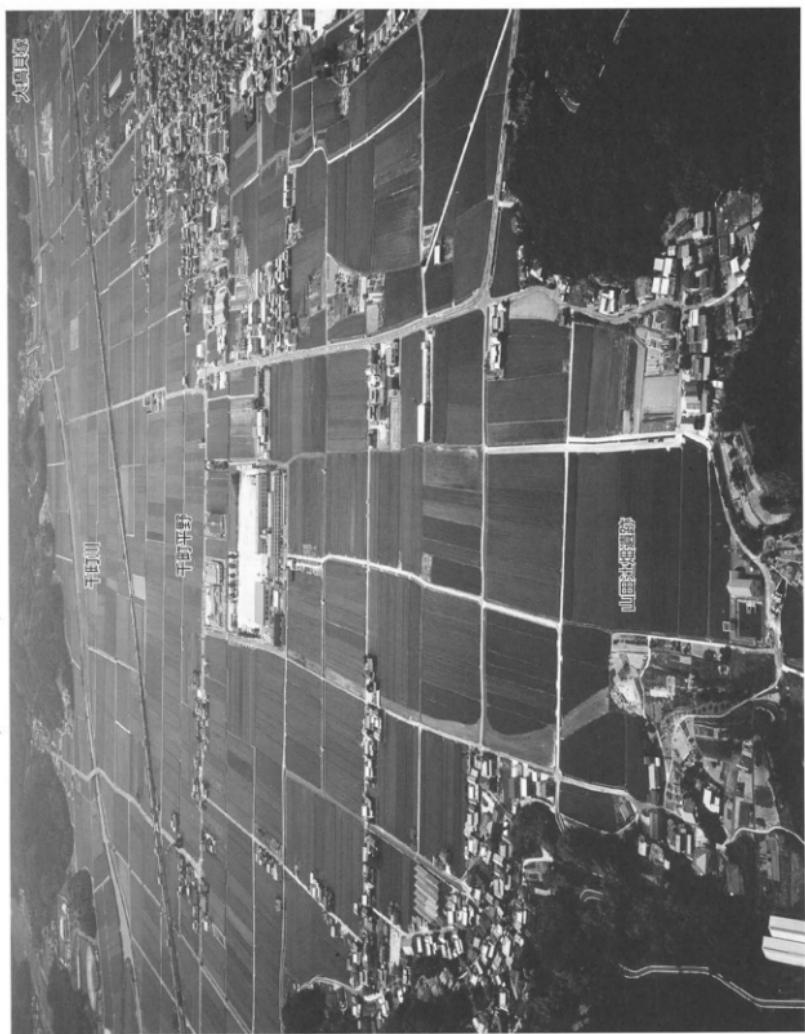
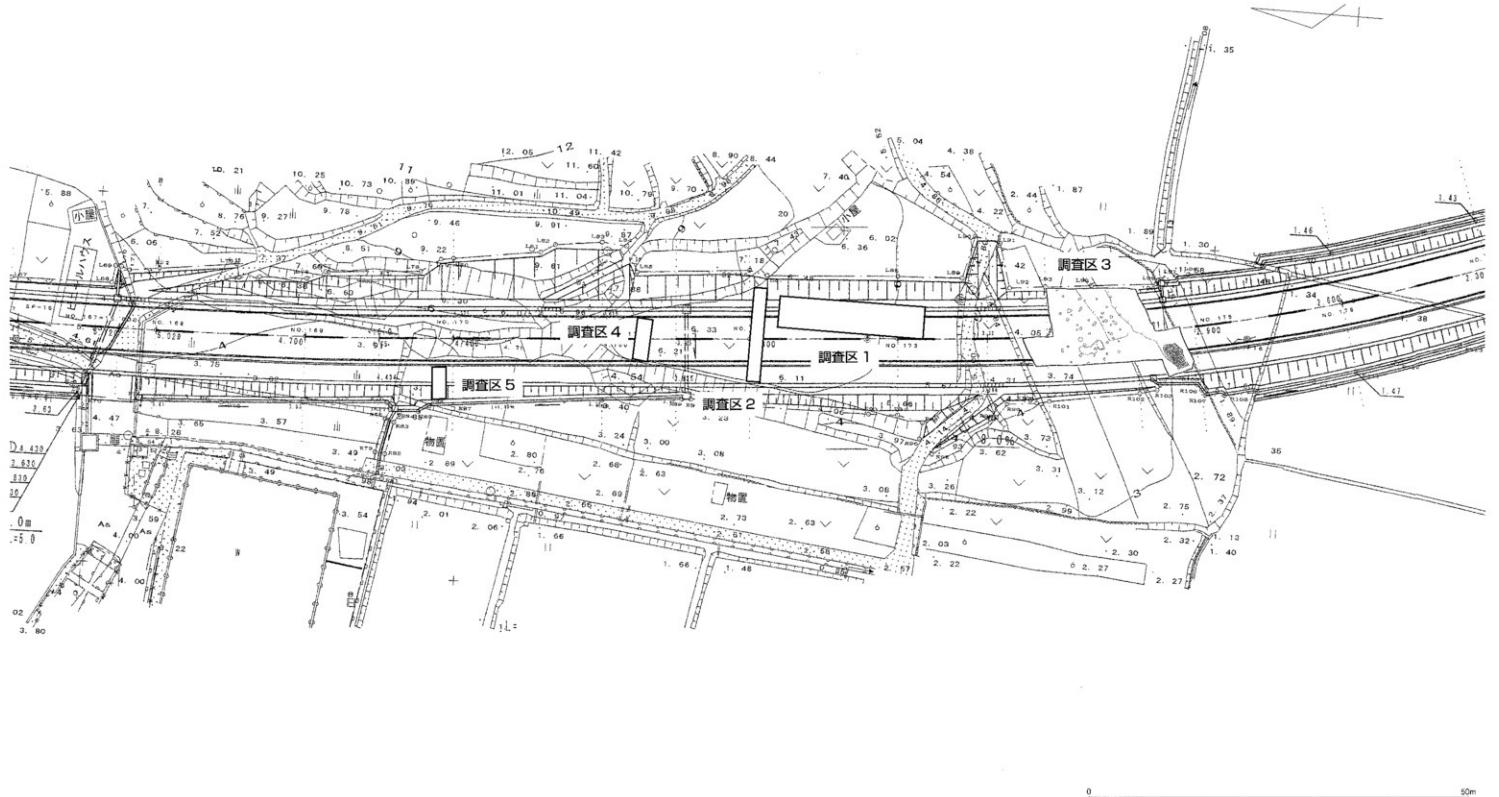
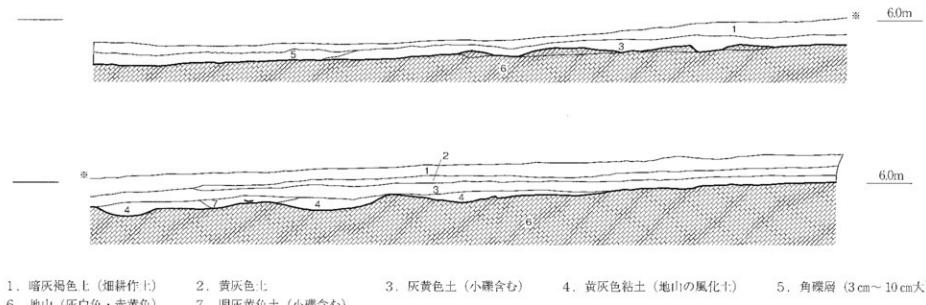


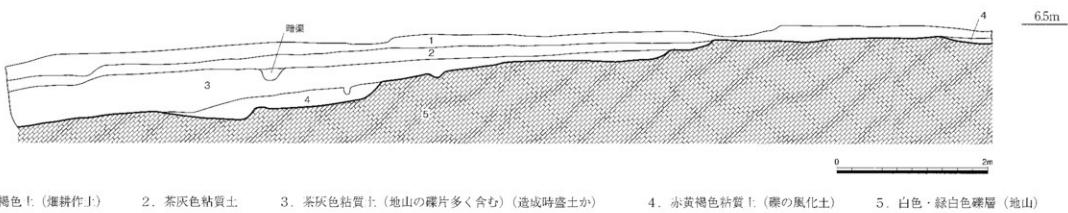
写真5 山田土壌整備圃跡地航空写真（北上空から）



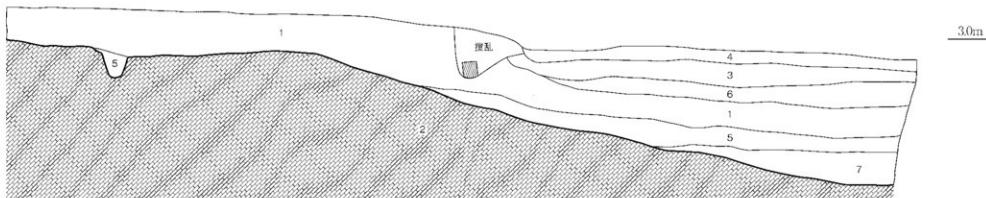
第36図 山田辻畠遺跡 調査区配置図 (1/500)



第37図 山田辻畠遺跡 調査区1 西壁断面図 (1/50)

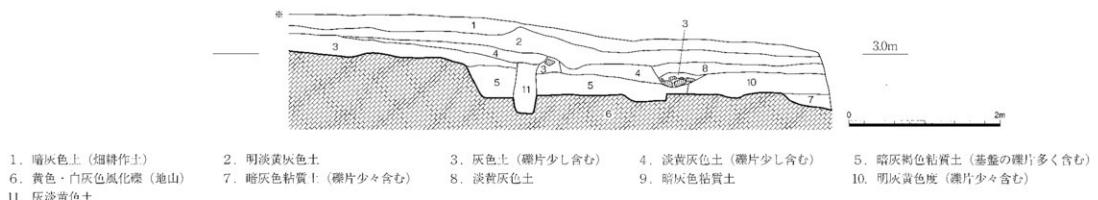
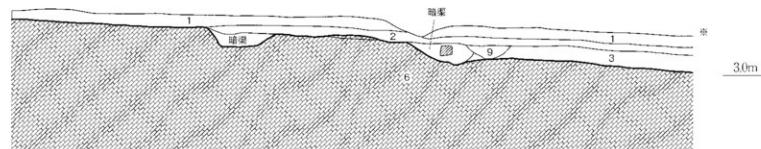


第38図 山田辻畠遺跡 調査区2 北壁断面図 (1/50)

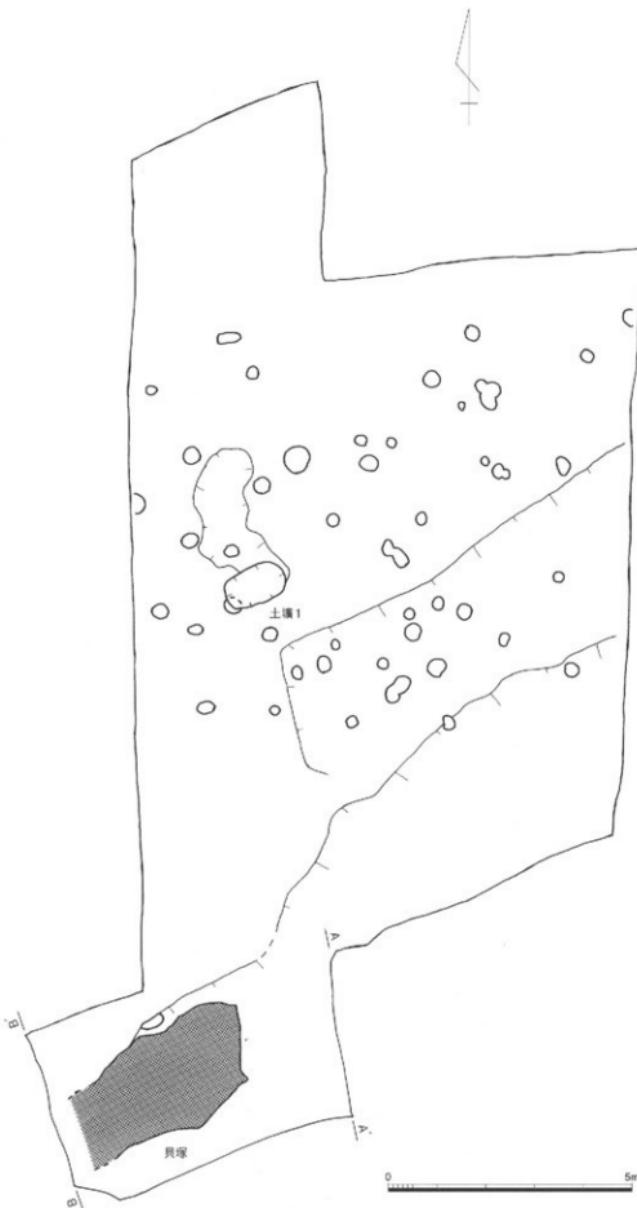


1. 灰色粘質微砂（粘土）  
2. 灰白色礫（地山）  
3. 淡黃灰色粘質土  
4. 灰色粘質微砂（細耕作土）  
5. 灰色粘質土（小礫片含む）  
6. 明灰色粘質土  
7. 暗灰色粘質土（粘土上器多く含む・小礫片含む）

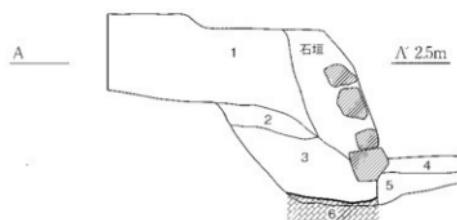
第39図 山田辻畑遺跡 調査区3 東壁断面図（調査区3 東塀張区）(1/50)



第40図 山田辻畑遺跡 調査区3 中央断面図 (1/50)

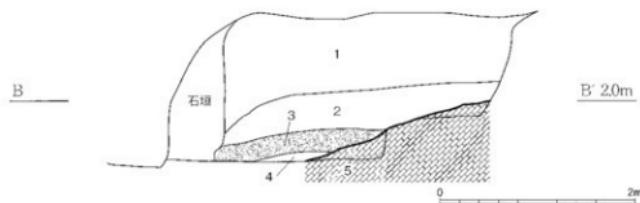


第41図 山田辻畠遺跡 調査区3 平面図 (1/100)



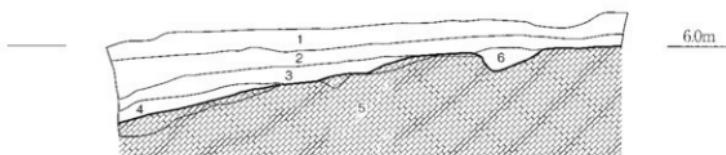
1. 明灰淡黄色粘質微砂（耕作土）  
2. 灰色粘質土（小礫含む）  
3. 暗灰色粘質土（包含層小礫含む）  
4. 水田耕土（暗灰青色粘質土）  
5. 灰色粘土（水田床土）  
6. 地山

第42図 山田辻畠遺跡 調査区3 東壁断面図 (1/50)



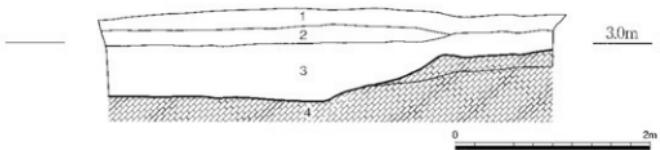
1. 灰淡黄色土（畠土）  
2. 暗灰色粘質土（小礫片含む）  
3. シジミ貝層  
4. 赤黄色粘質土  
5. 地山

第43図 山田辻畠遺跡 調査区3 貝塙西壁断面図 (1/50)



1. 暗茶灰色土（畠耕作土） 2. 明灰茶色粘質土  
4. 灰茶色粘質土 5. 基盤風化土（灰白色・黄茶色疊合む） 6. 黄橙色砂礫

第44図 山田辻畠遺跡 調査区4 北壁断面図 (1/50)



1. 暗灰淡黄色粘質土（畠耕作土） 2. 黄灰色土  
3. 黄褐灰色粘質土（小砾片含む） 4. 黄褐色粘質土

第45図 山田辻畠遺跡 調査区5 北壁断面図 (1/50)



写真6 山田辻畠遺跡 調査区3 貝塚調査状況（北から）



写真7 山田辻畠遺跡 調査区3 貝塚検出状況（北から）

## 第4章 まとめにかえて

### 第1節 遺跡の意義について

#### 福里遺跡

今回発掘調査した調査区は想定している遺跡の範囲の南縁部にあたる。

平成5年(1993)に干田川改修工事に伴う発掘調査を行った際に、遺跡東側の調査区からやまとまつて古代の須恵器が出土したほかは、検出遺構も中世以降のものが大半を占め、遺構密度も希薄で、出土した遺物も少量であったと報告されている。(註1) 今回の調査範囲でも、溝状遺構と柱穴・土壤状遺構を検出したが遺構密度は低く、いずれも時期を特定できる遺物はなかった。

今回の調査区を含め現在の干田川から南側での遺構検出が少ない理由は、基盤層上面での旧地形の残存状態が良く小さな凹凸まで(図版1)残っていることから、単純に削平によって遺構が消滅したとは考えにくく、干田川の流路が元禄3年(1690)に改修され、現在の位置になる以外に大きな削平を受けずに断続的に水田が営まれていたのではないかと考えられる。

前回の岡山県教育委員会の埋蔵文化財発掘調査報告書でも記されているが、出土遺物の少なさや遺構密度の低さから、遺跡の中心部は現在の干田川から北側に存在していると考えられる。

また、干田川南側で今回の調査区4の西側の調査区から縄文時代後期の土器が、東側の調査区から奈良時代から鎌倉時代にかけての須恵器がまとまって出土している。さらに、木鍋山の北裾を挟んだ西側の土師東遺跡からも縄文時代後期の土器が出土していることから、縄文時代の遺跡が希薄な地域にあって木鍋山近辺に縄文時代の遺跡の存在を考えてもよいと思われる。

#### 大谷口遺跡

大谷口遺跡は、長船町宮下から邑久町北池集落を経て桂山の南西裾をとおり長船町亀ヶ原から邑久町水落へ抜ける古道があり昭和30年代まで、往来があったと聞いている。ここを通る行程は錦海湾、尻海へ行くには最短となり生産された須恵器の製品を陸路で錦海湾・尻海へ運び海路にて都へ搬入する経路としては適していると思われる。

近年では、軒作等により水田からぶどうや梅などの果樹園や畑としての使用が多くになっているところがあり、そのための大掛かりな地形改変が行われた形跡がいくつか窺える。

これまで遺跡西側の甲山から北東へ派生する舌状丘陵の東斜面には6世紀中葉の木鍋山1号窯跡が確認されている。また、遺跡東側の桂山南東斜面には7世紀前半の亀ヶ原1号窯を初め複数の窯が確認されていたが、木鍋山1号窯跡から亀ヶ原1号窯跡までの桂山の西側斜面から南側斜面また、甲山西側斜面から南側斜面にかけては、窯の存在が確認されておらず、邑久古窯跡群の中で木鍋山1号窯跡が長船平野に近接し独立したような存在であった。

大谷口遺跡で想定する窯は、調査区位置が大きく離れた調査区4のグループと調査区1及び調査区9のグループに分けられる。いずれの調査区からも大小多数の窯壁片とともに多数の須恵器片が出土している。これらの出土遺物から操業時期は調査区4のグループが6世紀末から7世紀初頭、調査区1及び調査区9のグループが7世紀中葉から8世紀前半にかけて操業されていたと推測され、併せて

2基以上の須恵器窯の存在が窺えることとなった。今回調査対象区域外ということもあり、残念ながら窯本体の位置の特定には至らなかったが、大谷口遺跡の東西両斜面に各1基以上の窯の存在が窺えたことは、邑久古窯跡群の変遷を探るうえで貴重な成果になると思われる。

### 北池向遺跡

今回の調査から北池向遺跡は、いずれの調査区から出土した遺物も磨耗した状態で小さなものであることから、出土土器の供給元となる場所は現在地より南の山側であることが考えられる。また、高砂山から北に下る大きな谷部から平坦部になるなだらかなところに位置する遺跡であり、高砂山から多量の土砂の流入による堆積があったと推測される。現在の果樹園や畠地にするときになり大規模な地形の改変を伴う開墾が行われたことが窺える。今後、これらのことから遺跡範囲等を見直す必要が考えられる。

### 山田辻畑遺跡

今回の調査区から北東の丘陵上で以前、旧邑久考古館長の長瀬薫氏により竪穴住居跡の柱穴が検出されており、集落関係の遺構の存在が期待されたが、調査区域での丘陵頂部から尾根にかけて緩斜面では、出土遺物も極めて少量で遺構はまったく検出されなかった。現平地面から一段上がる丘陵南端部緩斜面の調査区3で、土塹1基と柱穴群が検出された。柱穴から出土する土器片はいずれも磨耗が著しく極少量であるが、弥生時代中期から古墳時代初頭や古代から中世の土器が出土している。また、3~4個程度の柱穴状のピットが一列に並んでおり掘立柱建物あるいは横列が想定されるが遺構の性格については不明である。

丘陵先端部で検出した貝塚は、ヤマトシジミのみで形成され、貝塚中から縄文時代晩期の土器が出土している。千町平野に隣接する丘陵端部に位置する縄文時代の貝塚として、大橋貝塚、宮下貝塚、山手貝塚、真徳貝塚Bなどが存在するが、晩期に属する貝塚は今回検出したものが唯一で、門田遺跡、堂免遺跡、熊山田遺跡など微高地に生活の痕跡を残していく遺跡との関係など縄文晩期の遺跡の性質を推測する上で貴重な資料になると思われる。

### 註

(1) 氏平昭則・岡本泰典「土師東遺跡・福里遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告95』 岡山県教育委員会 1994

## 第2節 出土遺物について

### 大谷口遺跡 調査区1

調査区1から出土した遺物で図化できた遺物は、弥生土器1・2、須恵器3～5、土製品C1・C2である。以下、遺物について概要を加える。甕1は口縁部を「く」の字状に外反し、端部を上方へ拡張し、外面に凹線文を施す。復元口径は18.0cmを測る。時期は弥生時代中期後葉頃と考えられる。2は平底の底部から大きく開きながら立ち上がる形状から壺と推察される。胴部外面には縱方向にヘラミガキが施されている。時期は弥生時代中期頃と考えられる。杯蓋3は天井部の丸みが無くなり平ら気味で、口縁部をほぼ垂直に屈曲し端部を丸くおさめる。外面天井部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。口径は11.7cm、器高4.0cmを測る。時期は7世紀前半頃と考えられる。杯身4～6は口縁受部にかえりを有するもので、かえりは内傾し、高さ約8～10mmを測る。6のかえりは4・5と比べるとやや低く、器高も低い形状を呈する。3・4の外面底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。4の口径は10.4cm、器高4.1cm、5の口径は10.8cm、器高4.0cm、6の復元口径は11.4cmを測る。4～6の時期は7世紀前半頃と考えられる。杯蓋7は宝珠状のつまみ片で先端部分は丸く仕上げている。時期は7世紀中頃と考えられる。杯蓋8～12は扁平なつまみにかえりのない口縁形態を有するもので、8のつまみは中央先端部が高くなっている。9のつまみは碁石状の扁平な形状を呈する。10～12の口縁端部を短く屈曲する。10・12の天井部はほぼ水平状に扁平な形状を呈し、11は皿状伏せた形状を呈した。10の復元口径は10.9cm、11の復元口径は16.8cm、12の復元口径は17.3cmを測る。8～12の時期は7世紀後半～8世紀初頭頃と考えられる。13は台形状に4面及び先端部をヘラ状工具により平坦にヘラケズリしたつまみなし把手状の一部と考えられる遺物で、先端部を除く4面に先端部が極めて細い工具により斜め方向に線刻を施すものである。斜めの施す線刻は各面の方向を交互に施し、上端部は斜格子状に施されている。装飾性のあるつまみであり、中空円面覗の把手の可能性もある。14は偏平で楕円状の胎土を指押さえによりやや上向きに作った鉢の把手と考えられる。15は円面覗の覗面の破片で、脚部を欠くが方形のスカシが施されていたことを断面から確認することが出来る。甕16は楕状に内傾する口縁部片で、沈線により区画された外面に横状工具により波状文を施す。他はヨコナデを施す。C1は手づくねにより棒状延ばし、底面を平坦にし、先端部を外に引き出す形状を呈する土製品である。上端部は破損している。焼成は土師質で、胎土は砂粒を含み、色調はにぶい黄褐色を呈している。獸足状の形状から陶馬の脚部の可能性が考えられる。C2は勾玉状を呈する土製品で断面は四角形を呈している。上端部を欠いている。外面にはヘラ状工具により形状に合わせ2～3状の沈線を施す。胎土は長石・石英を多く含み、色調は浅黄色で、焼成はややあまい。器種については不明である。(第46図)

### 大谷口遺跡 調査区4

調査区4から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器17～69の須恵器のみである。以下、遺物について概要を加える。杯蓋17～22は天井部がやや丸みを有する17・19・21・22と丸みがなく平坦となる18・20・23・24が認められる。17を除き口縁端部近くを垂直ないし内傾し端部を丸く仕上げている。17は口縁部近くの屈曲位置が他の杯と比べ高い位置にあり、宝珠状つまみに口縁部内側に

かえりを有する杯蓋とセットとなる杯身となる可能性も考えられる。17の口径は9.3cm、器高は5.0cmを測る。23・24は天井部がヘラケズリ、他はヨコナデを施す。18～24の口径は10.0～12.4cm、器高は3.9～5.2cmを測る。時期は7世紀前半～中頃と考えられる。(第47図)杯身25～34は口縁受部にかえりを有するもので、かえりは内傾するものがほとんどである。25のかえりは上方へ立ち上げ、高さ約11mmを測り、他の杯よりやや高い。32・34の外面底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。口径は10.0～13.8cm、器高は3.0～4.4cmを測る。25の時期は6世紀末頃、26～34の時期は7世紀初頭頃と考えられる。杯蓋35はつまみ部分のみで中央部が大きく窪んでいる。36・37は有蓋高杯の杯部で口縁受部に蓋受けのかえりを有する。37の杯底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。36の復元口径は12.0cm、37の復元口径は11.5cmを測る。39は無蓋の高杯で椀状に立ち上がり口縁端部を丸く仕上げる。杯底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。復元口径は12.5cmを測る。38は高杯の脚部で脚部中央に1条の凹線を施し、上下2段の細長いスカシを有する。40～42は高杯の脚部で40の高さは32cmで低いタイプ、41・42の高さは5.1、7.0cmで高いタイプである。42の脚部中央には1条の凹線を有する。台付椀43は椀部が内湾しながら直立に立ち上がり口縁部でやや外反するようである。台部は大きく聞く形状を呈する。椀部の下端はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。鉢44・45は球形の胴部の肩部に2状の沈線を施し体部最大径の位置に円孔を穿つ。46は肩部に1状の沈線を施す。破片のため円孔部分は残存していないがはそうであると考えられる。45・46は体部下半がヘラケズリ、他はヨコナデを施す。短頸壺47・48は胴張りのある体部に頸部から短く直立気味の口縁部を有し、端部を丸く仕上げる。体部の最大径のやや上に1条の沈線を施す。48の底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。復元口径は7.0cm、器高は10.9cmを測る。壺49～51は球形ないし胴張りのある体部である。50の体部には1条の沈線、51の体部には2条の沈線を施す。51は大きく括れる頸部からやや聞き気味の口縁部を有する形状を呈する。(第48図)壺52～54は球形ないし大きく胴張りした体部に台状や高台状の脚が付く壺で、いずれも体部に1～2条の沈線を施す。いずれも長頸壺の可能性が考えられる。鉢55は体部の径の割に器高が低い胴張りの体部に頸部から外反する口縁部を有する形状である。体部最大径のやや上に1条の沈線を施す。底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。復元口径は14.3cm、器高は10.6cmを測る。ミニチュア土器56は壺ないし壺を模したミニチュア土器で、平底から大きく張る体部で体部や上部に1条の凹線を施し、口縁部を欠損している。小さいながらつくりは丁寧な仕上げである。甕57は口縁部で「く」の字状に屈曲した頸部に口縁端部をやや肥厚する。口縁部内面には「へ」の字に斜めに1本ヘラ書きを加えたようなヘラ記号が施されている。調整は外面が格子状タタキ後カキ目、内面は同心円文の当て具痕が認められる。復元口径は16.0cmを測る。甕58は復元により全形を知ることのできる唯一の資料である。尖底した底部から体部最大径がやや上にあり、頸部から外反する口縁部の端部を僅かに内側に屈曲する。調整は外面が格子タタキ後カキ目、内面は同心円文の当て具痕が明瞭に認められる。口径は21.0cm、器高45.0cm、体部最大径42.8cmを測る。甕60・61は内湾しながら立ち上がる口縁端部の外面を肥厚し、ヘラ状工具により縱方向に線刻を施している。甕62は外反気味に立ち上がる口縁部外面にヘラ状工具により斜格子を施している。甕63・64の口縁部内面にヘラ記号を施すもので、63は57と同様なヘラ記号と考えられる。64は縦に1条のヘラ記号である。甕65は外面がタタキ後カキ目、内面の当て具痕に車輪文を確認することができる。(第49図)甕66は丸底で長胴の体部を有する形状を呈する。口縁部は欠損している。外面には焼成時燃料は灰となり明オリーブ色の自然釉が剥だれとなって流れている。自然釉の流れか

ら壺を焼成する際、口縁部を 45° 程度傾けていたことが推察される。調整は外面が格子タタキ後カキ目、内面が同心円文の当て具痕が施されている。壺 67 は外面がタタキ後カキ目、内面の当て具痕に明瞭な[+]字状の車輪文を確認することができる。68 は外傾しながら立ち上がる体部片で器壁が厚い。こね鉢ではないかと考えられる。69 は手づくねにより断面が梢円形で端部に向かい上向きに仕上げられた 14 のような鉢の把手と考えられる。(第 50 図)

### 大谷口遺跡 調査区 5

調査区 5 から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 71 と土師器 74 である。以下、遺物について概要を加える。高杯 71 は杯部を欠く脚部のみで、脚部端部近くで屈曲する。脚部の復元径は 9.8 cm を測る。壺 74 は長胴の体部に短く外反する口縁部を有し、端部を丸く仕上げる。体部外面は押さえ後タテハケを施す。内面は一部ケズリ後ナデを施す。(第 51 図)

### 大谷口遺跡 調査区 6

調査区 6 から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 70 のみである。以下、遺物について概要を加える。杯身 70 は口縁受部にかえりを有するもので、かえりは内傾する。かえりの高さ約 8 mm を測る。底面は平坦な形状を呈する。外面底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。復元口径は 10.8 cm、器高は 3.5 cm を測る。(第 51 図)

### 大谷口遺跡 調査区 12

調査区 12 から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 72 のみである。以下、遺物について概要を加える。平瓶 72 は体部から口縁部の一部で、口縁部の端部はやや内傾しながら丸く仕上げている。口径は 7.0 cm を測る。(第 51 図)

### 大谷口遺跡 調査区 17

調査区 17 から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 73 のみである。以下、遺物について概要を加える。平瓶 73 は口縁部のみで、口縁端部に向かい直線的に立ち上がり端部を丸く仕上げている。72 と比べると口径、高さとも一回り小形の平瓶となるようである。(第 51 図)

### 大谷口遺跡 調査区 9

調査区 9 から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 75 ~ 94、土師器 95・96 である。以下、遺物について概要を加える。杯蓋 75 は天井部を欠くが、全体が椀状に丸く仕上げ、口縁端部を屈曲し直線気味に下げ、端部を丸く仕上げている。内外面ともヨコナデを施す。復元口径は 12.2 cm、器高 4.1 cm を測る。時期は 7 世紀前半頃と考えられる。杯身 76 は口縁受部にかえりを有するもので、かえりは内傾する。かえりの高さ約 9 mm を測る。底面は平坦な形状を呈する。内外面ともヨコナデを施す。復元口径は 9.5 cm、器高は 3.7 cm を測る。時期は 7 世紀前半頃と考えられる。杯蓋 77 は天井中心部に宝珠状のつまみを貼り付けている蓋である。時期は 7 世紀中頃と考えられる。杯蓋 78 ~ 81 は皿状の天井部の偏平なつまみを貼り付け、口縁端部が短く屈曲する形状を呈する杯蓋である。つまみの形状は 78 のように偏平ながら宝珠状の面影を呈するものや、79・80 のように碁石状に偏平なもの、81 の

ように中央部がやや窪んだものなど様々な形状が認められる。**78** の復元口径は 16.0 cm、器高 3.2 cm、**79** の復元口径は 14.8 cm、器高 3.0 cm、**80** の口径は 15.6 cm、器高 3.0 センチを測る。**78～81** の時期は 7 世紀後半～8 世紀前半頃と考えられる。杯身 **82** は平底の底部から内湾しながら立ち上がり、口縁部を上方に屈曲させ端部を丸く仕上げている。内外面ともヨコナデを施す。復元口径は 12.2 cm、復元底径 6.4 cm、器高 4.1 cm を測る。時期は 7 世紀後半頃と考えられる。杯身 **83～87** は底部が平坦で貼り付け高台を有する身である。杯部の開き、高さ、高台の高さなどからいくらくらにタイプ分けができる。**83・86** は口縁部の開きが大きい、高台も高く「ハ」の字状に外方に踏ん張るタイプである。**84・85** は口径に比べ器高が低くどっしりとし、高台も低いタイプである。**87** は口縁部の開きが少なく、杯部が高く深い、高台は低いタイプである。**83** の復元口径は 13.8 cm、器高 5.1 cm を測る。**86** の復元口径は 17.8 cm、器高 4.5 cm を測る。**84** の復元口径は 13.0 cm、器高 3.3 cm を測る。**85** の口径は 13.8 cm、器高 4.3 cm を測る。**87** の口径は 15.9 cm、器高 6.7 cm を測る。**88** は偏平な底部から口縁部は外傾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。外面底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。復元口径は 17.8 cm、底径 14.0 cm、器高 6.7 cm を測る。**83～87** の時期は 7 世紀後半～8 世紀前半頃と考えられる。(第 52 図)**89** は口縁部片で外方しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。復元口径は 11.8 cm を測る。こね鉢の口縁部と考えられる。平瓶 **90** は口縁部、底部を欠く体部片で、肩が大きく張る体部を有する。肩部の復元径は 18.0 cm を測る。瓶 **91** は底部片で、焼成前のスカシ孔を確認することができる。壺 **92** は「く」の字状に外反する口縁部片で内面にヘラ状 T. 工によるヘラ記号が施されている。復元口径は 25.3 cm を測る。壺 **93** は壺の口縁部片で口縁部が内湾しながら立ち上がり、端部を水平に仕上げている。外面に 2 条の沈線を施し上部に 1 条の波状文、下部に 3 条以上の波状文を施す。復元口径は 39.2 cm を測る。壺 **94** は外反する口縁部片で外面に沈線で区画された間に荒い波状文を 3 区画以上施す。**95** は土師質で手づくりね仕上げで、下に垂れた形状の把手である。鉢ないし壺の把手であろうか。竈 **96** は土師質で上端部から竈のひさし部分にあたると考えられる。(第 53 図)

## 大谷口遺跡 出土石器

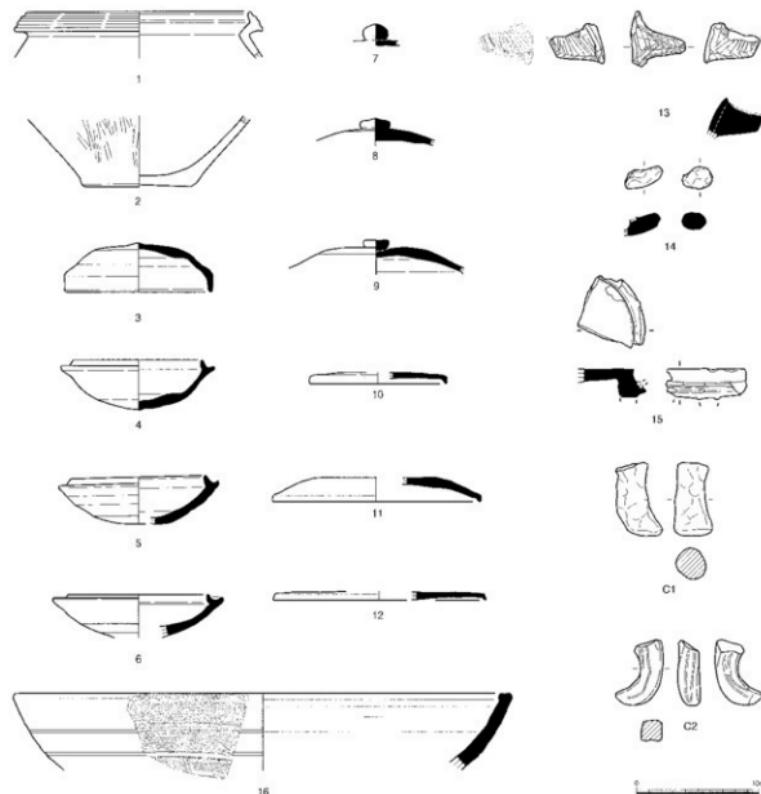
調査区 4・6 から出土した石器で図化できた遺物は、**S1～S4** の石鐵のみでいずれもサヌカイト製である。以下、遺物について概要を加える。**S1・S2** は基部の形状から、円基式の石鐵で **S2** は基部の抉りが大きい。**S3・S4** は平基式の石鐵で凹基式の石鐵 **S1・S2** と比べ長さが長い形状を呈する。調査区 1 で弥生時代中期の土器が出土しており、弥生時代の遺跡の存在の可能性と共に同時代の石器と考えられる。(第 54 図)

## 山田辻畠遺跡 調査区 3

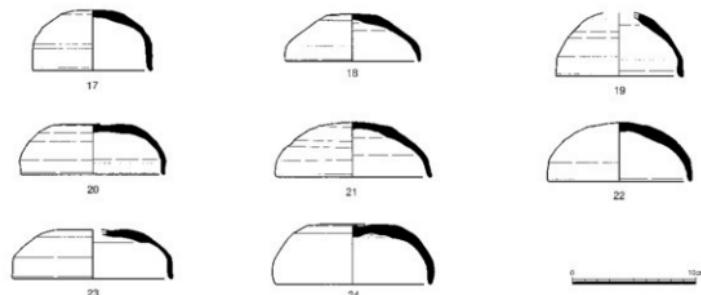
調査区 3 の貝塚と貝塚下層から出土した遺物で図化できた遺物は、繩文土器 **97～101** である。以下、遺物について概要を加える。**97** は外面に二枚貝条痕が横方向に施し、口縁端部に斜め方向に刻み目を施す。**98** は外傾する口縁部の端部を水平に仕上げている。外面には **97** と同様、二枚貝条痕が横方向に施す深鉢である。**99～101** も外面は間隔の荒い工具により横方向に条痕が施されている。時期はいずれも繩文時代晩期と考えられる。(第 55 図)

貝塚以外から出土した遺物で図化できた遺物は、弥生土器 **102・103**、土師器 **104・107**、須恵器 **105**、瓦質土器 **106**、土製品 **C3** である。以下、遺物について概要を加える。高杯 **102** は脚部片でク

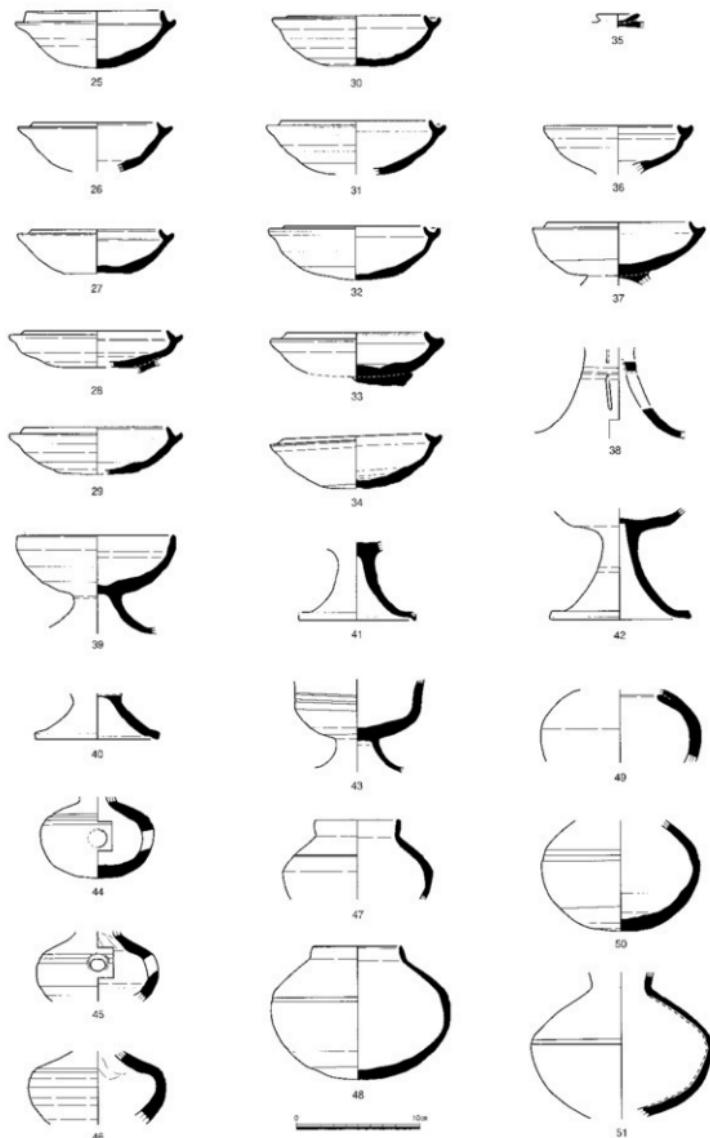
シ横平行文を4条、下部にヘラ状工具による沈線を施し、透し孔を有する可能性がある。杯底部は円盤充填による剥離痕が認められる。時期は弥生時代中期後葉と考えられる。鉢 103 は「く」の字状に口縁部を外反する形状を呈する。外面はタテハケ、内面はヘラケズリ後ヨコナデを施す。復元口径は22.2 cmを測る。時期は弥生時代後期中葉と考えられる。高杯 104 は脚部のみで柱状部からラッパ状に大きく屈曲して広がる形状を呈する。復元底径は13.4 cmを測る。杯身 105 は底部が平坦で貼り付けやや外反しながら立ち上がる口縁部、断面が四角形を呈する低い高台を有する身である。復元口径は14.7 cm、底径 11.3 cm、器高 4.2 cmを測る。瓦質土鍋 106 は体部に貼り付けられた耳状の把手部分である。大きさは、長さ 8.0 cm、幅 2.6 cmを測り、受け皿状の体部に貼り付けられている。体部と把手の上部中央には径 8 mm程度の円孔が穿たれており、紐状のものが通され使用したものと考えられる。時期は中世と考えられる。瓶 107 は底部の中央に径 3.4 cmを測る円形の1個の透し孔、それを取り囲む形で 4 cm × 3 cmを測る楕円形の4個の透し孔を施す瓶である。底部から 1 cm程度垂直に立ち上げ。長胴の体部で上部に断面が円形の把手が貼り付けられている。底径は 11.8 cmを測る。土製品 C3 は管状土錘の完形品で、胴張りをほとんどしない管状の形状を呈する。長さは 3.5 cm、径 1.1 cm、中央に穿孔されている孔径は 4 mmを測る。(第 55 図)



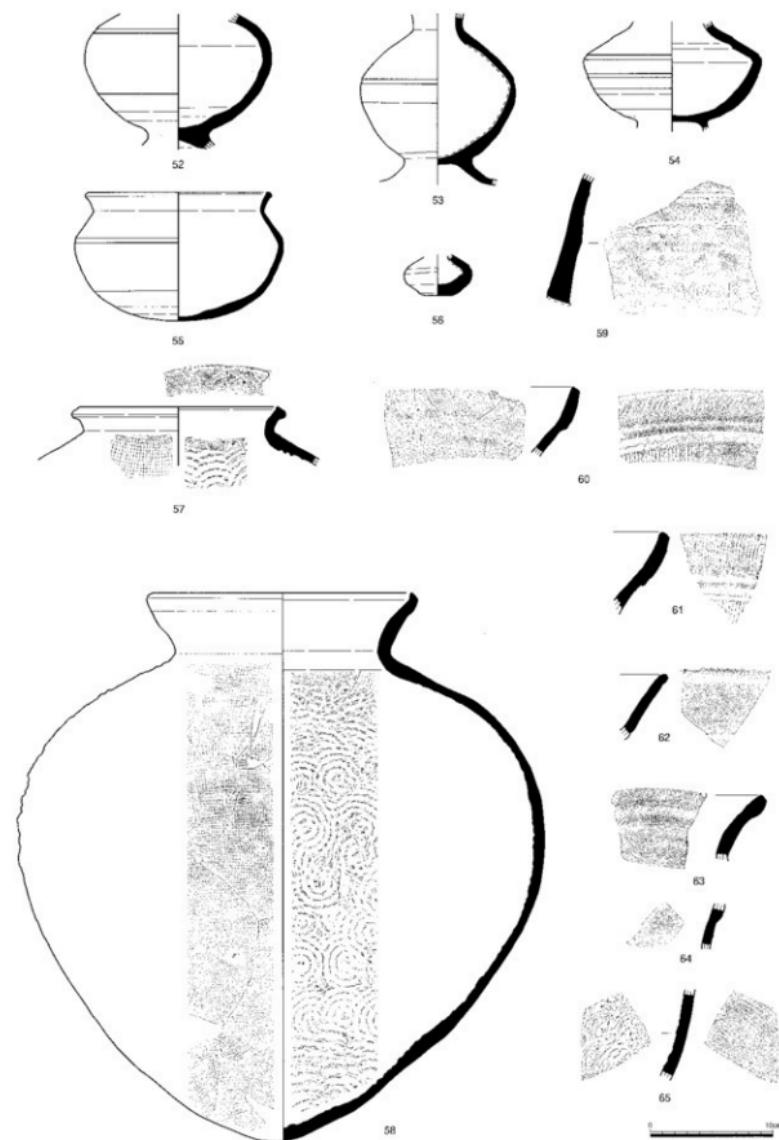
第46図 大谷口遺跡 調査区1 出土遺物 (1/4)



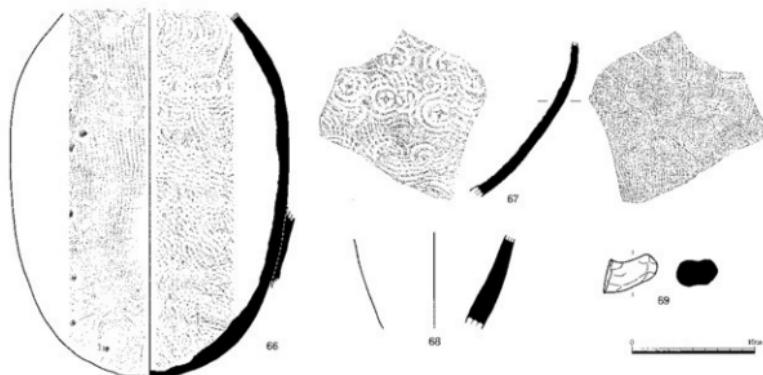
第47図 大谷口遺跡 調査区4 出土遺物 (1) (1/4)



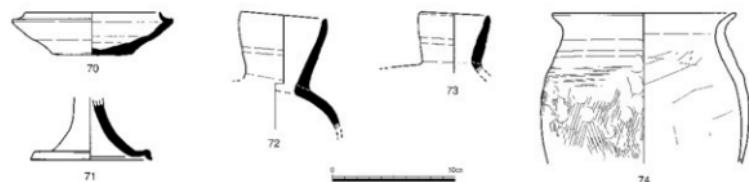
第48図 大谷口遺跡 調査区4 出土遺物(2) (1/4)



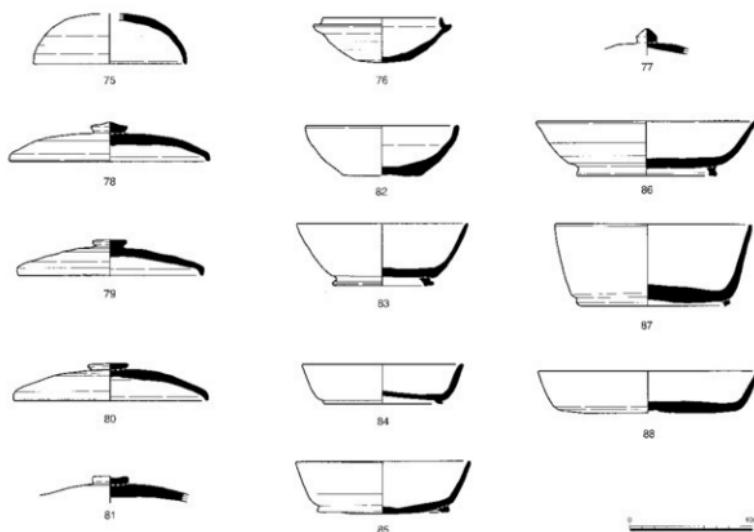
第49図 大谷口遺跡 調査区4 出土遺物(3)(1/4)



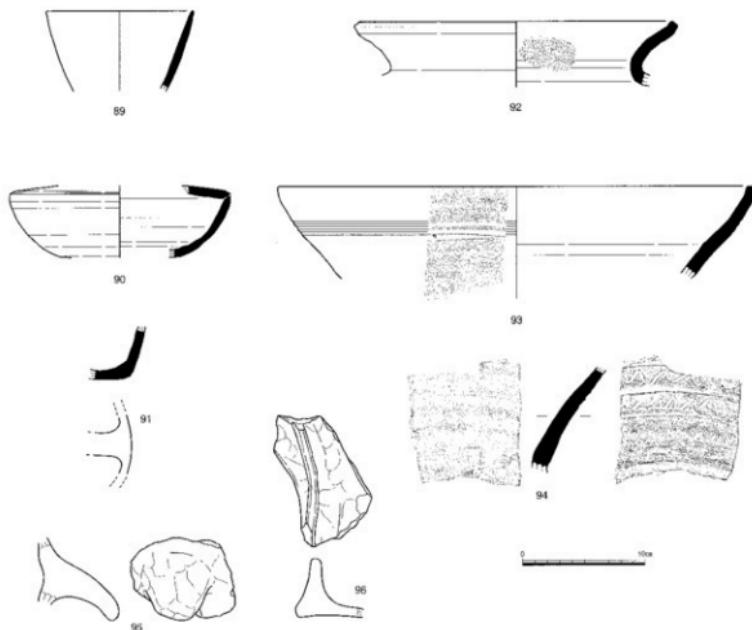
第50図 大谷口遺跡 調査区4 出土遺物(4) (1/4)



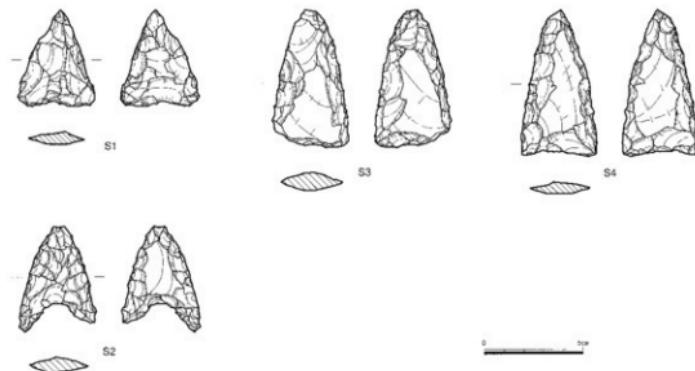
第51図 大谷口遺跡 調査区5・6・12・17 出土遺物(1/4)



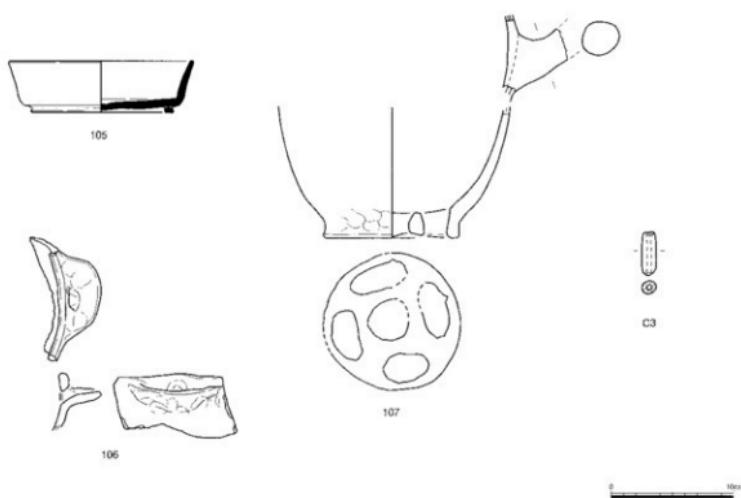
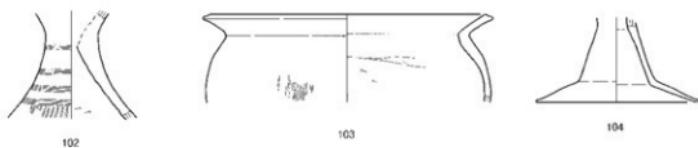
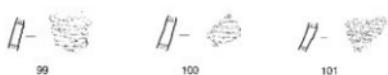
第52図 大谷口遺跡 調査区9 出土遺物(1) (1/4)



第53図 大谷口遺跡 調査区9 出土遺物(2) (1/4)



第54図 大谷口遺跡 出土石器 (1/1)



第55図 山田辻遺跡 調査区3 出土遺物 (1/4)



# 付載

## 大谷口遺跡出土須恵器の胎土分析

岡山理科大学自然科学研究所

白石 純

### 1. 分析目的

この分析では、大谷口遺跡から出土した須恵器について理化学的な胎土分析を実施し、以下のことをについて検討した。

- (1) 大谷口遺跡の各調査区から出土した須恵器（杯・高杯・壺・甕・鉢など）が調査区および器種別で胎土に差異があるかどうか調べた（なお調査区4-2、調査区9、調査区1-2、調査区1-1では窯壁が出土していることから、遺跡周辺に須恵器窯があると推定されている（註1）。
- (2) 大谷口遺跡出土の須恵器が他の須恵器窯と胎土的に比較して違いがあるかどうか検討した。比較検討した窯は、寒風古窯跡群（註2）の試料である。

### 2. 分析結果

#### 分析方法・試料

理化学的な分析方法は、蛍光X線分析法で実施した。この方法は、試料に含まれる成分（元素）量を測定するもので、その成分量の違いから胎土の差を推定する方法である。また蛍光X線分析装置の特徴は、分析試料の作製が簡単で、測定も短時間のため、多量に試料を分析するのに有効である。しかし、測定試料は均質性が求められることから、分析試料を2gほど粉末にする必要があり、一部破壊分析である。

測定装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置（セイコーインスツルメンツ社製SEA2010L）を使用し、 $\text{SiO}_2 \cdot \text{TiO}_2 \cdot \text{Al}_2\text{O}_3 \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{MnO} \cdot \text{MgO} \cdot \text{CaO} \cdot \text{Na}_2\text{O} \cdot \text{K}_2\text{O} \cdot \text{P}_2\text{O}_5$  の10元素を測定した。第1表の出土試料分析値一覧表からCaO（カルシウム）、K<sub>2</sub>O（カリウム）の元素に顕著な違いがみられた。そこで、これらの元素のXY散布図を作成し、胎土の比較を行った。

なお分析に供した試料は、第1表に示した大谷口遺跡の各調査区出土の杯・高杯・壺・甕・窯壁など合計94点である。

#### 蛍光X線分析結果

第1図 K<sub>2</sub>O-CaO散布図では、大谷口遺跡内の北地区（調査区4-2）と中地区（調査区9・調査区1-2・調査区1-1）の地区別での胎土を比較した。その結果、地区に関係なく調査区4-2・調査区9・調査区1-2・調査区1-1の各須恵器ともK<sub>2</sub>O量が約1.05%～約2.11%、CaO量が約0.22%～約1.31%の範囲に分布した。第2図 TiO<sub>2</sub>-CaO散布図では、TiO<sub>2</sub>量が約0.39%～約0.98%、CaO量が約0.22%～約1.31%の範囲に分布した。また、各調査区から出土している窯壁4点は、まとまらず散漫な分布をした。

第3図 K<sub>2</sub>O-CaO、第4図 TiO<sub>2</sub>-CaO散布図では、各調査区の器種別での胎土比較を行った。その結果、各調査区とも器種の違いで胎土に差はみられなかった。

第5図  $K_2O-CaO$ 、第6図  $TiO_2-CaO$  散布図では、大谷口遺跡と寒風窯跡群の胎土を比較した。すると、両遺跡ともそれぞれに一定の範囲内にまとまり、第5・6図のように分布範囲が半分ほど重複するが、完全に分布域が重ならなかった。

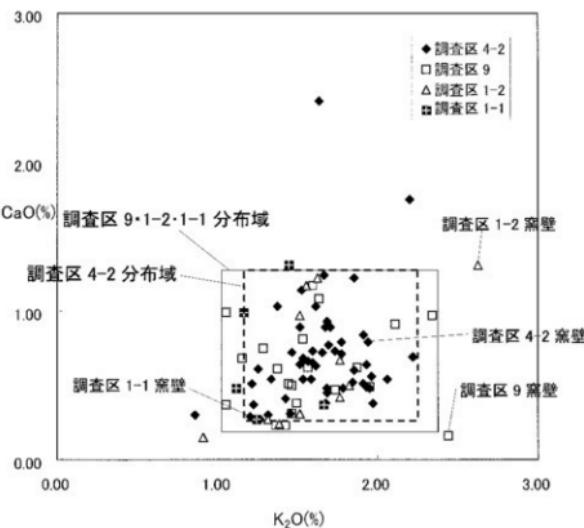
### 3.まとめ

大谷口遺跡出土須恵器の胎土分析を実施したところ、以下のことが明らかになった。

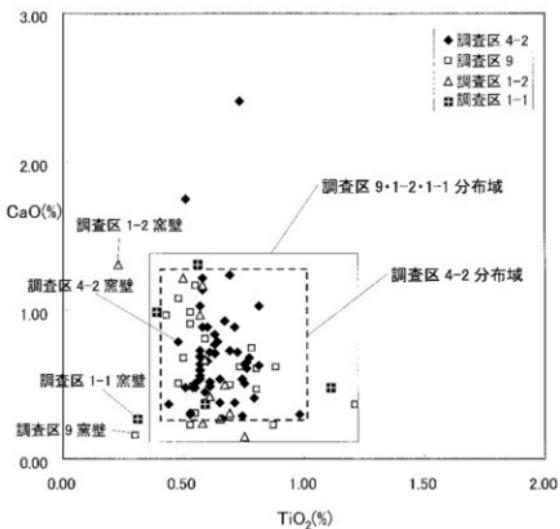
- (1) 大谷口遺跡の地区別（調査区別）での胎土を比較したところ、地区別に関係なくほぼ全部の地区が同じ範囲に、1つにまとまる傾向にあった。したがって、各地区で窯跡が存在すると想定される大谷口遺跡出土須恵器は胎土的には差がなかった。また、各地区出土の窯壁は、すべてバラバラでまとまらなかった。これは、以前分析した寒風窯跡（註3）では、1つの窯跡から出土した窯壁はまとまる傾向がみられたことから、今回分析した大谷口遺跡出土の窯壁が各地区（調査区別）で異なることから、窯壁の分析値の検討からではあるが複数の窯跡が存在することが想定される。また、大谷口遺跡出土の須恵器で、器種別にも胎土に違いはみられなかった。
  - (2) 大谷口遺跡と寒風古窯跡群との胎土比較では、両遺跡とも明確に胎土に違いがみられないものの、個々窯跡でまとまる傾向にあり、窯跡分布域がずれることが判明した。これは、大谷口遺跡に窯跡が存在することを推測するための分析結果になると考えられる。
- この分析の機会を与えていただいた、大谷博志氏および瀬戸内市教育委員会の職員の方々にはいろいろご教示いただいた。末筆ではありますが、記して感謝いたします。

### 註

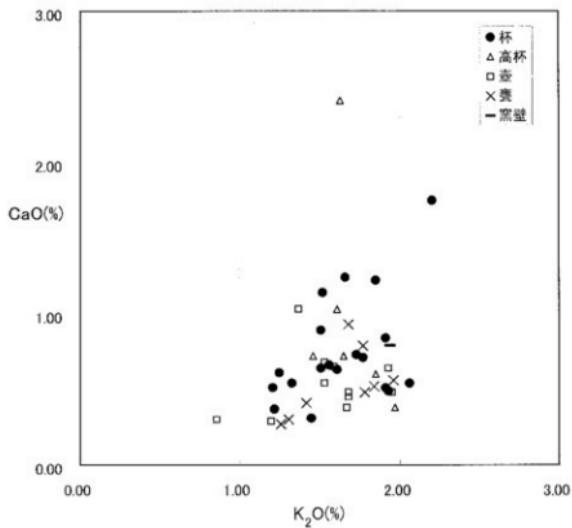
- (1) 大谷博志氏のご教示による。
- (2) 馬場昌一ほか『寒風古窯跡群』瀬戸内市教育委員会 2009
- (3) 藤原好二・健谷守秀・小野雅明『寒風窯跡群 1号』倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集 倉敷埋蔵文化財センター 2003



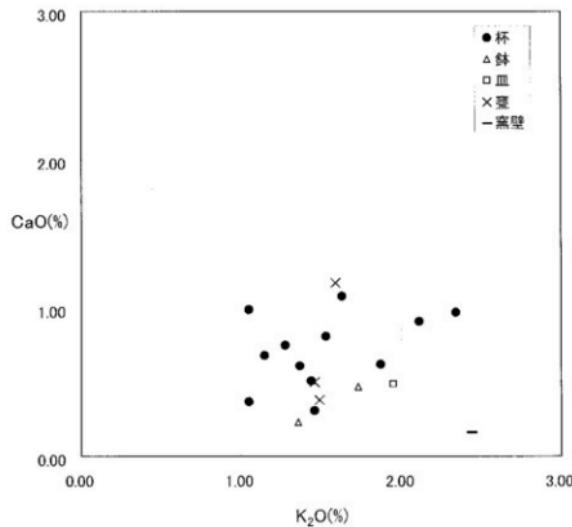
第1図 各地区別の胎土比較 ( $K_2O$ - $CaO$  散布図)



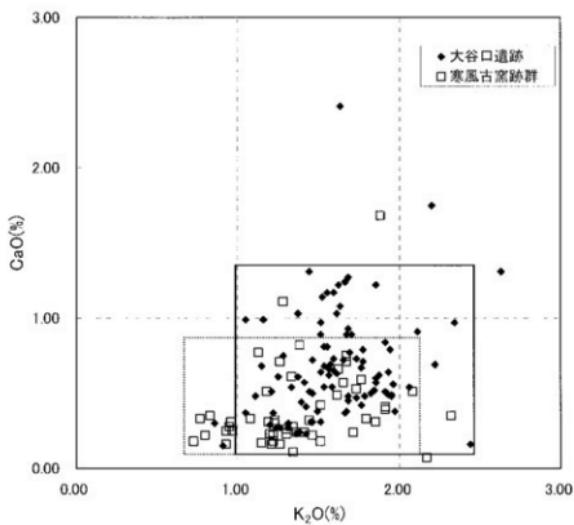
第2図 各地区ごとの胎土比較 ( $TiO_2$ - $CaO$  散布図)



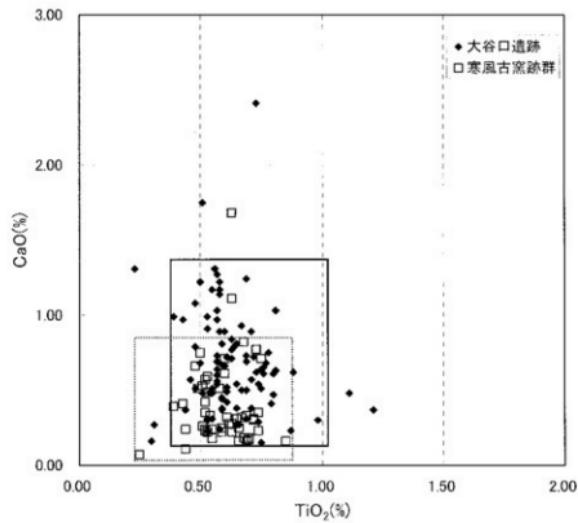
第3図 調査区4-2出土須恵器の器種別の胎土比較 ( $K_2O$ - $CaO$  散布図)



第4図 調査区9出土須恵器の器種別の胎土比較 ( $K_2O$ - $CaO$  散布図)



第5図 大谷口と寒風古窯跡群の胎土比較 ( $K_2O$ -CaO 散布図)



第6図 大谷口と寒風古窯跡群の胎土比較 ( $TiO_2$ -CaO 散布図)

No	調査路名	調査区名	層位	緯度	種類	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	備考
1	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	70.92	0.61	17.98	4.87	0.06	1.57	0.49	1.31	1.93	0.06	
2	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	67.64	0.60	16.81	8.62	0.13	1.42	0.66	2.31	1.56	0.01	桃色蓋有り
3	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	69.46	0.63	16.39	5.22	0.21	1.55	0.84	2.92	1.91	0.10	模様磁器
4	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	70.66	0.76	17.19	5.22	0.07	1.51	0.61	2.39	1.25	0.16	兔形品
5	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	67.49	0.75	18.44	5.19	0.08	1.69	0.64	2.21	1.51	1.80	蛇形品、赤有り
6	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	69.73	0.81	17.23	5.63	0.09	1.58	0.63	2.37	1.61	0.18	
7	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	68.89	0.63	17.83	5.33	0.07	1.53	0.71	1.95	1.77	0.11	
8	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	69.53	0.58	18.42	4.51	0.08	1.06	1.14	1.07	1.52	2.12	
9	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	70.02	0.51	17.18	4.11	0.12	1.57	1.75	1.80	2.20	0.13	
10	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋杯	須恵器	71.10	0.61	17.63	5.26	0.07	1.45	0.72	1.15	1.65	0.12	割削欠損
11	大谷口通路	調査区 4-2	表様	大耳	須恵器	68.74	0.67	19.61	5.82	0.10	1.35	0.93	1.29	1.68	0.16	口桙部、脚底文
12	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋	須恵器	72.12	0.61	16.88	4.69	0.05	1.33	0.52	1.67	1.84	0.15	脚部
13	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋	須恵器	71.53	0.57	17.11	4.61	0.06	1.42	0.54	2.17	1.58	0.21	
14	大谷口通路	調査区 4-2	土塚 2 種	右付蓋	須恵器	77.81	0.65	17.37	3.82	0.07	1.16	0.54	0.47	1.53	2.37	脚部部、脚部部欠損
15	大谷口通路	調査区 4-2	土塚 2 種	左	須恵器	69.41	0.57	17.97	4.97	0.05	1.61	0.64	2.67	1.93	0.17	京都のみ
16	大谷口通路	調査区 4-2	土塚 2 種	右付蓋	須恵器	69.06	0.76	18.85	5.36	0.06	1.57	0.63	1.77	1.59	0.16	
17	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋	須恵器	69.87	0.79	19.46	4.89	0.07	1.37	0.41	1.37	1.42	0.17	口桙部のみ「へ」の印
18	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋部のみ	須恵器	67.17	0.73	18.00	5.26	0.15	1.51	2.41	2.77	1.63	0.16	
19	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	(腹)	須恵器	71.55	0.69	17.71	4.25	0.08	1.64	0.73	1.41	1.39	0.15	口桙部欠損
20	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	(腹)	須恵器	68.65	0.58	19.03	4.83	0.07	1.48	0.89	2.39	1.67	0.12	口桙部欠損
21	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯蓋	須恵器	67.48	0.57	19.00	4.68	0.06	1.67	0.73	2.69	1.73	0.15	
22	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	73.16	0.75	16.64	4.84	0.07	1.41	0.51	2.11	1.21	0.21	
23	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	68.54	0.55	20.43	4.58	0.06	2.67	0.31	1.15	1.45	0.09	空杯かも?
24	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋	須恵器	67.76	0.57	18.91	5.23	0.08	1.59	1.03	2.81	1.61	0.10	解剖
25	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	68.34	0.69	18.01	5.09	0.08	1.45	1.21	3.06	1.66	0.20	
26	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	70.43	0.65	17.71	4.46	0.07	1.46	0.54	2.28	2.06	0.16	
27	大谷口通路	調査区 4-2	包含層(?)	蓋杯	須恵器	69.33	0.72	18.25	5.18	0.09	1.51	0.72	2.39	1.46	0.19	丸なし無開部+杯底部
28	大谷口通路	調査区 4-2	包含層(?)	蓋?	須恵器	73.31	0.74	14.92	4.06	0.06	1.35	0.29	1.65	1.20	0.21	竹管あり
29	大谷口通路	調査区 4-2	包含層(?)	(腹)	須恵器	68.66	0.60	18.84	4.80	0.07	1.46	0.89	2.56	1.79	0.17	脚部部欠損
30	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	腹蓋	須恵器	75.95	0.68	14.25	4.25	0.16	1.44	0.79	2.11	1.94	0.19	4+
31	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	こね糸	須恵器	68.53	0.67	19.01	4.99	0.07	1.61	0.69	1.89	2.22	0.12	
32	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	70.74	0.74	17.81	4.19	0.07	1.58	0.54	2.53	1.33	0.23	
33	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋	須恵器	74.6	0.66	14.37	3.92	0.05	1.51	0.37	3.08	1.26	0.22	
34	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	須恵器	68.43	0.51	18.78	4.89	0.06	1.58	0.48	3.19	1.68	0.17		
35	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	須恵器	72.12	0.71	16.66	5.05	0.06	1.39	0.38	1.59	1.67	0.18		
36	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	須恵器	71.23	0.55	17.95	4.66	0.04	1.32	0.48	1.53	1.95	0.11		
37	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋	須恵器	69.25	0.64	18.13	4.81	0.09	1.61	0.79	2.55	1.77	0.21	
38	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋	須恵器	71.28	0.57	18.23	3.54	0.04	1.21	0.56	1.35	1.96	1.04	
39	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋	須恵器	71.83	0.53	17.82	3.51	0.05	3.01	0.30	1.79	1.31	0.17	
40	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	セミチャコ盤	須恵器	69.65	0.81	18.19	5.41	0.08	1.61	1.03	1.56	1.37	0.14	
41	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	蓋	須恵器	70.53	0.65	17.64	5.49	0.08	1.58	0.38	1.41	1.97	0.27	
42	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	心付蓋	須恵器	69.65	0.77	18.28	4.65	0.06	1.42	0.68	1.11	1.53	1.68	
43	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	大耳	須恵器	69.60	0.54	18.43	4.59	0.06	1.48	0.48	2.61	1.78	0.19	
44	大谷口通路	調査区 6-1	中層	杯身	須恵器	67.47	0.66	19.71	5.11	0.08	1.64	0.81	2.49	1.55	0.21	
45	大谷口通路	調査区 12	丸上	横瓶	須恵器	72.03	0.69	20.18	5.04	0.08	1.71	0.69	2.65	1.57	0.18	
46	大谷口通路	調査区 12	丸上	盖	須恵器	79.38	0.46	11.63	3.44	0.07	1.29	0.57	0.68	1.85	0.31	
47	大谷口通路	調査区 17	上層	横瓶	須恵器	70.46	0.71	16.67	5.55	0.08	1.42	0.57	2.75	1.41	0.21	

No.	道路名	調査区名	場所	器種	種類	SO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	備考	
48	人行口通路	調査区 5	灰色-着(高台)	鉛錠	鉛錠	65.83	0.57	20.22	6.02	0.09	144	1.37	2.49	1.68	0.16		
50	大谷口通路	調査区 4 2	包含層	台付型	鉛錠	71.25	0.98	18.57	3.38	0.04	2.82	0.39	1.63	0.86	0.12		
51	大谷口通路	調査区 4 2	包含層	盤	鉛錠	69.91	0.59	18.23	5.22	0.07	147	0.45	1.98	1.66	0.13		
52	大谷口通路	調査区 9	包含層	杯盤	鉛錠	71.94	1.21	18.13	4.23	0.06	133	0.37	1.30	1.03	0.19		
53	大谷口通路	調査区 9	包含層	杯盤	鉛錠(両台付)	鉛錠	70.62	0.78	17.06	5.23	0.07	162	0.75	1.10	1.28	1.35	
54	大谷口通路	調査区 9	包含層	裏	鉛錠	67.18	0.55	19.78	5.44	0.06	168	1.17	2.22	1.59	0.11		
55	大谷口通路	調査区 9	包含層	裏	鉛錠	73.93	0.30	14.55	3.47	0.08	160	0.16	3.07	2.44	0.22		
56	大谷口通路	調査区 9	包含層	杯盤	鉛錠	69.77	0.48	19.68	3.43	0.05	2.95	0.51	1.39	1.44	0.11		
57	大谷口通路	調査区 9	包含層	鉛?	鉛錠	66.93	0.80	18.49	7.72	0.11	1.98	0.42	1.34	1.73	0.16		
58	大谷口通路	調査区 9	包含層	大裏	鉛錠	67.71	0.69	19.57	4.42	0.08	160	0.50	3.63	1.46	0.14		
59	大谷口通路	調査区 9	包含層	新舊	鉛錠	65.83	0.53	21.41	5.74	0.08	2.97	0.99	1.13	1.03	0.06		
60	大谷口通路	調査区 9	包含層	杯身(両台付)	鉛錠(重)	67.45	0.88	19.85	5.18	0.10	137	0.62	1.18	1.87	0.96		
63	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	杯身	須磨	69.37	0.43	19.51	4.49	0.06	122	0.97	1.14	2.34	0.20		
64	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	杯身	須磨	72.36	0.53	17.26	3.48	0.04	177	0.23	2.54	1.36	0.25		
65	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	皿	須磨	70.04	0.80	18.66	4.63	0.06	149	0.61	2.01	1.37	0.21		
66	大谷口通路	調査区 9	人溝埋土	皿	須磨	68.28	0.54	19.59	4.14	0.05	168	0.49	2.87	1.95	0.19		
67	大谷口通路	調査区 9	人溝埋土	皿	須磨	69.20	0.48	19.42	4.43	0.07	125	1.08	2.06	1.63	0.18		
68	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	皿	須磨	66.94	0.72	19.43	5.39	0.09	169	0.62	3.17	1.56	0.22		
69	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	大裏	須磨	69.20	0.59	19.69	4.45	0.06	151	0.58	2.24	1.49	0.11		
70	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	平盤	須磨	71.37	0.87	16.97	3.86	0.05	139	0.23	3.34	1.42	0.17		
71	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	杯(高台付)	鉛錠	74.05	0.55	16.61	3.36	0.05	131	0.31	1.96	1.46	0.16		
72	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	杯身	須磨(重)	68.52	0.50	21.26	3.75	0.04	2.68	0.68	1.06	1.15	0.09		
73	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	杯身(高台付)	須磨	70.68	0.53	18.01	4.53	0.07	145	0.91	1.22	2.11	0.22		
74	大谷口通路	調査区 4-2	表掛	白竹附	須磨	70.01	0.65	17.25	4.52	0.07	151	0.77	3.25	1.69	0.13		
75	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯蓋?	須磨	71.99	0.44	17.82	3.76	0.06	2.88	0.37	1.24	1.22	0.10		
76	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯蓋	須磨	70.38	0.55	17.46	4.88	0.06	151	0.51	2.39	1.91	0.08		
77	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	高台	須磨	70.22	0.57	17.13	5.11	0.08	139	0.60	2.61	1.85	0.19		
80	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須磨	69.69	0.71	17.81	4.96	0.09	141	0.89	2.52	1.51	0.24		
82	大谷口通路	調査区 1-2	包含層(海綿状土)	外蓋	須磨	67.08	0.50	19.35	5.13	0.09	161	1.22	2.96	1.62	0.16		
83	大谷口通路	調査区 1-2	包含層(海綿状土)	外蓋	須磨	67.27	0.57	19.34	5.53	0.08	151	0.97	2.65	1.51	0.15		
84	大谷口通路	調査区 1-2	包含層(海綿状土)	器種不明	須磨	69.05	0.67	18.38	5.28	0.07	149	0.50	2.34	1.82	0.22		
85	大谷口通路	調査区 1-2	包含層(海綿状土)	器種不明	須磨	71.33	0.65	17.93	4.79	0.05	129	0.27	1.99	1.31	0.21		
86	大谷口通路	調査区 1-2	瓦灰附(陶瓦付)	皿	須磨	68.65	0.58	18.90	4.68	0.08	147	1.17	2.32	1.55	0.29		
87	大谷口通路	調査区 1-2	瓦灰附(陶瓦付)	人丸	須磨	66.38	0.59	20.62	5.63	0.08	161	0.67	2.27	1.76	0.12		
88	大谷口通路	調査区 1-2	包含層(陶瓦付)	皿	須磨	71.08	0.69	16.89	4.71	0.07	162	0.31	2.71	1.51	0.21		
89	大谷口通路	調査区 1-2	包含層(陶瓦付)	杯身	須磨	71.01	0.67	17.84	4.58	0.07	145	0.42	1.93	1.76	0.17		
93	大谷口通路	調査区 1-1	包含層	(下)	杯蓋	71.62	0.75	12.88	3.96	0.01	162	0.15	2.68	0.91	0.19		
94	大谷口通路	調査区 1-1	包含層	(下)	皿	須磨	72.63	1.11	15.69	6.35	0.10	121	0.48	0.73	1.11	0.28	
95	大谷口通路	調査区 1-1	包含層	(下)	河内網	須磨	66.29	0.29	21.63	3.61	0.06	301	0.99	2.52	1.16	0.16	
97	大谷口通路	調査区 1-1	包含層	(下)	鏡?	須磨	72.22	0.59	17.52	3.06	0.05	138	0.37	2.59	1.66	0.20	
98	大谷口通路	調査区 1-2	瓦灰	包含層	須磨	75.84	0.23	12.29	2.91	0.08	157	1.31	1.04	2.63	1.72		
99	大谷口通路	調査区 1-1	包含層	(下)	皿	須磨	76.35	0.31	13.03	2.61	0.06	250	0.27	2.89	1.24	0.22	
100	大谷口通路	調査区 9	大溝埋土	皿	須磨	73.08	0.59	17.33	3.96	0.06	129	0.81	0.98	1.53	0.11		
101	大谷口通路	調査区 1-1	包含層	(下)	杯身	須磨	68.16	0.56	19.22	5.39	0.06	161	1.31	1.94	1.44	0.14	
102	大谷口通路	調査区 4-2	包含層	杯身	須磨	70.11	0.58	17.36	4.59	0.09	155	1.22	2.51	1.85	0.14		
103	大谷口通路	調査区 1-2	砾石帶(高台付)	器種?	須磨	72.14	0.58	17.61	4.73	0.06	140	0.24	1.54	1.38	0.17		
111	山田江通路	調査区 3	砾石層	杯身(高台付)	須磨	67.19	0.59	20.75	4.74	0.07	2.87	0.44	1.58	1.39	0.09		



# 大谷口遺跡 遺物観察表

番号	調査区名	遺構名・層位	器種	直徑(cm) [部寸法]	口径 [部寸法]	標記	色調		出土	備考	
							外面	内面			
1	調査区1	井干～合層	弔生土器 罐	(3.8)	18.0	-	円錐文 ナメ	明帯緑 2.5YR5/6 1.5-2.5cm	灰白 25YR5/4 10YR5/3	長石・石英・赤鉄	
2	調査区1	合層(下)	弔生土器 罐	(3.8)	-	8.4	ナメ ヒガキ	白	灰 N6	長石・石英・赤鉄	
3	調査区1	合層(暗灰土)	弔生器 怀窓	4.0	11.7	-	白ナメ 目録文・ラメ	灰白 N7	灰 N6	長石・石英・赤鉄	
4	調査区1	合層(暗灰色土)	弔生器 怀窓	4.1	10.4	-	外面:圓點文ナメ 内面:三鰐ナメ・オサツ	灰 SY6/1	灰 N6	0.5mmの長石	
5	調査区1	合層(下)	弔生器 怀窓	4.0	10.8	-	圓錐ナメ 目録文・ラメ	灰青 25Y7/2	灰青 25Y7/2	長石・石英	
6	調査区1	合層(暗灰色土)	弔生器 怀窓	(3.5)	(11.4)	-	外側:圓錐ナメ 内側:豆鰐ナメ ケズリ	灰 SY6/1	灰白 SY7/1	0.5~1.0mmの長石	
7	調査区1	合層(暗灰色土)	弔生器 怀窓	(1.8)	9.1mm 2.1	-	ナメ 2.1	灰白 10Y7/1	灰白 10Y7/1	長石	
8	調査区1	合層(下)	弔生器 怀窓	(2.2)	2.4	-	圓錐ナメ 目録文・ラメ	灰灰 25Y6/1	灰灰 25Y7/1	長石 0.2mm 石英 0.1mm	
9	調査区1	合層(下)	弔生器 怀窓	(2.8)	2.1mm 2.3	-	圓錐ナメ 目録文・ラメ	灰白 SY7/1	灰白 SY7/1	長石・石英	
10	調査区1	合層(暗灰土)	弔生器 怀窓	(0.9)	(10.9)	-	圓錐ナメ 自然釉 ケズリ	灰白 N7	灰白 N7	長石 0.1mm 石英 0.1mm	
11	調査区1	合層(暗灰色土)	弔生器 怀窓	2.0	(16.8)	-	外側:圓錐ナメ 内側:圓錐ナメ	灰白 25Y7/1	灰白 25Y6/1	0.5~1.0mmの長石	
12	調査区1	合層(暗灰色土)	弔生器 怀窓	(0.7)	(17.0)	-	外側:圓錐ナメ 内側:圓錐ナメ	灰白 SY7/1	灰白 SY7/1	0.5~3.0mmの長石	
13	調査区1	種子層(暗灰土質)	弔生器(觀?)	(3.3)	-	-	圓錐ナメ ケズリ・ラメ	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	灰石有り	泥干
14	調査区1	合層(暗灰土質)	弔生器 件	(1.8)	-	-	ナメナス	灰 N6	灰 N6	長石	
15	調査区1	合層(下)	弔生器 因縫	(2.5)	-	-	圓錐ナメ 因縫	灰白 10Y7/1	灰白 10Y7/1	0.1mm程の長石有り むずかしく食入	
16	調査区1	合層(暗灰色土)	弔生器 大差	(0.3)	(40.2)	-	圓錐文 因縫文	灰白 N7	灰白 N7	長石	
17	調査区4	合層	弔生器 怀窓	5.0	(9.3)	-	圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰白 N7	灰白 N7	長石 0.1mm	
18	調査区4	合層	弔生器 怀窓	3.9	(10.8)	-	外側:圓錐ナメ 内側:圓錐ナメ	灰 N6	灰 N6	長石 0.5~3.0mm	
19	調査区4	合層	弔生器 怀窓	(5.2)	(10.0)	-	外側:圓錐ナメ 内側:圓錐ナメ	灰 N5	灰 N6	長石 0.5~3.5mm含む	
20	調査区4	合層	弔生器 怀窓	4.1	11.4	-	圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰 N6	灰白 N7	長石 0.2mm	
21	調査区4	合層	弔生器 怀窓	4.5	(12.4)	-	圓錐ナメ 内側:圓錐ナメ	灰白 N5	灰白 N6	長石 0.3mm	
22	調査区4	合層	弔生器 怀窓	4.8	(11.4)	-	圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰 N6	灰 N6	むずかしく微細な長石含む	
23	調査区4	合層	弔生器 怀窓	(4.0)	(12.9)	-	外側:圓錐ナメ 内側:圓錐ナメ	黄灰 2.5Y5/1	灰白 N7	長石 0.5~3.0mm	
24	調査区4	合層	弔生器 怀窓	4.9	(12.4)	-	圓錐ナメ 内側:圓錐ナメ	灰白 N7	灰白 N7	長石 0.1~1mmの長石を含む	
25	調査区4	合層	弔生器 怀窓	4.7	10.8	-	圓錐ナメ 内側:圓錐ナメ	灰 N6	灰 N6	長石 0.5~3.0mm	
26	調査区4	合層	弔生器 怀窓	(4.0)	(10.9)	-	圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰白 N1	灰白 N7	長石	
27	調査区4	合層	弔生器 怀窓	3.6	(10.4)	(5.4)	圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	青灰 5PDS/1	青灰 5PDS/1	0.1~2mm人の長石を含む	
28	調査区4	合層	弔生器 怀窓	3.0	(11.0)	-	圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
29	調査区4	合層	弔生器 怀窓	3.9	(11.5)	-	内面:圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰灰 7.5YR6/1	灰灰 7.5YR6/1	0.5~2.0mmの長石	
30	調査区4	合層	弔生器 怀窓	4.1	(11.0)	-	圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰白 N7	灰白 N7	長石・石英	
31	調査区4	合層	弔生器 怀窓	(4.4)	(12.0)	-	外側:圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰白 SY7/1	灰白 SY7/1	0.2~2.0mmの長石	
32	調査区4	合層	弔生器 怀窓	4.3	(13.8)	-	外側:圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰 N6	灰 N6	2mm前後の石英 1~4mmの長石	
33	調査区4	合層	弔生器 怀窓	(4.0)	(11.2)	-	外側:白自然 内面:圓錐ナメ	灰オリーブ 7.5Y4/2	灰白 N7	1.0~40mmの長石	
34	調査区4	合層	弔生器 怀窓	4.5	11.6	-	圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
35	調査区4	合層	弔生器 怀窓	(1.2)	3.5	-	外側:圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰 SY6/1	灰 SY6/1	0.5~2.0mmの長石 つまみ部分のみ	
36	調査区4	合層	弔生器 离窓	(4.0)	(12.0)	-	外側:圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰 SY6/1	灰 SY6/1	0.1~0.5mmの長石	
37	調査区4	合層	弔生器 离窓	(5.1)	(11.5)	-	外側:圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰 N6	灰 N6	0.5~2.0mmの長石	
38	調査区4	合層	弔生器 离窓	(7.4)	-	-	圓錐ナメ 内面:圓錐ナメ	灰白 N6	灰白 N6	長石 0.1mm G石 0.1mm	調査区段落 上

番号	調査区名	測線名・場所	器種	計量 (cm)	測定	色調		地主	備考
						外側	内側		
39	調査区4	包含層	網走器 高杯	(8.1) (12.5)	-	網走ナダ 近縁ヘリケツリ	灰白 N7 灰 N6	灰白、石英	
40	調査区4	包含層	網走器 鋼部のみ	(3.8)	-	(9.6)	網走ナダ	灰白 N7 灰 N6	長石
41	調査区4	包含層	網走器 高杯	(6.3)	-	9.4	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 圓窓ナダ	灰 N6 灰 N6	長石 0.5~20mm 長石 0.5~20mm
42	調査区4	包含層 (下)	網走器 高杯	9.0	-	(11.1)	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 圓窓ナダ	灰 N6 灰 N6	長石 0.5~20mm 長石 0.5~20mm
43	調査区4	表層	網走器 合付	(7.5)	-		網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N6 灰 N6	長石 0.5mm~45mm
44	調査区4	包含層	網走器 (鉛)	(6.6)	-		網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N6 灰 N6	長石
45	調査区4	包含層 (下)	網走器 (鉛)	(5.7)	-		網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N6 灰 N6	長石、石英
46	調査区4	包含層	網走器 (鉛)	(6.0)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N6 灰 N6	長石
47	調査区4	包含層	網走器 鉛	(6.5)	(6.5)	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N6 灰 N6	0.5~20mmの長石
48	調査区4	包含層	網走器 反延 帶	10.9	(7.0)	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N6 灰 N6	長石、石英
49	調査区4	包含層 (下)	網走器 鉛	(5.9)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 網走ナダ	灰 N7 灰 N7	長石 0.5~10mm 黒色粘物
50	調査区4	土壤2強土	網走器 鉛	(9.1)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N6 灰 N6	0.1~2mmの長石を含む
51	調査区4	海水浴	網走器 鉛	(1.9)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰白 N7 灰 N5	長石 0.2mm
52	調査区4	土壤2強土	網走器 開拓 帶	(1.0)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰白 N7 灰白 N7	0.1~1mmの長石を含む
53	調査区4	土壤2強土	網走器 開拓 帶	(1.0)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰白 N7 灰白 N7	0.5mm程度の長石を含む
54	調査区4	包含層	網走器 白石 帶	(8.9)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N4 灰白 N7	長石 0.2mm
55	調査区4	気泡層	網走器 鉛	10.6 (14.0)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N5 灰白 N7	長石 0.5~30mm
56	調査区4	包含層	網走器 2.5 cm	(3.4)	-	2.1	外面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N6 灰 N6	0.5mmの長石 ミクテニア 口部膨大
57	調査区4	包含層	網走器 鉛	(4.8)	(16.0)	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰白 25Y7/1 灰白 10Y6/1 灰白 10Y6/1	25Y1 0.5~ 25Y1 0.5~ 25Y1 0.5~ 25Y1 0.5~ 25Y1 0.5~ 25Y1 0.5~
58	調査区4	海水浴	網走器 大潮	45.0	21.0	-	タキ子貝タキのちカ 日吉 盆底	灰白 N7 灰白 N7	長石
59	調査区4	表層	網走器 大潮	(10.6)	-	-	外面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	黃灰 25Y6/1	淡黄灰 0.1~0.5mmの長石
60	調査区4	往昔層	網走器 鉛	(5.6)	-	-	外面: 斜行文、ラジ状工具 による穿孔?	灰白 25Y7/1 25Y7/1	0.5mmの長石
61	調査区4	包含層	網走器 黒	(6.7)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰 N6 灰 N6	長石 0.3mm
62	調査区4	包含層	網走器 黒	(5.3)	-	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰白 N7 灰白 N7	黑色粘物 長石 0.5~30mm
63	調査区4	包含層	網走器 黒	(5.4)	-	-	外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ 内面: 四輪ナダ 外面: 網走ナダ	灰白 N6 灰白 N7	0.5~20mmの長石 ヘラジサ
64	調査区4	土壤2強土	網走器 黒	(3.7)	-	-	タキ子貝タキ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	灰白 5Y7/1 灰白 5Y7/1	0.2mm~0.5mmの長石 ヘラジサ
65	調査区4	包含層	網走器 黒	(7.5)	-	-	タキ子貝タキ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	灰白 N7 灰白 N7	長石 0.1mm 單輪文
66	調査区4	包含層	網走器 黒	(29.8)	-	-	タキ子貝 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	5Y2R/1 灰白 N7	長石
67	調査区4	包含層	網走器 黒	(12.6)	-	-	タキ子貝 カキ目 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	灰白 N7 5G7/1	長石 等輪文
68	調査区4	往昔層	網走器 こね 鉢	(7.6)	-	-	四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	灰白 N7 灰白 N7	長石
69	調査区4	土壤2強土	網走器 不明	(3.2)	-	-	捲管ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	灰白 N7 灰白 N7	45度
70	調査区6	中砂	網走器 鮎層	3.5 (10.8) (5.6)	-	-	内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	灰 N5 灰 N5 灰 N5 灰 N5 灰 N5 灰 N5 灰 N5	10Y6/1 長石 0.5~20mm
71	調査区5	灰褐色粘質土層	網走器 高杯	(5.1)	-	9.8	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	灰白 N6 灰白 N6	0.5~20mmの長石 網走のみ
72	調査区12	未土	網走器 平板	(9.7)	7.0	-	網走ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	灰白 10Y7/1 10Y7/1	長石
73	調査区17	F層	網走器 平板	(5.0)	5.4	-	ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ 内面: 四輪ナダ	灰 N6 灰 N6	長石

番号	調査区名	測定名・標位	岩種	法性 (m)			隔壁	地質		粘土	備考
				外層	中層	内層		外層	内層		
74	調査区5	灰褐色粘土岩	土器器 壺	(123)	(148)	-	外層: リンガナ 内層: オサギ・ハケ 内層: クスメリ→板ナガ	泥 灰 板ナガ	7SYR7/6 10YR8/2	灰岩 灰岩 灰岩	0.1~1mmの石英・長 石 赤母、赤色粒子含む
75	調査区9	混合層	混合器 杯盤	(4.1)	(122)	-	外層: 以板ナガ 内層: 板ナガ	灰 N6	灰白 N7	0.1から1cmの大 きな長石含む	
76	調査区9	大溝層	須恵器 杯盤	37	(9.5)	-	外層: 以板ナガ 内層: 板ナガ	灰白 25YR8/1	灰 25Y7/2	0.5mmの赤色粒子 0.5~10mmの石英・長石	
77	調査区9	大溝層上	須恵器 杯盤	(21)	-	-	外層: 以板ナガ 内層: ナガ	灰 5YR6/1	灰 5YR6/1	0.2~0.5mmの石英・長石	
78	調査区9	瓦片層	須恵器 杯盤	32	(16.0)	-	外層: 陶軸ナガ 内層: 圆軸ナガ	灰 5YR6/1	灰白 5Y7/1	10mmの大石英・長石	
79	調査区9	混合層	須恵器 杯盤	30	(14.8)	-	圓軸ナガ ナガ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
80	調査区9	大溝層	須恵器 杯盤	30	15.6	-	圓軸ナガ 圓軸ナガケズリ	灰 5YR6/1	灰白 5Y7/1	長石 0.1mm 長英 0.1mm	
81	調査区9	大溝層上	須恵器 杯盤	(22)	29	-	圓軸ナガ 圓軸ナガケズリ	灰白 5YR7/1	灰白 5Y7/1	長石・石英	
82	調査区9	大溝層上	須恵器 杯盤	41	(12.2)	(6.0)	外層: 陶軸ナガ 内層: 陶軸ナガ	灰L1 5YR7/1	灰 5Y6/1	0.2~10mmの長石	
83	調査区9	大溝層上	須恵器 杯身 (高台付)	31	(13.8)	8.0	圓軸ナガ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
84	調査区9	混合層	須恵器 杯身 (高台付)	33	(13.0)	(0.5)	圓軸ナガ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
85	調査区9	混合層	須恵器 杯身 (高台付)	43	13.8	10.4	板ナガ ナガ	黄灰 25Y7/1	灰 25Y7/2	0.1~2mmの大 石英・長石含む	
86	調査区9	大溝層	須恵器 杯身 (高台付)	45	(17.8)	(11.2)	外層: 陶軸ナガ 内層: 陶軸ナガ 内層: 陶軸ナガ	灰 10YR7/2	灰 10YR7/2	灰英 1.5mm 長石 0.5mm	
87	調査区9	大溝層上	須恵器 杯身 (高台付)	67	13.9	11.9	外層: 陶軸ナガ 内層: 陶軸ナガ 内層: 陶軸ナガ	灰白 25Y7/1	灰白 25Y7/1	長石 0.5~4.0mm 長石 0.2mm	
88	調査区9	大溝層	須恵器 直	34	(17.8)	(14.0)	外層: 陶軸ナガ 内層: 陶軸ナガ 内層: 陶軸ナガ	灰白 25Y7/1	灰白 25Y7/1	長石 0.5~4.0mm 長石 0.2mm	
89	調査区9	混合層	須恵器 井	(6.5)	(11.8)	-	圓軸ナガ	灰白 N5	灰白 N5	長石	
90	調査区8	大溝層上	須恵器 平底	(5.0)	-	-	圓軸ナガ 圓軸ナガケズリ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
91	調査区9	大溝層上	須恵器 瓢	(4.0)	(8.1)	-	ナガ ナガケズリ	灰白 7SY7/1	灰白 7SY7/1	長石・石英	
92	調査区9	混合層	須恵器 瓢	(5.3)	(25.3)	-	試験ナガ	灰白 N7	灰白 7SY7/1	長石 0.1mm	
93	調査区9	大溝層	須恵器 大壺	(7.6)	(39.2)	-	外層: 陶軸ナガ 内層: リンガナ 内層: 陶軸ナガ	灰 5Y6/1	灰白 5Y7/1	0.2~20mmの長石	
94	調査区9	混合層	須恵器 瓢	(8.7)	-	-	外層: 陶軸ナガ 内層: 陶軸ナガ	灰 5Y5/1	灰 5Y6/1	0.2~0.5mmの長石	
95	調査区9	大溝層	土師器 把子	(6.8)	(8.5)	-	指ナガ ナガ ナガ 指ナガ 指ナガ	灰 7SYR7/4 7SYR7/4 7SYR7/4 7SYR7/4	灰 7SYR7/4 7SYR7/4 7SYR7/4 7SYR7/4	長石・石英・漂 石 長石・石英 長石・石英 長石・石英	
96	調査区9	混合層	土師器 壺	(10.7)	(8.0)	-	外層: 陶軸ナガ 内層: 陶軸ナガ	灰 7SYR7/4	灰 7SYR7/4	0.5~1mmの長石	
C1	調査区1	瓦片層(下)	土製品 壺 (陶馬?)	(6.0)	3.1	2.6	指ナガ 指ナガ	灰 10YR7/3	灰 10YR7/3	0.5~1mmの長石 長石	歴史(馬)?
C2	調査区1	瓦片層	土製品	(5.3)	3.7	1.6	深削	灰 25Y8/3	灰 25Y8/3	長石・石英	歴史部分

## 山田辻畠遺跡 遺物観察表

番号	測量区名	遺物名・層位	器種	注量 (cm) 幅(高さ) 口径 底径	調査	色調			粘土	備考
							外面	内面		
97	調査区3	貝塚上層	縄文土器 鋸	(2.9)	-	ナゲ 鋸み目	浅黄 5Y7/3	深黄 5Y7/3	灰石 0.1 mm 黄土 0.05 mm	-
98	調査区3	表土～包帯層	縄文土器 漆跡	(7.0)	-	内面：ナゲ	に赤い黃褐色 10YR7/3	に赤い黃褐色 10YR7/3	0.5～2.0 mmの石英・灰石 赤色斑	0.5 mmの黒色板物
99	調査区3	貝塚下層	縄文土器	(2.7)	-	ナゲ	黒 7SYR2/1	7SYR6/3	灰石 0.2 mm 石英 0.1 mm	-
100	調査区3	貝塚下層	縄文土器	(2.9)	-	ナゲ	黒 7SYR2/2	7SYR6/4	灰石 0.2 mm 石英 0.2 mm	-
101	調査区3	貝塚下層	縄文土器	(2.3)	-	ナゲ	黒 7SYR2/3	7SYR6/5	灰石 0.2 mm 石英 0.3 mm	-
102	調査区3	表土～包帯層	漆跡土器 萬字	(8.8)	-	外観：シガキ オー5条の くし縫合縦文 内面：シボリ漆 ハサケズ リ	に赤い黃褐色 10YR7/4	に赤い黃褐色 10YR7/4	0.5～2.0 mmの石英・灰石 漆跡のみ	-
103	調査区3	表土～包帯層	乳生土器 跡	(7.2) (22.2)	-	内面：ハラケズリ ナゲ	に赤い黃褐色 10YR7/3	石英 赤色粒子	-	口縫跡のみ
104	調査区3	包帯層	土器	(6.9)	(13.4)	磨耗している	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1	灰石・石英	-
105	調査区3	貝塚	漆器 板身 (萬字)	4.2	(14.7)	外観：白駄ナゲ ナゲ 内面：白駄ナゲ ナゲ	灰 5Y3/1	灰 5Y3/1	0.5～2.0 mmの灰石	-
106	調査区3	灰土～包帯層	瓦質・須	(4.1)	-	瓦ナサエ ナゲ	暗灰 M1 ナゲ	灰石・石英・鐵は	-	-
107	調査区3	包帯層	土器器 旗	(6.7)	-	(11.8) ナゲ 陶オサエ	に赤い黃褐色 10YR7/4	被 7SYR7/6	0.1～1 mmの石英・長 石 赤色粒子合む	-
C3	調査区3	表土～包帯層	土器器 土器	35	11	10	陶オサエ	灰 7SY4/1 灰 7SY4/1	灰石 0.2 mm 石英 0.1 mm 赤色粒子 0.1 mm	-

## 大谷口遺跡 石器観察表

番号	測量区名	遺物名・層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
S1	調査区4	表土 (包帯層)	石劍	20	16	0.2	0.75	サヌカイト
S2	調査区9	表土 (包帯層)	石劍	21	15	0.3	0.83	サヌカイト
S3	調査区4	人道溝上	石劍	28	15	0.4	2.12	サヌカイト
S4	調査区4	人道溝 (包帯層)	石劍	30	15	0.2	1.54	サヌカイト



1 福里遺跡  
調査区 1 完掘状況  
(南から)



2 福里遺跡  
調査区 2 土壠 1 調査状況  
(西から)



3 福里遺跡  
調査区 2 完掘状況  
(北から)

図版2



1 福里遺跡  
調査区 3 完掘状況  
(南から)



2 福里遺跡  
調査区 3 W 完掘状況  
(南から)



3 福里遺跡  
調査区 4 完掘状況  
(北から)

1 福里遺跡  
調査区4 東壁土層断面  
(北端部分西から)



2 福里遺跡  
調査区4 W 完振状況  
(南から)



3 福里遺跡  
調査区3 重模掘下げ状況  
(北から)



## 図版4



1 大谷口遺跡  
調査区北部近景  
(南東から)

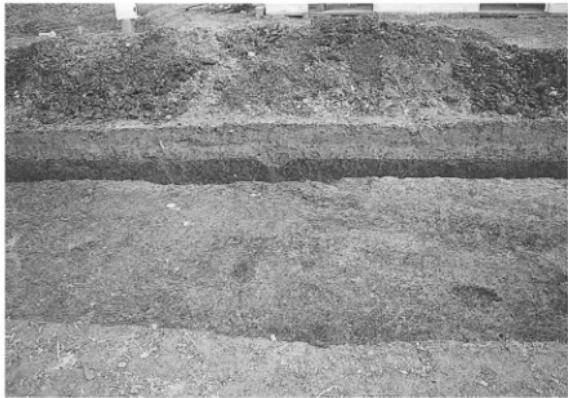


2 大谷口遺跡  
調査区中央部近景  
(北から)



3 大谷口遺跡  
調査区南部近景  
(北から)

1 大谷口遺跡  
調査区 1-1 東壁土層断面  
(西から)



2 大谷口遺跡  
調査区 1-1 西壁土層断面  
(東から)



3 大谷口遺跡  
調査区 1-2 西壁土層断面  
(東から)



## 図版6



1 大谷口遺跡  
調査区 2 北壁土層断面  
(南から)



2 大谷口遺跡  
調査区 3 完掘状況  
(北から)



3 大谷口遺跡  
調査区 4-2 完掘状況  
(南から)

1 大谷口遺跡  
調査区 4-2 遺物出土状況  
(北から)



2 大谷口遺跡  
調査区 4-2 遺物出土状況  
(北東から)



3 大谷口遺跡  
調査区 4-2 遺物出土状況  
(東から)



図版 8



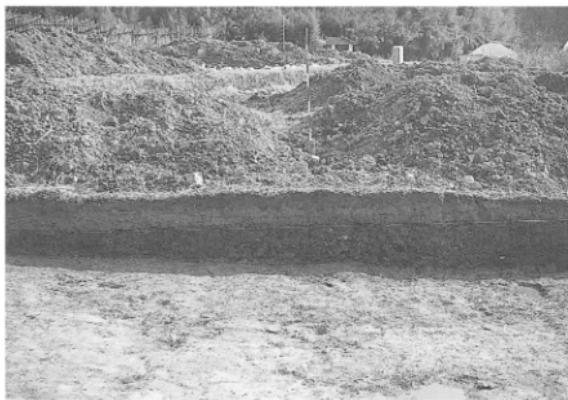
1 大谷口遺跡  
調査区 4-2 炭化物検出状況  
(西から)



2 大谷口遺跡  
調査区 4-2 破壊集中状況  
(北から)



3 大谷口遺跡  
調査区 4-1 調査状況  
(西から)



1 大谷口遺跡  
調査区 5 南壁土層断面  
(北から)



2 大谷口遺跡  
調査区 6・1 完掘状況  
(南から)



3 大谷口遺跡  
調査区 6・2 完掘状況  
(北から)

図版 10



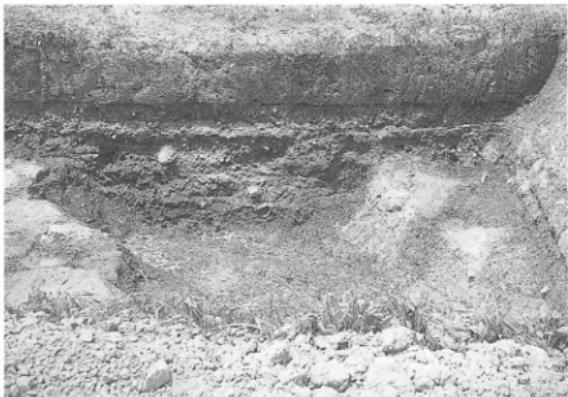
1 大谷口遺跡  
調査区 7 完掘状況  
(西から)



2 大谷口遺跡  
調査区 8 柱穴 1 断面  
(東から)



3 大谷口遺跡  
調査区 9 完掘状況  
(東から)



1 大谷口遺跡  
調査区 9 西壁土層断面  
(東から)



2 大谷口遺跡  
調査区 10 実掘状況  
(北東から)



3 大谷口遺跡  
調査区 11 東壁土層断面  
(西から)

図版 12



1 大谷口遺跡  
調査区 12 完掘状況  
(北から)



2 大谷口遺跡  
調査区 12 東壁土層断面  
(南西から)



3 大谷口遺跡  
調査区 13 東壁土層断面  
(南西から)

1 大谷口遺跡  
調査区 14 西壁土層断面  
(南東から)



2 大谷口遺跡  
調査区 15 完掘状況  
(南から)



3 大谷口遺跡  
調査区 15 西壁土層断面  
(北東から)



図版 14



1 大谷口遺跡  
調査区 16 完掘状況  
(北東から)



2 大谷口遺跡  
調査区 16 西壁土層断面  
(南東から)



3 大谷口遺跡  
調査区 17 東壁土層断面  
(南西から)



1 北池向遺跡  
調査区 1 調査状況  
(北西から)



2 北池向遺跡  
調査区 2 完掘状況  
(北から)



3 北池向遺跡  
調査区 3 完掘状況  
(南から)

図版 16



1 北池向遺跡  
調査区 3 土壌完掘状況  
(西から)



2 北池向遺跡  
調査区 5 完掘状況  
(北から)



3 北池向遺跡  
調査区近景  
(東から)



1 山田辻畠遺跡遠景  
(南西から)



2 山田辻畠遺跡  
調査区 1  
(南東から)



3 山田辻畠遺跡  
調査区 1  
(南から)

図版 18



1 山田辻畠遺跡  
調査区2 東壁土層断面  
(南西から)



2 山田辻畠遺跡  
調査区2 完掘状況  
(東から)

1 山田辻烟遺跡  
調査区 1・2 近景  
(北東から)



2 山田辻烟遺跡  
調査区 3 土壌 1 検出状況  
(南から)



3 山田辻烟遺跡  
調査区 3 土壌 1 完掘状況  
(南から)



図版 20



1 山田辻畠遺跡  
調査区 3 完掘状況  
(北から)



2 山田辻畠遺跡  
調査区 3 貝塚検出状況  
(北から)



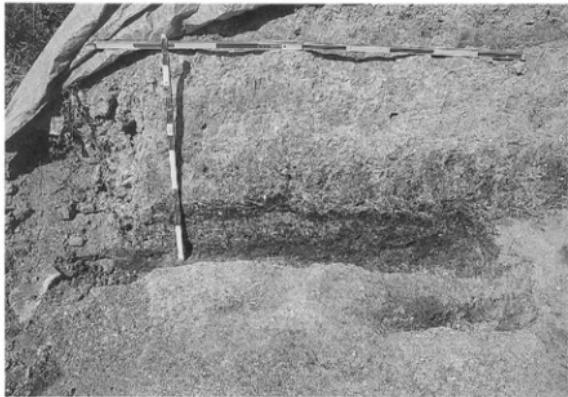
3 山田辻畠遺跡  
調査区 3 貝塚検出状況  
(南から)



1 山田辻畠遺跡  
調査区 3 貝塚調査状況  
(北から)



2 山田辻畠遺跡  
調査区 3 貝層断面  
(東から)



3 山田辻畠遺跡  
調査区 3 西壁土層断面  
(東から)



1 山田辻畠遺跡  
調査区 4 完掘状況  
(東から)



2 山田辻畠遺跡  
調査区 5 完掘状況  
(東から)



3 山田辻畠遺跡  
調査区 5 北壁土層断面  
(南から)



大谷口遺跡 調査区 1 出土遺物



大谷口遺跡 調査区 4 出土遺物 (1)



25



37



34



42



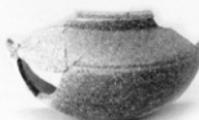
35



44



45



48



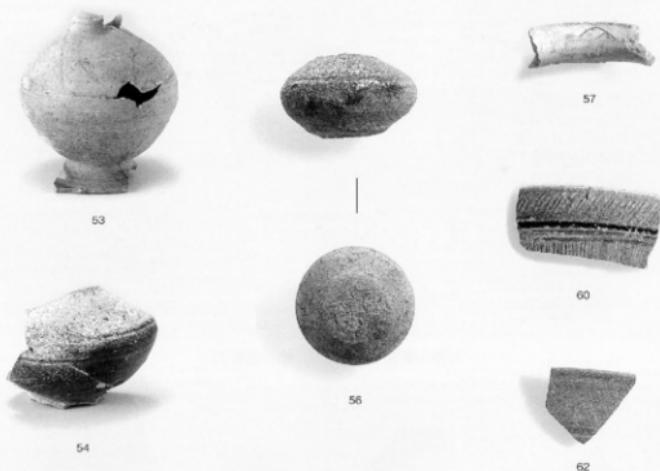
49



50



51



大谷口遺跡 調査区 4 出土遺物 (3)

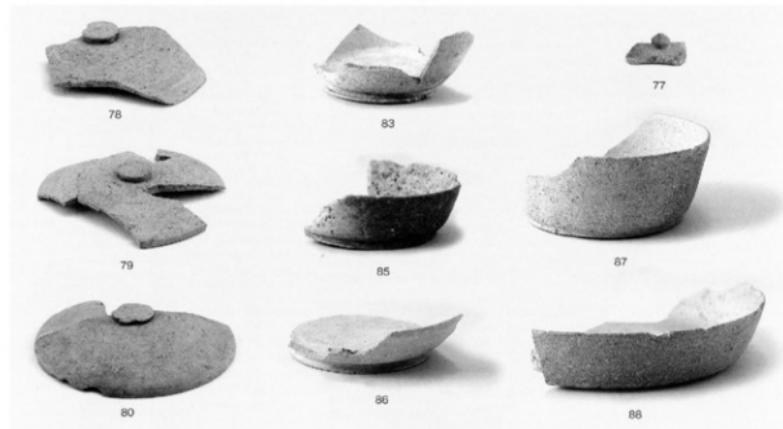
図版 26



大谷口遺跡 調査区 4 出土遺物(4)



大谷口遺跡 調査区 5・6・12・17



大谷口遺跡 調査区 9 出土遺物 (1)



大谷口遺跡 調査区 9 出土遺物 (2)

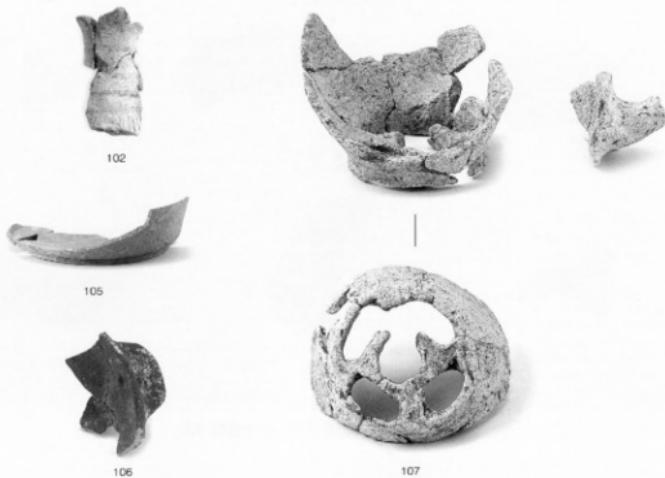


大谷口遺跡 出土石器



山田辻畠遺跡 調査区 3 出土遺物 (1)

図版 28



山田辻畠遺跡 調査区3 出土遺物 (2)



参考資料 亀ヶ原1号窯跡 出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	ふくさといせき・おおたにぐちいせき・きたいけむかいせき・やまだつこはたいせき						
書名	福里遺跡・大谷口遺跡・北池向遺跡・山田辻畠遺跡						
副書名	瀬戸内市道南北線新設工事に伴う発掘調査						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	大谷博志・白石 純						
編集機関	瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会						
所在地	〒701-4392 岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓 4911 TEL 0869-34-5604						
発行年月日	2009年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	測定面積 m <sup>2</sup>	調査原因
市町村	遺跡番号	°	'	"			
ふくさといせき 福里遺跡	岡山県瀬戸内市 市長船町土師 1252-1 ほか	33212	34° 69° 57"	134° 11' 75"	2007.10.29 ~ 2008.2.1	373	瀬戸内市道 南北線新設 工事に伴う 発掘調査
おおたにぐちいせき 大谷口遺跡 (北池東田遺跡)	岡山県瀬戸内市 市長船町土師 1776 ほか		34° 68° 51"	134° 11' 50"	2008.2.1 ~ 2008.6.9	1,082	
ほくさといせき 北池向遺跡	岡山県瀬戸内市 市邑久町山手 300 ほか		34° 68° 10"	134° 11' 05"	2007.10.1 ~ 2007.11.6	100	
やまだつこはたいせき 山田辻畠遺跡	岡山県瀬戸内市 市邑久町山手 2030 ほか		34° 67° 17"	134° 10' 51"	2008.5.21 ~ 2008.9.5	268	
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
ふくさといせき 福里遺跡	散布地	古墳時代	柱穴	須恵器、土師器			
おおたにぐちいせき 大谷口遺跡 (北池東田遺跡)	散布地	弥生時代 古墳時代 古代 中世 古墳時代	溝、土壤	弥生土器、須恵器円面鏡、 杯・甕、鹿蹠 石鏡	散布地同斜面山腹に複数の須恵器座の存在が うかがえる。		
ほくさといせき 北池向遺跡	散布地						
やまだつこはたいせき 山田辻畠遺跡	集落	绳文時代 弥生時代 古代 中世	貝塚	绳文土器、甕、須恵器	当遺跡で初めて貝塚を 確認する。		

瀬戸内市埋蔵文化財発掘調査報告2

福里遺跡  
大谷口遺跡  
北池向遺跡  
山田辻畠遺跡

瀬戸内市道南北線建設に伴う発掘調査

平成21年3月31日 印刷

平成21年3月31日 発行

編集・発行

瀬戸内市教育委員会

瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会

瀬戸内市牛窓町牛窓4911

印刷 友野印刷株式会社

